

平成 30 年 2 月 15 日

安 曇 野 市 教 育 委 員 会

平成 30 年 2 月定例会

会 議 議 案

安曇野市教育委員会

議案第 1 号	教育部 生涯学習課
平成 30 年 2 月 15 日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当) 古畑 瑞恵

タイトル	第 2 次安曇野市生涯学習推進計画について
決定を要する事項の内容	計画の決定
要旨	「第 2 次安曇野市生涯学習推進計画」の策定に向け、庁内会議や策定委員会で協議を行い、素案のパブリックコメント（12/20～1/19）を実施しました。最終案が完成しましたので、その内容について御意見をいただきたいと考えています。
説明	1 計画の法的位置付け 生涯学習に関して長野県は「第 2 次長野県教育振興基本計画」のなかで「学びの成果が生きる生涯学習の振興」を基本施策に掲げ取組みを行っている。当市では、平成 21 年度～29 年度の期間で生涯学習推進計画（第 1 次計画）を策定したが、その期間が終了するため、新たな計画を策定する必要がある。 2 第 1 次計画（H21～H29 年度）の総括 ①各種施策に基づき事業を実施してきたが、生涯学習という多岐に渡る分野のなか、各施策指標についてはその施策の成果を測り得る十分な指標になっているか、またその成果を捉えるための指標になっているか、ということが課題となった。 ②市民アンケートの結果から、生涯学習を必要だと思いながら取り組めていない方が少なからずいること、そこにある妨げ要因を解消することが大きな課題だと思われる。主な妨げ要因として「仕事・学校が忙しい」「きっかけがない」「情報がない」「費用がかかる」の項目がアンケート結果上位に挙がっている。 3 市民意見の把握 ①H28. 11 月 市民アンケート（2,500 人に配布）を実施 回収数 800 通 回収率 32% ②策定委員会（市民等 15 人）を 7 回開催（H29. 4 月～H30. 2 月） ③パブリックコメントの実施（H29. 12. 20～H30. 1. 19） ※上記の会議などで検討を重ね、別冊の最終案を作成した。 なお、上記のほかに、庁内会議を 4 回開催（H28. 9 月～H29. 7 月）。

4 最終案（別冊）の概要

①期間は平成 30 年度～平成 39 年度の 10 年間

※市の総合計画の期間と同様

※当面の 5 年で実施する内容の明確化

②基本理念『ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる』

③ライフステージごとのスローガン

◆24 歳以下

『夢・未来へ 学びで新しい自分や仲間と出会おう』

◆25～44 歳

『家族も地域も みんなで楽しく学び合おう』

◆45～64 歳

『学びでリフレッシュ！ 自分を磨き、社会に役立てよう』

◆65 歳以上

『学びながら生きる 次代の安曇野人を育もう』

④施策の内容は 10 項目（詳細は別冊の 14 ページ以降を参照）

5 パブリックコメントについて

※安曇野市自治基本条例第 19 条及び安曇野市パブリックコメント手続実施要綱に基づき実施。

①期 間：平成 29 年 12 月 20 日～平成 30 年 1 月 19 日

②実施状況：意見提出なし

6 今後の日程等

H30. 2 月 部長会議

H30. 4 月 冊子、概要版の印刷（完成後、市民や関係団体等へ周知）

7 市民等への周知方法（予定）

①ホームページ、広報、市民説明会

②社会教育委員の会議での説明

③市内小中学校及び高等学校への周知

④地域公民館、図書館などに配布 ほか

平成 30 年 2 月 15 日開催
教育委員会 2 月定例会 資料

第2次
安曇野市生涯学習推進計画
【案】

平成 30 年3月

安 曇 野 市

はじめに

安曇野市では平成 21 年度に『安曇野市生涯学習推進計画』を策定し、「あなたが 主役 とともに創ろう とともに学び とともに支え合う 生涯学習のまち」を基本理念に据えて、生涯学習の推進に努めてまいりました。平成 26 年度の改定を経て、平成 29 年度で所定の計画期間を満了することに伴い、施策目標の達成状況を検証した結果、多くの項目で目標を達成していることが確認できました。

しかし現状において「生涯学習」という言葉が市民の皆さんに十分に浸透し、誰もが生涯学習に取り組んでいるかということと必ずしもそうでない面もあります。本計画の策定に際し実施したアンケート結果からもそのことが読みとれます。

行政としても、市民の皆様の生涯学習を支える環境や体制づくり、さらにはその成果が生かせる場やしくみづくりなど、この活動を広げていくためにまだまだ取り組むべき施策も多数あるものと認識しています。

今後、より多くの市民の皆様に「生涯学習」の意義を知っていただき、人生を通して継続的に取り組み、自身のため、家族のため、地域のためにその成果を生かしていただけるよう、行政のみならず、各種組織・団体とも連携を図りながら、生涯学習の取り組みを後押ししていく考えです。

その道しるべとしてここに、「ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる」を新たな基本理念に据えた『第 2 次安曇野市生涯学習推進計画』を策定し、生涯学習のさらなる推進に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提言を賜りました第 2 次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました市民の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

安曇野市長 宮澤 宗弘

目 次

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義	2
1.2 生涯学習の意義と役割	2
1.3 生涯学習推進計画の策定の趣旨と背景	3
1.4 本計画の位置付けと性格	3
1.5 本計画の対象期間	3

第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化	4
2.2 行政の生涯学習に関する取り組み動向	5

第3章 生涯学習に関する市民の意識と実態

3.1 全体の傾向 ～アンケート結果のグラフから読む～	8
3.2 ライフステージごとの特徴 ～アンケート結果の年齢による違いに着目～	11

第4章 生涯学習の基本理念とスローガン

4.1 上位計画の目標等	12
4.2 生涯学習の基本理念	13
4.3 ライフステージごとの生涯学習のスローガン	13

第5章 生涯学習の推進に向けた施策展開

5.1 学習機会の充実	14
5.2 学習成果の活用	40

第6章 本計画の進め方

6.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～	52
6.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～	54

付属資料

資料1 計画策定の主な経過	59
資料2 計画策定に係る委員会等	60
資料3 用語解説	66

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義

「生涯学習」とは、乳幼児期から高齢期まで人生の各段階で、個人や家庭、職場、地域社会に生じる課題等に応じて、自己実現や社会貢献、地域の課題解決を目指し、自発的意思に基づいて行うことを基本とした学習活動です。

その活動内容は幅広く、学校や職場、行政や公民館活動などで意図的・組織的に行われる学習活動のみならず、個人や家族、仲間と日常的に行うスポーツ活動、文化活動、趣味・レクリエーション活動、さらにはボランティア活動、企業内教育なども含まれ、活動の場は、家庭や学校、職場から地域社会に至るまで広範囲に及ぶものです。

1.2 生涯学習の意義と役割

生涯学習は、何かを学ぶこと、楽しむことで一人ひとりの人生を生きがいのある充実したものにするだけでなく、学びを通じて人と人とがつながり、お互いに尊重し合い、交流を深めながら、皆が幸せと誇りを感じられる、豊かで住みよい地域社会の構築に資する役割も期待されています。



1.3 生涯学習推進計画の策定の趣旨と背景

安曇野市生涯学習推進計画（以下「第1次計画」という）は、本市の生涯学習を計画的かつ総合的に進めるために平成21年8月に策定しました。

第1次計画は平成21年度から平成29年度までの9年間を対象とし、前期を平成21年度から平成24年度の4か年、後期を平成25年度から平成29年度の5か年としていましたが、本市の組織の改編と運用実績を踏まえ、後期を平成27年度から平成29年度の3か年に変更して、平成26年度に計画改定を行いました。

平成29年度をもって第1次計画の対象期間が満了することに伴い、『第2次安曇野市生涯学習推進計画』（以下「本計画」という）を策定することとしました。

1.4 本計画の位置付けと性格

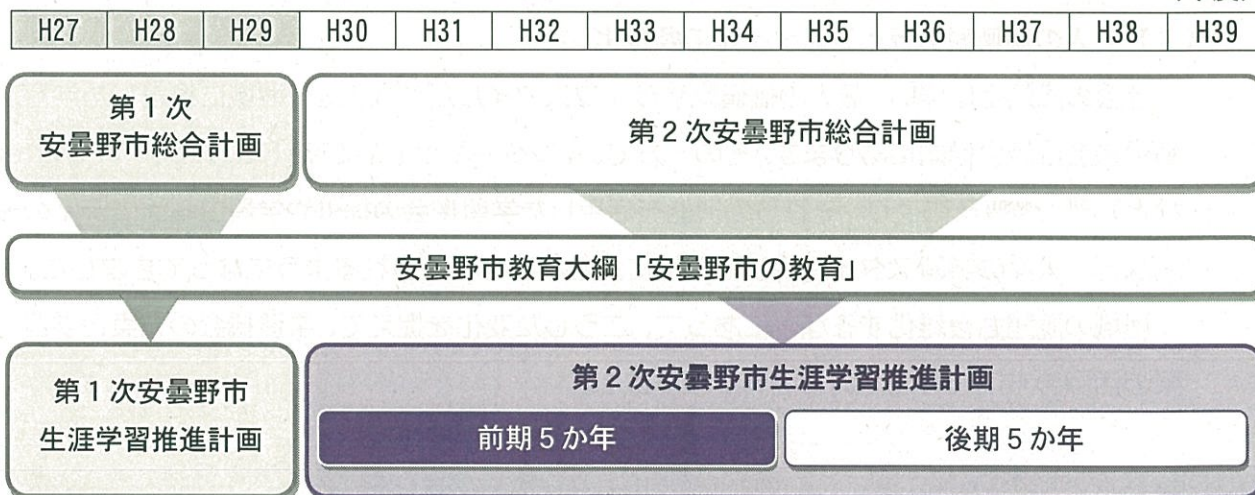
本計画は『第2次安曇野市総合計画』（平成29年度策定、以下「総合計画」という）や安曇野市教育大綱「安曇野市の教育」（平成27年度策定、以下「教育大綱」という）を上位計画として、本市における生涯学習に関わるすべての取り組みの指針となるものです。

したがって、総合計画との整合を図るとともに、関連する諸計画とも連携して、生涯学習の推進を図るものとします。

1.5 本計画の対象期間

本計画の対象期間は総合計画に合わせて、平成30年度から平成39年度までの10か年とします。平成30年度から平成34年度までの5か年を前期、平成35年度から平成39年度までを後期とし、平成34年度には前期の課題や進捗状況等を踏まえて、計画の見直し、必要な改定を行います。

(年度)



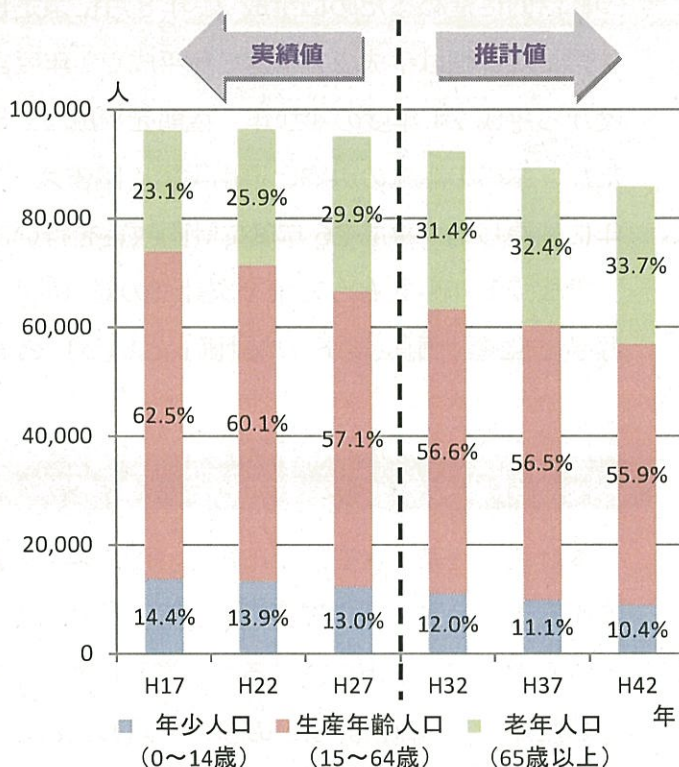
第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化

(1) 少子高齢化・人口減少社会の進行

全国的な傾向と同様に、本市でも少子高齢化と人口減少が確実に進むなか、今後見込まれる地域経済の縮小や地域コミュニティの担い手不足、社会保障費の負担増が大きな課題となっています。

これらの社会的課題に対応するため、高齢者を含めて住民一人ひとりが生きがいをもち、健康の維持・増進に努めながら自己実現を図るとともに、その学習成果を有効活用し、社会への参画を通じて、個人の自立や地域社会の共助につなげていく取り組みが今まで以上に求められています。



出典：国立社会保障人口問題研究所

安曇野市の人口動態と将来推計

(2) 経済のグローバル化や ICT 技術の急速な進展

経済のグローバル化や、ICT^{巻末1}の急速な進展により、近年、社会の変化の速度が速まりつつあります。これらに応じて、人々は絶えず新たな能力や知識、技術の習得が求められ、知的関心の高まりとともに、個人や社会のニーズを踏まえた学習機会の提供が求められています。

(3) 個人の価値観やライフスタイルの多様化

社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが多様化し、地域に根差した学習活動の機会は減少傾向にあります。その一方で、インターネットや SNS (Facebook や Twitter など)^{巻末2}の普及により、それらの機能を活用した学習機会の提供や学習コミュニティの形成など、人々の学習スタイルや学習環境に大きな変化もみられるようになってきました。

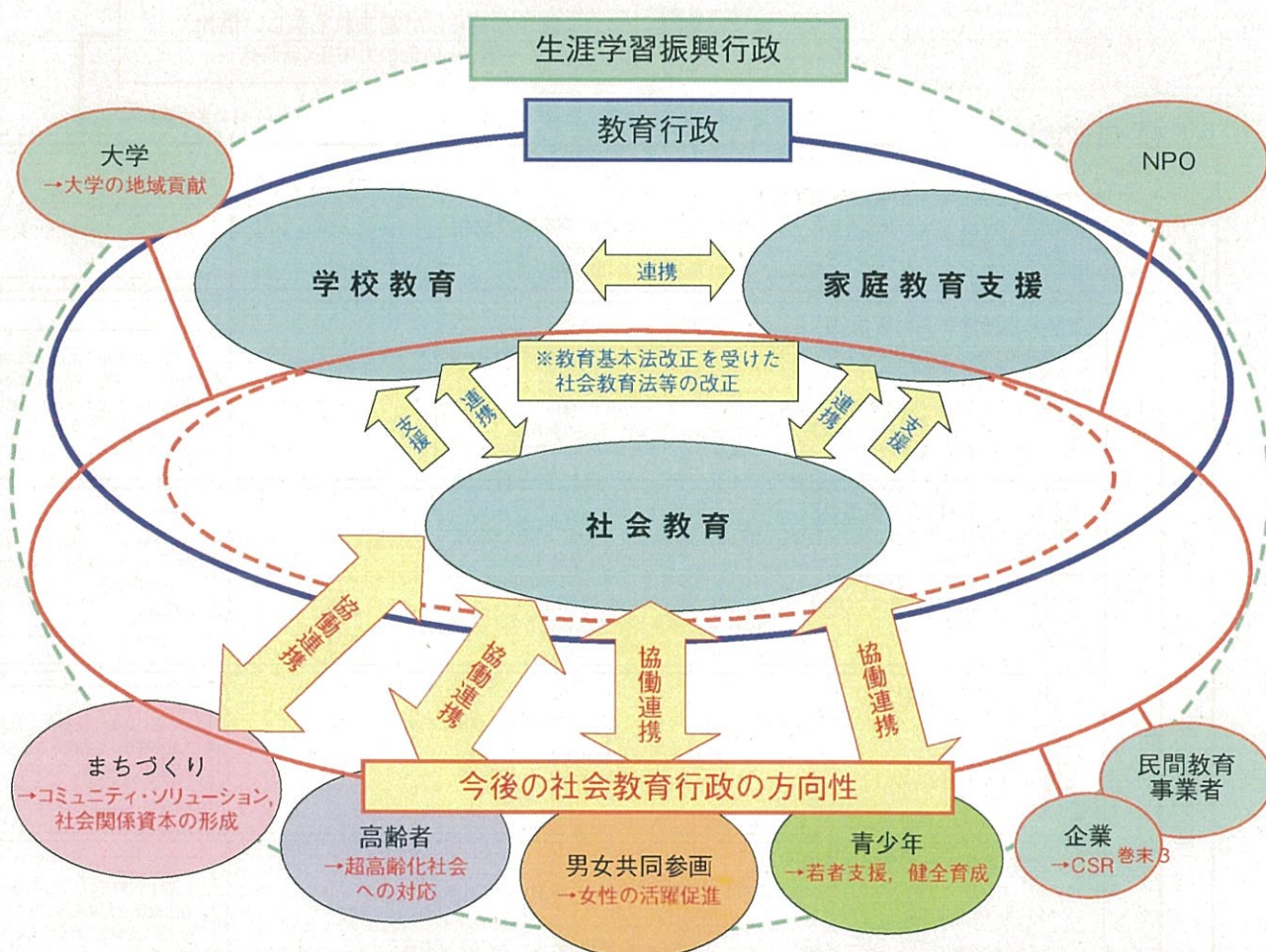
地域の課題も複雑化するなかにあって、こうした変化を捉えて、学習機会の充実と学習成果の活用の方策を考えていく必要があります。

2.2 行政の生涯学習に関する取り組み動向

(1) 国の生涯学習に関する取り組み動向

文部科学省では、学校教育、家庭教育支援、社会教育からなる教育行政を包括するかたちで、まちづくりや高齢者、男女共同参画、青少年、企業、民間教育事業者、大学、NPO などと協働・連携して取り組む方向性を描き、生涯学習の振興が図られてきました。

国民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送れるよう、生涯にわたって、あらゆる機会や場所で学習でき、その成果を適切に生かせる社会の実現を目指し、近年は、個々の潜在能力を最大限に伸ばす観点からの施策が集中的に実施されています。また、地域課題解決の担い手の育成や家庭教育の支援、青少年の健全な育成のための取り組みも進められています。



出典：平成 24 年度文部科学白書（抜粋）

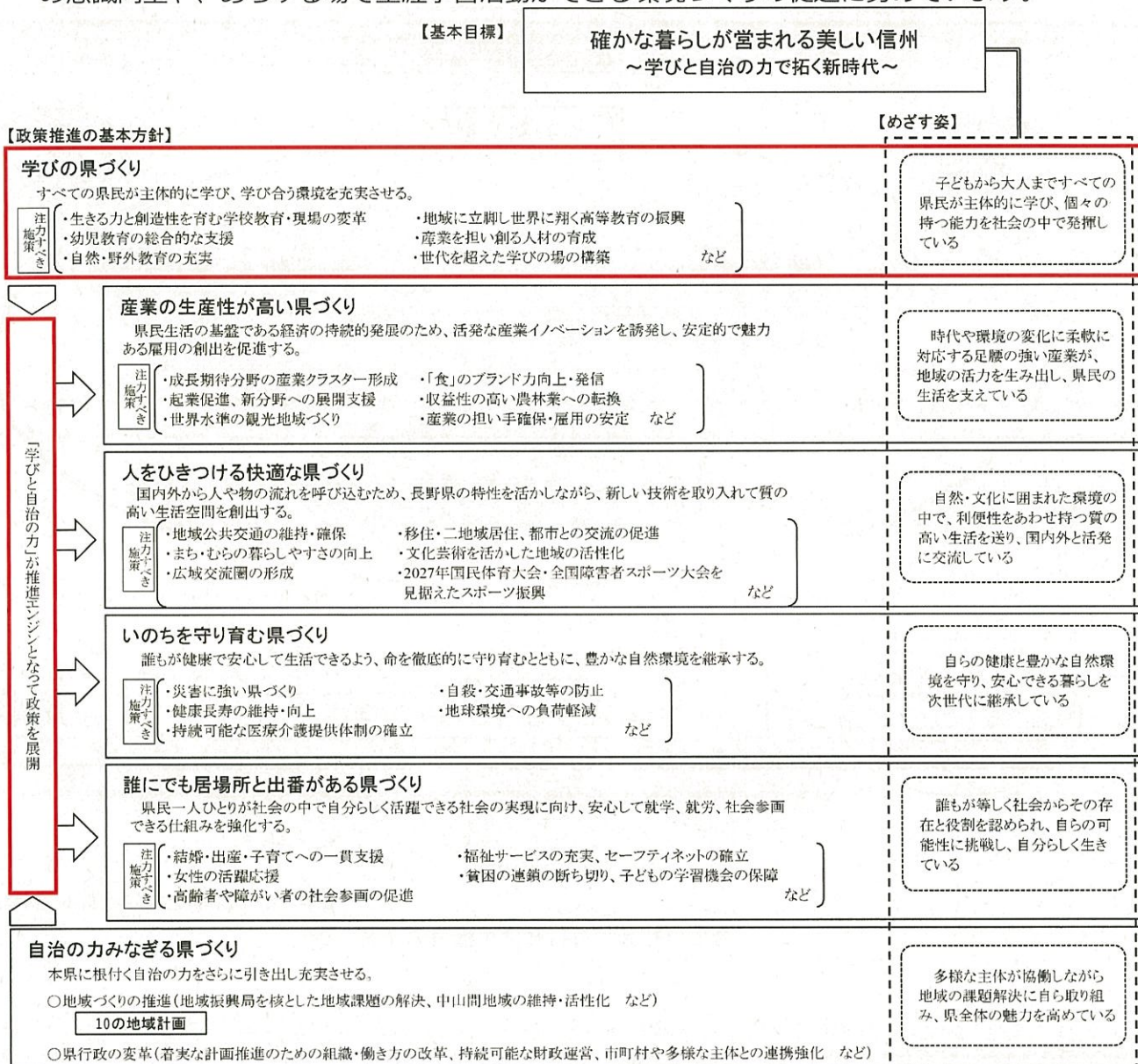
今後の社会教育行政の再構築のイメージ

(2) 県の生涯学習に関する取り組み動向

長野県は、生涯学習に関して、平成 25 年 3 月に策定した『第 2 次長野県教育振興基本計画』のなかで「学びの成果が生きる生涯学習の振興」を基本施策に掲げ、学習成果の活用に力点をおいています。具体的な施策の方向としては「学びが循環する社会の創造」と「子どもの未来づくり」を挙げ、必要な取り組みを示しています。

また平成 29 年 11 月に答申された『次期総合 5 か年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）』では、政策推進の基本方針として、「学びと自治の力」を推進エンジンとした政策展開を描き、「学びの県づくり」を基本方針のトップに掲げて、「子どもから大人まですべての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮」させることを目指しています。

また、文化の日に合わせて 11 月を「生涯学習月間」として、県民一人ひとりの生涯学習の意識向上や、あらゆる場で生涯学習活動ができる環境づくりの促進に努めています。



出典：次期総合 5 か年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）の策定について（答申）の概要（抜粋）

次期総合 5 か年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）答申概要

(3) 市の生涯学習に関する取り組み動向

安曇野市では平成 21 年度から平成 29 年度に至るまで、各所管課において第 1 次計画に基づく施策展開を図り、生涯学習の取り組みを推進してきました。施策ごとに定めた指標に対する実績値と目標値を比較し、施策の達成状況を下表のとおり検証しました。

第 1 次安曇野市生涯学習推進計画の施策体系及び施策指標の実績値と目標値

基本目標	施策名	施策指標名	施策指標に対する実績値と目標値										所管課	
			実績値								目標値		※太字＝施策指標担当	
			H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H24	H29※	課名	係名
基本目標 1	①生涯各段階に応じた学習機会の充実	(1) 乳幼児期 家庭教育講座数(回/年) <地域子育て支援事業>	230	265	217	205	935	996	889	859	180	180 1,800	子ども支援課 生涯学習課	児童係 社会教育担当 (子ども支援)
		(2) 青少年期 児童館利用者数(人/年)	73,180	78,000	81,633	91,294	92,318	96,955	104,137	99,816	80,000	85,000 100,000	子ども支援課 学校教育課 生涯学習課	児童係 教育指導室 社会教育担当 (子ども支援)
		(3) 成人期 生涯学習講座数(回/年)	68	95	116	107	115	108	105	97	120	126 150	生涯学習課	社会教育担当 地域担当
		(4) 高齢期 高齢者の生きがいづくりと健康づくり推進事業補助金交付数	93	86	93	95	93	92	90	89	40	90 99	長寿社会課	長寿福祉係
	②現代社会の課題や市民の学習要望に応える学習機会の充実	(1) 環境学習の推進 環境学習プログラム等による環境学習の実施(回/年)	—	—	5	5	7	7	8	9	5	10 10	環境課	環境政策係
		(2) 健康学習の推進 地区学習参加者数(人/年)	—	—	—	—	9,731	8,954	6,436	7,208	—	10,000	健康推進課	健康推進係 保健予防係 健康支援担当
		(3) 地域福祉を進める学習の推進 ボランティア団体数	150	169	153	147	168	179	205	203	230	245 200	長寿社会課	福祉政策担当
		(4) 生涯スポーツ活動の推進 スポーツイベント参加者数(人/年)	21,160	21,193	22,259	19,341	17,390	24,822	26,678	35,418	29,300	30,700 30,700	生涯学習課	スポーツ推進 担当
		(5) 芸術文化活動の振興 芸術・文化講座など参加者数(人/年)	8,621	10,776	12,243	7,790	13,987	15,219	14,382	14,844	6,960	7,170 12,500	文化課 図書館交流課	文化振興係 博物館係 図書館交流担当
		(6) 国際理解・外国人支援活動の推進 外国人支援相談件数(回数/年)	2,370	1,382	1,805	1,524	829	658	955	569	1,700	1,500 1,000	政策経営課 地域づくり課 人権男女共同 参画課 生涯学習課	都市交流係 市民相談室 人権男女共生係 社会教育担当
		(7) 地域の安全・安心を進める活動の推進 自主防災組織設置数	78	81	83	83	83	83	83	83	83	83 83	危機管理課 地域づくり課	危機管理担当 生活安全係
		(8) 人権尊重の学習の推進 人権教育参加者数(人/年)	2,807	3,518	3,165	2,495	2,503	4,263	4,907	4,407	3,000	3,100 3,200	人権男女共同 参画課 生涯学習課	人権男女共生係 社会教育担当
		(9) 情報化に対応した学習の推進 パソコン等IT関係講座(回数/年)	29	10	20	20	21	6	5	4	34	40 40	情報統計課 地域課 生涯学習課	情報政策係 地域担当 社会教育担当
	③生涯学習を支える環境の整備	<生涯学習施設の整備と有効活用>												
		(1) 公民館の機能強化 地域公民館団体利用者数(豊科公民館ホールを除く)(人/年)	141,968	137,228	129,806	142,453	131,556	124,048	108,620	133,344	147,900	157,800 150,700	地域課 生涯学習課	地域担当 社会教育担当
		(2) 交流学習センターの整備充実											図書館交流課	図書館交流担当
		(3) 図書館の整備促進 図書館の年間利用者数(人/年)	237,138	263,742	391,140	383,472	381,241	361,541	379,225	414,307	170,000	280,000 440,000	図書館交流課	図書館交流担当
		(4) 美術館などの文化施設機能の充実 芸術・文化活動者数(人/年)	3,424	3,188	3,031	2,857	2,726	2,755	2,656	2,733	3,633	3,700 3,200	文化課 地域課	文化振興係 博物館係 地域担当
		(5) スポーツ施設の整備充実 体育協会加入者数(人/年)	6,972	6,855	6,775	6,451	6,258	5,945	5,825	6,214	7,500	8,000 8,000	生涯学習課	スポーツ推進 担当
		<学習情報の提供と学習相談体制の充実>												
		(1) 学習情報の収集・提供の充実 市民情報交流拠点設置数(箇所)	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2 1	地域づくり課 地域課 生涯学習課	まちづくり推進係 地域担当 社会教育担当
		(2) 学習相談体制の整備充実											子ども支援課 長寿社会課 福祉課 生涯学習課	児童係 長寿福祉係 障がい福祉担当 社会教育担当
基本目標 2	①成果発表の機会を創出し、学びの成果を社会に還元する取り組みの推進	(1) 成果発表の機会の充実											生涯学習課	社会教育担当
		(2) ボランティア活動の推進											長寿社会課 生涯学習課	福祉政策担当 社会教育担当
		(3) 市民と行政の協働の推進 市民活動センターへの登録団体数	32	37	38	51	57	57	57	59	70	100 150	地域づくり課 生涯学習課	まちづくり推進係 社会教育担当
		(4) 市民交流の推進 地域公民館団体利用件数(豊科公民館ホールを除く)(件/年)	10,013	9,144	8,312	8,675	7,840	7,352	6,438	8,626	9,280	9,990 9,000	人権男女共同 参画課 政策経営課 地域課 図書館交流課 生涯学習課	人権男女共生係 参画係 地域担当 図書館交流担当 社会教育担当
	②一人ひとりが果敢と自信を持って、地域社会に貢献する取り組みの推進	(1) 生涯各段階に応じた役割を果たすまちづくり	926	827	903	992	862	806	932	991	1,165	1,456 950	学校教育課 生涯学習課	学校教育係 社会教育担当 (子ども支援)
		(2) 風土に根ざした技や知恵を広げ伝える仕組みの構築											生涯学習課	社会教育担当
		(3) リーダーバンク制度の充実 リーダーバンク登録数(個人・団体/年)	82	77	88	85	85	92	70	74	68	78 90	生涯学習課	社会教育担当
	③地域社会の発展に貢献する取り組みの推進	(1) 地域社会の発展に貢献する取り組みの推進												
		(2) 地域社会の発展に貢献する取り組みの推進												
		(3) 地域社会の発展に貢献する取り組みの推進												

注 1) 表中「—」は施策指標の見直しにより、それ以前の実績値を把握していない箇所

注 2) 表中斜線部は施策指標の設定がない箇所

※上段:当初の目標値 下段:H27見直し後の目標値

第3章 生涯学習に関する市民の意識と実態

3.1 全体の傾向 ～アンケート結果のグラフから読む～

①生涯学習の必要性を感じている人が約 61%いるのに対し、②過去 5 年間で生涯学習の取り組みをした人は約 44%に留まっています。その要因は様々ですが、③生涯学習の妨げ要因上位 5 項目をみると、時間の問題、きっかけがない、情報がない、費用がかかる、体調の問題の順になっています。

⑩『広報あづみの』は最も効果的な情報提供手段として認識され、⑨実際に最も利用されている一方で、⑩回覧板や市のホームページは比較的効果的な情報提供手段だと思われるが、⑨実際にはあまり有力な情報入手手段となっていないことがわかります。

⑪いま取り組んでいる生涯学習の内容はスポーツが最多で、次いで健康づくりとなっていますが、⑬新たに学びたい分野・関心のある内容では健康づくりが突出して多く、これに呼応して、⑭学びから役立てたいことも健康維持、老化防止が最多です。またこれと同程度に、自らの生きがいをづくりを挙げる人が多く、生涯学習の大きな目的の一つであるといえます。

《アンケートの実施概要》

- 調査期間：平成 28 年 11 月
- 調査対象：安曇野市在住の 18 歳以上の男女
- 配布者数：2,500 名（層化無作為抽出）
- 回答者数：800 名（回答率：32%）

③ 生涯学習の妨げ要因

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
仕事・学校が忙しい	275	34.4
きっかけがない	205	25.6
情報がない	153	19.1
費用がかかる	123	15.4
体調の問題	112	14.0
特になし	108	13.5
仲間がいらない	85	10.6
子育て中のため	63	7.9
移動手段がない	50	6.3
施設がない	45	5.6
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6
介護中のため	43	5.4
指導者がいない	29	3.6
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4
その他	21	2.6

⑤ 「生涯学習」という言葉の認知度

あなたは「生涯学習」という言葉の意味をご存知ですか。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
知っている	243	30.4
何となくはわかる	321	40.1
意味はわからないが言葉は聞いたことがある	180	22.5
言葉として初めて聞いた	47	5.9
無回答	9	1.1

① 生涯学習の必要性

あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
必要だと思う	491	61.4
必要だと思う	10	1.3
わからない	175	21.9
無回答・無効	124	15.5

② 過去5年間の生涯学習の取り組み状況

あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
はい	349	43.6
いいえ	451	56.4

④ 生涯学習を行う頻度

あなたが生涯学習を行う頻度を教えてください。

〈択一回答〉	回答数	回答率(%)
毎日	19	5.4
週に数回	74	21.2
月に数回	145	41.5
年に数回	100	28.7
無回答	11	3.2

⑥ 生涯学習でよく利用する施設

次の施設うち、あなたが生涯学習の場としてよく利用する施設があればお選びください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
公民館	145	41.5
図書館	121	34.7
体育館	81	23.2
交流学習センター	79	22.6
運動場・グラウンド	67	19.2
その他施設	61	17.5
美術館	59	16.9
公園	58	16.6
博物館・資料館	42	12.0

：8ページの説明と対応する項目を赤枠で強調

：各グラフで最も回答率の高かった項目を薄黄色で強調

⑦ いま取り組んでいる生涯学習の手段や機会

あなたが行っている生涯学習の方法について教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
自主的な集まりやサークル活動	174	49.9
個人的な活動	123	35.2
各種団体や企業の講座・講習・教室等	122	35.0
市主催の講座・講習・教室等	103	29.5
自らが主催者側に関わる活動	37	10.6
国や県主催の講座・講習・教室等	34	9.7
大学や専門学校の公開講座	19	5.4
通信教育や放送大学	12	3.4
その他	12	3.4

⑨ 現在の情報入手手段

あなたが生涯学習に関する情報をどのような方法で入手されているか教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
『広報あつみの』	161	46.1
知人の紹介(口コミ)	136	39.0
新聞、雑誌	125	35.8
インターネット	99	28.4
ポスター、チラシ	72	20.6
回覧板	62	17.8
テレビ、ラジオ	40	11.5
その他	25	7.2
市ホームページ	17	4.9

⑪ いま取り組んでいる生涯学習の内容

あなたが取り組んでいる生涯学習の内容を教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
スポーツ	129	37.0
健康づくり	114	32.7
芸術	69	19.8
趣味などその他	63	18.1
職業上必要な知識・技能・資格	60	17.2
ボランティア	58	16.6
子育て、教育	49	14.0
地域づくり	43	12.3
パソコン、インターネット	31	8.9
安曇野市の歴史や風土	31	8.9
身近な自然環境や地域環境の保全	29	8.3
外国語の学習	24	6.9
防犯、防災	20	5.7
ガイドや指導者として人に伝える技術	17	4.9
マナー・ライフプラン	13	3.7

⑬ 新たに学びたい分野・関心のある内容

あなたが今後、生涯学習の一つとして新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマがあれば教えてください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
健康づくり	338	42.3
スポーツ	193	24.1
芸術	142	17.8
職業上必要な知識・技能・資格	120	15.0
パソコン、インターネット	118	14.8
特になし	113	14.1
安曇野市の歴史や風土	109	13.6
外国語の学習	106	13.3
子育て、教育	102	12.8
ボランティア	90	11.3
趣味などその他	87	10.9
マナー・ライフプラン	83	10.4
防犯、防災	82	10.3
身近な自然環境や地域環境の保全	78	9.8
地域づくり	77	9.6
ガイドや指導者として人に伝える技術	37	4.6

⑧ 生涯学習に取り組んでよかったと思うこと

あなたが生涯学習に取り組んでよかったと思うことは何ですか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
共通の目的を持つ人との交流が深まった	181	51.9
健康の回復や健康増進に役立った	169	48.4
新たな知識や技能が身に付いた	162	46.4
生きがいが生まれた	107	30.7
地域や人の役に立つことができた	102	29.2
自然・社会・文化への理解・関心が高まった	91	26.1
仕事や就職に活かすことができた	56	16.0
その他	8	2.3
とくにない	5	1.4

⑩ 効果的だと思う情報提供手段

あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されるとよい(効果的)と思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
『広報あつみの』	520	65.0
回覧板	286	35.8
新聞、折込チラシ	261	32.6
市のホームページ	209	26.1
インターネット	196	24.5
ポスター、チラシ	146	18.3
テレビ、ラジオ	140	17.5
フリーペーパー(無料情報誌)	132	16.5
FacebookやTwitterなどのSNS	68	8.5
わからない	66	8.3
その他	16	2.0

⑫ 効果的だと思う情報提供の場所

あなたが生涯学習をするために必要な情報は、どのような場所で提供されるとよい(効果的)と思いますか。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
身近な生活利便施設※	323	40.4
図書館、交流学习センター	297	37.1
市役所	257	32.1
公民館	241	30.1
わからない	94	11.8
体育館	68	8.5
その他お住まいの身近な公共施設	67	8.4
その他	34	4.3

※スーパーマーケット、コンビニエンスストア、銀行、郵便局 等

⑭ 学びから役立てたいこと

あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。

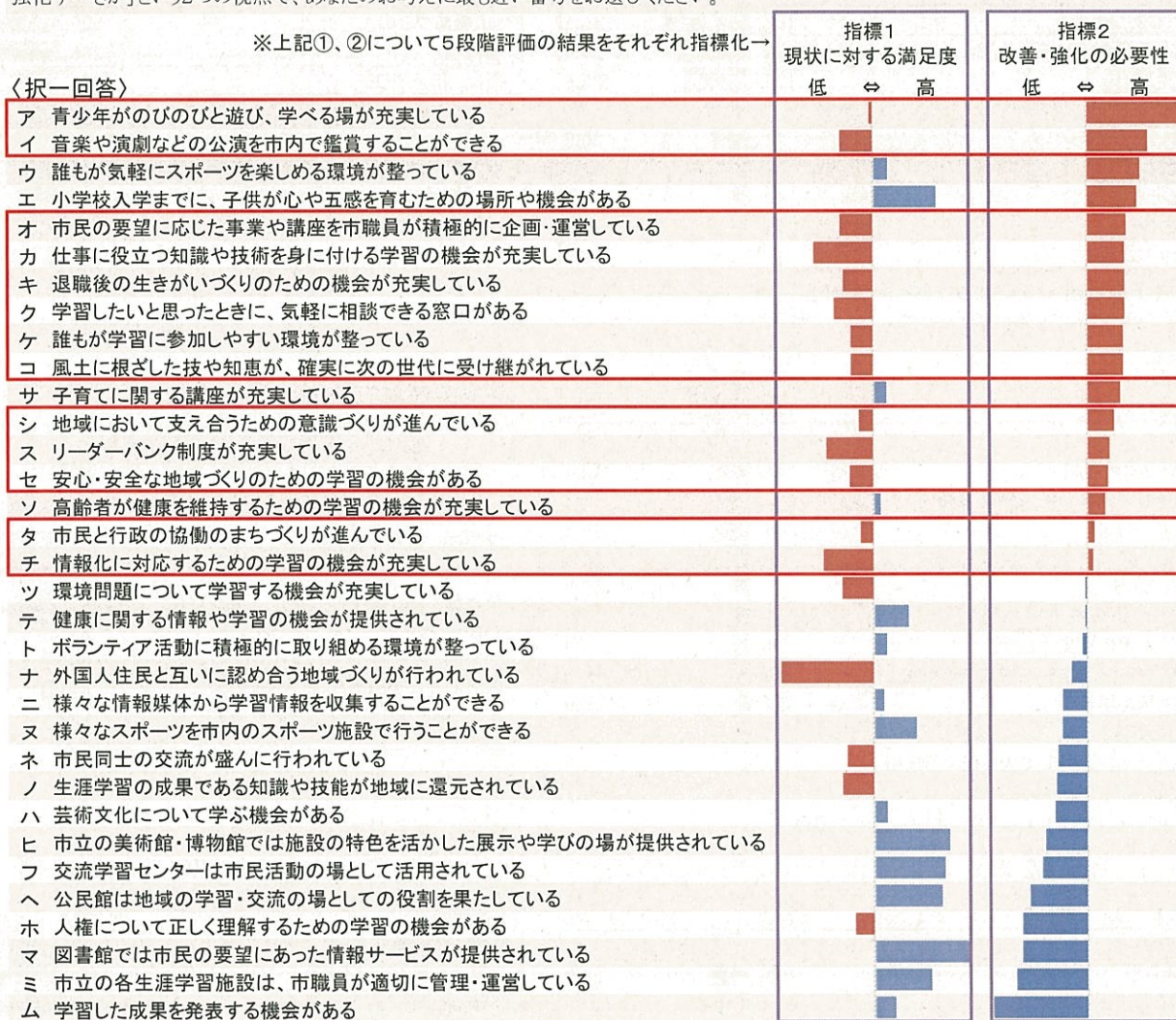
〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
健康維持、老化防止	446	55.8
自らの生きがいづくり	422	52.8
教養の向上	265	33.1
生活の安定・安全確保・質的向上	174	21.8
仕事や就職	114	14.3
地域づくりの推進	94	11.8
社会福祉活動	88	11.0
特になし・生涯学習に関心がないので答えようがない	80	10.0
地域の子どもたちへの学習活動	74	9.3
身近な自然環境や地域環境の保全	72	9.0
地域の伝統文化の継承	62	7.8
国際交流の発展	42	5.3
ガイドや指導者としての活動	32	4.0
その他	6	0.8

⑮現在の生涯学習の環境や機会・サービス提供の状況等を示す 33 項目への評価の結果を指標化し、改善・強化の必要性（指標 2 の数値）の高い順に並べてみました。この表で上位にある項目ほど、今後の対策検討に必要性が相対的に高い項目として捉えることができます。

そのなかでも、現状における満足度（指標 1 の数値）が相対的に低い項目（例えば、下表のア、イ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、シ、ス、セ、タ、チ）ほど課題の多い項目として捉えることができ、その要因を明らかにしたうえで、今後の対策を立てる必要があります。

⑮ 生涯学習の「現状に対する満足度」と「改善・強化の必要性」

以下ア～ムの33項目について、「①現在、安曇野市で生活する中でどのように感じているか」と、「②今後、安曇野市としてさらに現状を改善・強化すべきか」という2つの視点で、あなたのお考えに最も近い番号をお選びください。



《グラフの読み方》

指標1：赤色の横棒が左方向に長いほど、現状に対する満足度が低い、すなわち相対的に課題が多いと読める。

指標2：赤色の横棒が右方向に長いほど、改善・強化の必要性が高い、すなわち相対的に対策検討の必要性が高いと読める。

3.2 ライフステージごとの特徴 ～アンケート結果の年齢による違いに着目～

アンケート結果を、性別や年齢、職業など回答者の属性で分析したところ、年齢による違いが比較的顕著にみられました。就職や結婚、子育て、介護、退職など生活スタイルが変化する時期を目安に、年齢を大きく4つの世代に区分し、各世代の特徴を「ライフステージごとの特徴」として捉え、下表にまとめました。

生涯学習の取り組みを今後、より一層推進していくためには、このライフステージごとの特徴を踏まえた、きめ細かな施策展開が求められます。

ライフステージごとの特徴

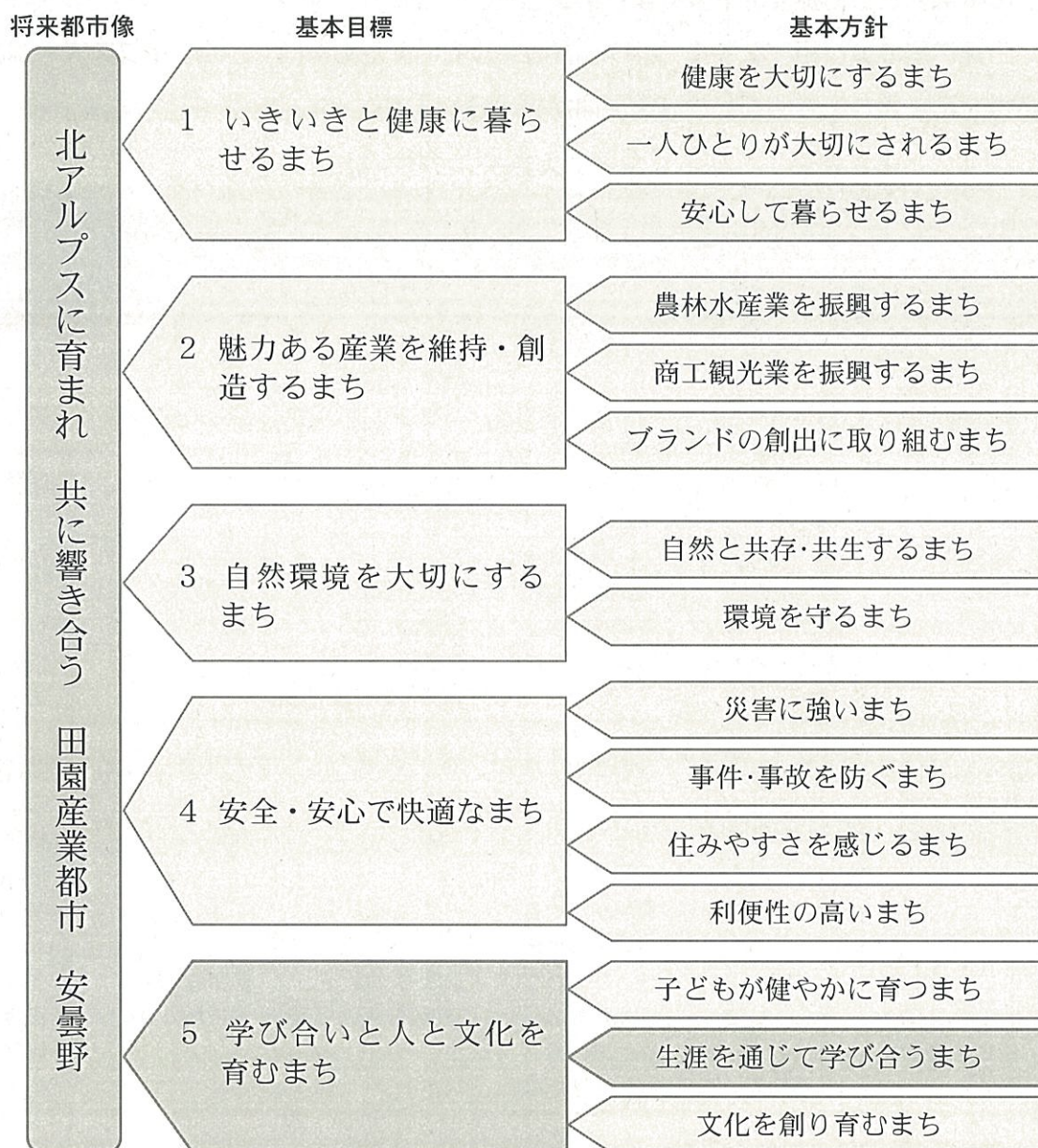
世代区分	「生涯学習」という言葉の認知度	過去5年間の生涯学習の取り組み状況	生涯学習の妨げ要因	新たに学びたい分野・関心のあるテーマ	生涯学習を通じて役立てたいと思っていること	効果的だと思う情報提供手段
24歳以下	・4つの世代区分のなかで、最も認知度が低い	・4つの世代区分のなかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・仕事や学校が忙しい ・きっかけがない ・情報がない	・スポーツ ・職業上必要な知識 ・パソコン、インターネット ・外国語 ・芸術	・仕事や就職 ・教養の向上 ・生活の安定	・インターネット ・ポスター ・折込チラシ ・SNS ・『広報あづみの』
25～44歳	・24歳以下の世代に次いで、認知度が低い	・45～65歳の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が多い	・24歳以下世代と同様の理由 ・費用がかかる ・子育て中のため	・子育て ・スポーツ ・健康づくり ・外国語 ・職業上必要な知識	・生きがいづくり ・教養の向上 ・健康維持	・『広報あづみの』 ・インターネット ・新聞 ・折込チラシ ・市のホームページ
45～64歳	・65歳以上の世代に次いで、認知度が高い	・4つの世代区分なかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が多い	・仕事や学校が忙しい ・きっかけがない ・情報がない ・費用がかかる ・介護中のため	・健康づくり ・スポーツ ・芸術	・生きがいづくり ・健康維持 ・教養の向上	・『広報あづみの』 ・回覧板 ・新聞 ・折込チラシ ・市のホームページ
65歳以上	・4つの世代区分のなかで、最も認知度が高い	・24歳以下の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・きっかけがない ・情報がない ・体調の問題 ・移動手段がない	・健康づくり ・安曇野の歴史や風土 ・スポーツ	・健康維持 ・生きがいづくり	・『広報あづみの』 ・回覧板 ・新聞 ・折込チラシ

注) アンケート結果の各設問の回答率を世代間で比較したときの相対的な順位や、複数回答で世代ごとに回答率の高い項目を抽出。

第4章 生涯学習の基本理念とスローガン

4.1 上位計画の目標等

生涯学習の基本理念やスローガンの策定に際し、上位計画である総合計画の体系のなかでの生涯学習に関する事項の位置付けと、教育大綱における教育指針を示します。



第2次安曇野市総合計画の体系

北アルプスの裾野に広がる安曇野の豊かな自然と向き合い、幼児期から生涯にわたり、先人が培ってきた歴史と文化を学ぶとともに誇りを持ち、明日を切り拓くたくましい力と思いやりをもった、心豊かな国際的な市民を目指す。

安曇野市教育大綱「安曇野市の教育」における教育指針

4.2 生涯学習の基本理念

これを受け本計画では、生涯学習を人や文化を育み生かし、よりよいまちづくりにもつながっていく取り組みとして捉え、その基本理念を以下のように定めました。

～ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる～

場所を問わず、性別、年齢、職業、言語、人種、思想、障がいの有無を問わず、誰もがこの豊かな自然環境に育まれた歴史・文化・風土の織りなす安曇野のフィールド全体を、「学びの場」としてまるごと生かしてほしいという想いを込めて設定

4.3 ライフステージごとの生涯学習のスローガン

この基本理念のもとに、ライフステージごとの特徴を踏まえて、各世代に向けてそれぞれにスローガンを定め、全世代に生涯学習の取り組みを広げます。

【24 歳以下の世代】

『夢・未来へ 学びで新しい自分や仲間と出会おう』

夢に向かって、安曇野の未来をつくる子どもたちが、自らの可能性を広げるために、またその後の人生で共に高め合っていける仲間を見つけるために、成長の各段階で、学びを通してよき出会いを見つけてほしいという想いを込めて設定

【25～44 歳の世代】

『家族も地域も みんなで楽しく学び合おう』

子育てに関わる方も多くなり、その過程で地域との関わりも増えてくるなかで、みんなで楽しく学び合うことが自分・家族・地域のためになるとの想いを込めて設定

【45～64 歳の世代】

『学びでリフレッシュ！ 自分を磨き、社会に役立てよう』

家族や組織、地域における責任や役割が増してくる時期。だからこそ、学びの時間をつくり、心身のリフレッシュを図るとともに、自らを磨き、学びを深め広く社会に役立てていくことで、より充実した人生を築いてほしいという想いを込めて設定

【65 歳以上の世代】

『学びながら生きる 次代の^{あづみのびと}安曇野人を育もう』

子どもらが巣立ち、自身が定年を迎えるなど、時間にゆとりが生まれてくるなかで、人として学び続けることに生きる意義や価値を見出し、その学びの成果や人生の経験を後世に伝え、次代を育む先導者（安曇野人）になってほしいという想いを込めて設定

これら各世代のスローガンを念頭に、生涯学習の推進に資する施策展開を次章に示します。

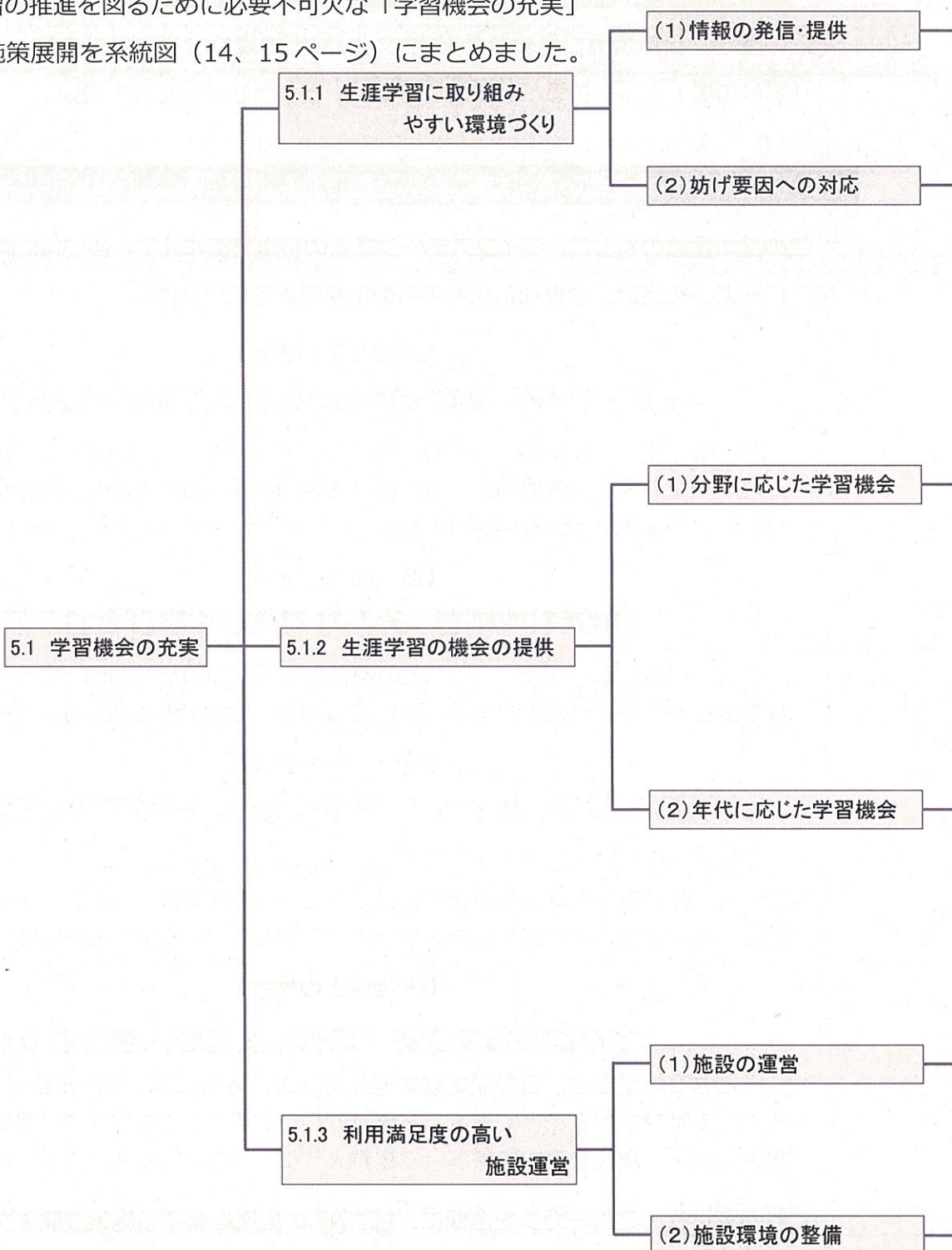
第5章 生涯学習の推進に向けた施策展開

本章では今後の施策を 5.1「学習機会の充実」と 5.2「学習成果の活用」の2つに分けて、それぞれ冒頭に施策体系を図示したうえで、具体的な施策展開の内容を示します。

5.1 学習機会の充実

生涯学習の推進を図るために必要不可欠な「学習機会の充実」に資する施策展開を系統図（14、15 ページ）にまとめました。

～ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる～



〔施策項目〕と〔施策目標〕は 18～39 ページの間に示す施策内容と対応しています。

ライフステージごとに定めたスローガン

【24歳以下の世代】
夢・未来へ 学びで
新しい自分や仲間と
出会おう

【25～44歳の世代】
家族も地域も
みんなで楽しく
学び合おう

【45～64歳の世代】
学びでリフレッシュ！
自分を磨き、社会に
役立てよう

【65歳以上の世代】
学びながら生きる
次代の安曇野人を
育もう

〔施策項目〕

〔施策目標〕

① ワンストップ相談窓口の設置	: 市民が気軽に生涯学習についての相談をできるようにする →P18
② 冊子『生涯学習情報(仮)』の発行	: 市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする →P18
③ 公民館報の発行	: 市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める →P19
④ インターネットを活用した情報発信	: 市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする →P19
⑤ SNS 上でのコミュニティの創出	: 市民同士が情報交換・交流する場(その他発表の場・人材育成の場)をつくる →P19
① 託児サービスの提供	: 子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P21
② 講座開催日時の工夫	: 仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P21
③ 公民館講座の開催	: 交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる →P21
④ 「ながの電子申請サービス」の活用	: 市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる →P22
⑤ 子どもの読書活動の推進	: 子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る →P22
① 防災啓発活動の支援	: 市民の防災意識を高める機会を設ける →P23
② 災害時福祉避難スペース設置訓練	: 市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける →P24
③ 人権に関する講座の開催	: 市民が人権について学ぶ機会を設ける →P24
④ 男女共同参画フォーラム・講座の開催	: 市民が男女共同参画について学ぶ機会を設ける →P24
⑤ 環境講座の開催	: 市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める →P25
⑥ 多文化共生のための講座の開催	: 市民が多文化共生の地域づくりを考える機会を設ける →P25
⑦ 協働のまちづくり出前講座の開催	: 市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける →P25
⑧ スポーツ教室の開催	: スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける →P26
⑨ 博物館・美術館・文書館等講座の開催	: 市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける →P26
⑩ 図書館講座等の開催	: 市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する →P26
⑪ 芸術公演・講習会の開催	: 市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップを開催する →P27
⑫ ICT 関連講座の開催	: 市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける →P27
⑬ 鑑賞機会の充実	: 市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種展覧会・公演・講座等を実施する →P27
① 青少年体験事業の実施	: 青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける →P29
② 博物館・美術館における親子向け事業の実施	: 親子が歴史資料や美術品に触れられる機会を設ける 市内の公共施設等へのアウトリーチを行う →P29
③ 子育て勉強会・育児相談の実施	: 保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける →P29
④ 「おはなしかい」等の定期開催	: 親子で本に親しんでもらう機会を設ける →P30
⑤ ブックスタート事業の実施	: 親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる →P30
⑥ ヤングアダルト・高齢者を対象とした企画事業	: 図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する →P30
⑦ 「朗人大学」の開催	: 幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいづくりのきっかけをつくる →P31
⑧ 健康体操教室の開催	: 市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる →P31
① 学芸員研修会の開催	: 学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める →P36
② 図書館職員研修	: 図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める →P36
③ 施設連携事業の実施	: 事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める →P36
④ 常設展・出前(コンパクト)展示の実施	: 調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす →P37
⑤ 交流学習センターの利便性向上	: 施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる →P37
⑥ 音響照明スタッフ・レセプションの活用	: 各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める →P37
⑦ 施設利用案内の充実	: 市民が誰でも気軽に施設を利用できるよう利用案内を充実させる →P38
① 新総合体育館の建設	: 市民が幅広いスポーツを行うための体育館を建設する →P38
② 公民館、交流学習センター等の会議室の Wi-Fi 環境拡充	: 快適なインターネット環境を提供し、新たな利用者を増やす →P39
③ 博物館・美術館の展示環境の改善	: 誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う →P39
④ 必要・十分な量の図書館資料の整備	: 図書資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む →P39

5.1.1 生涯学習に取り組みやすい環境づくり

(1) 情報の発信・提供

＜現状・課題と方向性＞

生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めるうえで、広く市民の皆さんに生涯学習に関する情報提供することは行政に求められる最も重要な役割の一つです。

しかしながら、アンケート結果では「情報がない」の回答率が、生涯学習の妨げ要因として3番目に高く、情報の発信・提供は改善を図る必要性の高い項目といえます。とくに若い世代でこの項目の回答率は高い傾向にあります。

生涯学習の妨げ要因（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。(%)

＜複数回答＞	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
仕事・学校が忙しい	275	34.4	59.1	53.8	72.5	41.3	57.0	49.6	8.6	6.6
きっかけがない	205	25.6	40.9	46.2	26.1	28.8	24.8	30.4	25.8	16.2
情報がない	153	19.1	45.5	38.5	13.0	28.8	15.7	18.5	23.9	9.6
費用がかかる	123	15.4	18.2	15.4	30.4	16.3	15.7	26.7	9.2	5.4
体調の問題	112	14.0	9.1	0.0	7.2	2.9	3.3	13.3	21.5	26.3
特になし	108	13.5	13.6	0.0	7.2	6.7	12.4	8.9	22.1	18.0
仲間がいない	85	10.6	22.7	7.7	13.0	11.5	8.3	12.6	11.0	7.8
子育て中のため	63	7.9	0.0	0.0	13.0	38.5	5.8	4.4	0.0	0.6
移動手段がない	50	6.3	4.5	7.7	2.9	1.9	0.8	5.2	3.1	18.0
施設がない	45	5.6	18.2	15.4	2.9	9.6	6.6	6.7	3.1	3.0
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6	0.0	7.7	1.4	5.8	5.0	8.1	8.6	3.6
介護中のため	43	5.4	0.0	0.0	0.0	3.8	3.3	14.1	3.1	6.6
指導者がいない	29	3.6	4.5	7.7	0.0	2.9	5.0	5.9	3.7	2.4
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4	4.5	7.7	2.9	1.0	1.7	4.4	3.7	4.8
その他	21	2.6	0.0	7.7	0.0	1.0	0.0	4.4	3.1	4.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0 20 40 60 80 100

※アンケート結果より

情報の発信・提供は、必要とする人に、適切な場所で、適切な手段で行うことが求められますが、近年、情報入手手段が多様化するなかで、世代や性別によってその手段が異なり、行政による現在の情報提供手段と市民が効果的だと思う情報提供手段が必ずしも整合していない状況もアンケート結果から読みとれます。

例えば、現在の情報入手手段として、全体的には『広報あづみの』、知人の紹介（口コミ）の回答率が高くなっていますが、性別又は世代によってその比率にばらつきがあり、64歳以下の世代の男性ではインターネットの比率がとくに高く、45歳以下の女性ではポスター、チラシの比率が高い傾向にあります。

また、効果的だと思う情報提供手段は、年齢層が下がるほど多様化する傾向がみられ、64歳以下の世代では市のホームページやインターネット、女性ではポスター、チラシの比率が高く、44歳以下の世代では、男性はテレビ、ラジオ、女性ではフリーペーパー（無料情報誌）が比較的回答率の高い項目となっています。Facebook（フェイスブック）やTwitter（ツイッター）などのSNSは、男女とも44歳以下の世代からにわかに回答率の高くなっています。

現在の情報提供手段と効果的だと思う情報提供手段とでとくに不整合がみられるのは市のホームページで、前者は5%未満の回答率であるのに対して、後者は25%以上の回答率となっており、今後、改善・強化の必要な情報提供手段の一つとして捉えられます。

こうした現状・課題を踏まえて、生涯学習に関する情報の発信・提供の工夫を図る必要があります。

現在の情報入手手段（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に関する情報をどのような方法で入手されているか教えてください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
『広報あづみの』	161	46.1	28.6	0.0	22.2	47.1	43.1	69.1	38.2	46.3
知人の紹介(口コミ)	136	39.0	28.6	0.0	25.9	39.2	15.5	47.1	30.9	67.2
新聞、雑誌	125	35.8	28.6	33.3	33.3	27.5	36.2	50.0	30.9	34.3
インターネット	99	28.4	57.1	33.3	59.3	31.4	50.0	26.5	16.2	6.0
ポスター、チラシ	72	20.6	14.3	33.3	7.4	39.2	19.0	25.0	11.8	17.9
回覧板	62	17.8	0.0	0.0	3.7	7.8	19.0	22.1	25.0	20.9
テレビ、ラジオ	40	11.5	14.3	0.0	7.4	9.8	6.9	13.2	10.3	17.9
その他	25	7.2	0.0	0.0	22.2	3.9	6.9	4.4	5.9	9.0
市のホームページ	17	4.9	14.3	0.0	0.0	5.9	6.9	4.4	4.4	4.5
回答数	349		7	3	27	51	58	68	68	67

効果的だと思う情報提供手段（性別・世代別および地域別・職業別の回答率）

あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されるとよい(効果的)と思いますか。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
『広報あづみの』	520	65.0	40.9	23.1	52.2	75.0	61.2	81.5	63.8	61.7
回覧板	286	35.8	13.6	23.1	24.6	30.8	36.4	41.5	39.3	40.1
新聞、折込チラシ	261	32.6	36.4	30.8	29.0	42.3	29.8	40.7	28.8	26.9
市のホームページ	209	26.1	36.4	15.4	23.2	34.6	35.5	33.3	21.5	14.4
インターネット	196	24.5	50.0	15.4	40.6	42.3	34.7	25.9	13.5	7.2
ポスター、チラシ	146	18.3	9.1	46.2	18.8	31.7	12.4	30.4	15.3	6.6
テレビ、ラジオ	140	17.5	36.4	7.7	27.5	19.2	16.5	14.8	13.5	16.8
フリーペーパー(無料情報誌)	132	16.5	22.7	38.5	18.8	33.7	16.5	18.5	10.4	7.2
FacebookやTwitterなどのSNS	68	8.5	40.9	38.5	20.3	25.0	5.0	5.2	0.6	0.0
わからない	66	8.3	0.0	0.0	11.6	2.9	6.6	5.9	9.2	13.2
その他	16	2.0	9.1	0.0	8.7	1.0	0.8	1.5	1.8	1.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
身近な生活利便施設 ^{注)}	323	40.4	50.0	46.2	44.9	65.4	46.3	54.1	24.5	21.6
図書館、交流学習センター	297	37.1	54.5	46.2	33.3	57.7	34.7	51.9	24.5	25.7
市役所	257	32.1	18.2	7.7	23.2	31.7	39.7	43.0	35.6	23.4
公民館	241	30.1	13.6	15.4	15.9	26.0	32.2	27.4	40.5	32.3
わからない	94	11.8	9.1	7.7	14.5	5.8	9.1	8.1	14.1	17.4
体育館	68	8.5	18.2	38.5	10.1	15.4	7.4	7.4	5.5	4.2
その他お住まいの身近な公共施設	67	8.4	4.5	0.0	5.8	4.8	5.8	8.1	9.8	13.8
その他	34	4.3	4.5	7.7	7.2	6.7	2.5	1.5	5.5	3.6
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

＜複数回答＞	豊科	穂高	三郷	堀金	明科	会社員	無職	専業主婦・主夫	パート、アルバイト
身近な生活利便施設 ^{注)}	42.8	38.1	39.6	42.2	42.3	50.5	19.8	37.7	61.5
図書館、交流学習センター	35.6	48.6	27.8	25.0	25.4	36.6	25.8	42.1	48.6
市役所	33.3	33.0	26.4	40.6	28.2	30.4	28.6	33.3	38.5
公民館	28.8	32.7	31.9	20.3	29.6	24.2	34.6	31.6	31.2
わからない	12.6	10.5	14.6	9.4	11.3	8.8	20.3	10.5	6.4
体育館	7.2	9.9	11.1	9.4	1.4	9.8	3.8	6.1	11.9
その他お住まいの身近な公共施設	9.0	8.5	6.3	9.4	9.9	8.8	9.3	10.5	3.7
その他	5.4	4.8	2.8	3.1	2.8	4.1	3.3	4.4	1.8
回答数	222	294	144	64	71	194	182	114	109

注) スーパーマーケット、コンビニエンスストア、銀行、郵便局など

回答率による色分けの凡例: 0 20 40 60 80 100

※アンケート結果より

<施策内容>

① ワンストップ相談窓口の設置

生涯学習に関する市民からの様々な相談に対し、1か所で幅広く対応することのできる総合的な窓口を設置し、市民の生涯学習活動を支えます。

設置場所は、本庁舎や生涯学習の拠点施設を候補とし、地域単位でサテライト的な窓口の設置も検討します。また、当該窓口には生涯学習に関する資料や案内チラシを置き、情報発信拠点としても機能させます。



目 標：市民が気軽に生涯学習についての相談をできるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：案内件数

成果指標：アンケート満足度

【参照】

施策指標、成果指標の設定意図と活用については54ページ（第6章 6.2）をご参照ください。

【凡例】

ターゲットとして重視する度合いを背景の色の濃淡（3段階）で表しています。

□ < □ < □

② 冊子『生涯学習情報（仮）』の発行

生涯学習に関して、市民にとって必要かつ有益な情報を整理し、一定期間、情報の有効性を保てる内容を厳選してとりまとめた冊子『生涯学習情報（仮）』を発行します。

既存の生涯学習の活動内容や多様な市民のニーズを踏まえ、生涯学習の取り組みを喚起できるような冊子を目指します。

発行部数や発行回数は内容を具体化する段階で検討するものとし、できる限りの多くの市民の手に行き渡る配布方法を選択します。印刷物としてだけでなく、電子データにして市のホームページ等でも閲覧できるようにします。また、情報の最新性の担保とコスト面を考慮して、2版以降は電子データのための更新も検討します。

目 標：市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：発行回数、情報量、発行部数

成果指標：残部率

③ 公民館報の発行

生涯学習活動の一貫である公民館活動の内容やその成果をとりまとめた公民館報を定期的に発行します。

目 標：市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：認知度、情報量

成果指標：アンケート満足度

④ インターネットを活用した情報発信

『広報あづみの』や回覧板による生涯学習情報の提供を補完する手法として、インターネットを有効活用し、市のホームページによる情報提供の充実を図るとともに、SNSを用いた情報提供にも取り組み、とくに若い世代に向けた生涯学習情報の発信力の強化に努めます。

これにより、情報発信媒体の多様性を確保し、生涯学習の内容に応じて、適切かつ効果的な情報発信手段を選択します。

目 標：市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：投稿回数

成果指標：フォロー数、いいね数



⑤ SNS 上でのコミュニティの創出

知人からの紹介いわゆる口コミによる情報拡散力に着目し、インターネット上で同様の効果を有する SNS を活用して、生涯学習に関する情報コミュニティの場をつくり、市から一方的な情報提供だけでなく、双方向の情報共有を促します。

現状でも、例えば県のシニア大学では参加者同士が SNS 上のコミュニティで日常的に情報交換を行っていることなどから、遠距離で気軽に集まることのできない仲間同士が場所を選ばず気軽に情報交換できる場として、この取り組みは若い世代に限らず、全世代に展開します。またその際、SNS 上での個人情報保護や人権の視点に配慮した運用にも努めます。

目 標：市民同士が情報交換・交流する場（その他発表の場・人材育成の場）をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：コミュニティ作成数

成果指標：交流人数

(2) 妨げ要因への対応

<現状・課題と方向性>

アンケート結果から生涯学習の推進における最も大きな課題を1つ見出すとすれば、生涯学習が「必要だと思う」方が約61%いるのに対して、過去5年間に生涯学習の取り組みを行ったことのある方が約44%に留まり、生涯学習を必要だと思いながら、取り組めていない方が少なからずいることから、この妨げ要因の解消を図ることにあります。

世代別にみると、64歳以下でとくに上記数値の差が大きく、具体的な妨げ要因として、「仕事・学校が忙しい」、「きっかけがない」、「情報がない」、「費用がかかる」、「体調の問題」が回答率の高い項目の上位に挙げられています。その他、25～44歳の世代の女性では「子育て中のため」を挙げる方の比率が突出して高く、46～64歳の世代の女性では「介護中のため」が相対的に高い比率を示しています。さらに65歳以上の女性になると、「移動手段がない」の回答率が比較的高くなっており、性別も含め、各世代特有の要因にも着目する必要があります。

また、上記の要因だけでなく、職業や言語の違い、障がいの有無なども考慮して、生涯学習の妨げ要因の解消につながる施策展開を図る必要があります。

生涯学習の必要性（性別・世代別の回答率）

あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
必要だと思う	491	61.4	40.9	69.2	60.9	77.9	70.2	71.1	53.4	46.7
必要だと思わない	10	1.3	0.0	0.0	1.4	1.0	0.8	0.7	2.5	1.2
わからない	175	21.9	50.0	30.8	27.5	15.4	19.0	17.8	22.7	24.6
無回答・無効	124	15.5	9.1	0.0	10.1	5.8	9.9	10.4	21.5	27.5
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

過去5年間の生涯学習の取り組み状況（性別・世代別の回答率）

あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。

(%)

<択一回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
はい	349	43.6	31.8	23.1	39.1	49.0	47.9	50.4	41.7	40.1
いいえ	451	56.4	68.2	76.9	60.9	51.0	52.1	49.6	58.3	59.9
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

生涯学習の妨げ要因（性別・世代別の回答率）

あなたが生涯学習に取り組むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
仕事・学校が忙しい	275	34.4	59.1	53.8	72.5	41.3	57.0	49.6	8.6	6.6
きっかけがない	205	25.6	40.9	46.2	26.1	28.8	24.8	30.4	25.8	16.2
情報がない	153	19.1	45.5	38.5	13.0	28.8	15.7	18.5	23.9	9.6
費用がかかる	123	15.4	18.2	15.4	30.4	16.3	15.7	26.7	9.2	5.4
体調の問題	112	14.0	9.1	0.0	7.2	2.9	3.3	13.3	21.5	26.3
特になし	108	13.5	13.6	0.0	7.2	6.7	12.4	8.9	22.1	18.0
仲間がいない	85	10.6	22.7	7.7	13.0	11.5	8.3	12.6	11.0	7.8
子育て中のため	63	7.9	0.0	0.0	13.0	38.5	5.8	4.4	0.0	0.6
移動手段がない	50	6.3	4.5	7.7	2.9	1.9	0.8	5.2	3.1	18.0
施設がない	45	5.6	18.2	15.4	2.9	9.6	6.6	6.7	3.1	3.0
生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6	0.0	7.7	1.4	5.8	5.0	8.1	8.6	3.6
介護中のため	43	5.4	0.0	0.0	0.0	3.8	3.3	14.1	3.1	6.6
指導者がいない	29	3.6	4.5	7.7	0.0	2.9	5.0	5.9	3.7	2.4
そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4	4.5	7.7	2.9	1.0	1.7	4.4	3.7	4.8
その他	21	2.6	0.0	7.7	0.0	1.0	0.0	4.4	3.1	4.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0 20 40 60 80 100

※アンケート結果より

＜施策内容＞

① 託児サービスの提供

小さなお子さんをお持ちの方でも積極的に生涯学習に参加できるよう、とくに子育て世代を対象にしたテーマの講座を開催する際に、安心してかつ気軽に利用できる託児サービスの充実を図ります。

目 標：子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：人権男女共同参画課、子ども支援課

施策指標：設置回数、利用者数

成果指標：講座での設置回数

関連計画：男女共同参画計画



② 講座開催日時の工夫

講座の開催は、日中・平日だけでなく、夜間や土日などテーマに応じて時間帯や曜日設定を変えたり、同じテーマでも複数回開催するなどの工夫をして、仕事や家事で忙しい方がより多く生涯学習に参加できる環境づくりに努めます。

目 標：仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：各講座担当課

施策指標：講座開催数、参加者数

成果指標：受講者のうち働く世代の講座参加率

③ 公民館講座の開催

参加したい講座があっても、開催場所が自宅から遠く移動手段がないため参加できないという方を念頭に、身近な5地域の公民館で開催する講座の充実を図り、自家用車を運転できない交通弱者の方が講座に参加できる機会を増やします。

目 標：交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、各地域課（各地域公民館）

施策指標：講座開催数、参加者数

成果指標：受講者のうち交通手段がない人の講座参加率



④ 「ながの電子申請サービス」の活用

「ながの電子申請サービス（長野県と県内の市町村が共同で提供している各種申請や届出のオンラインサービス）」では、地域や市町村の生涯学習振興や生涯学習によるまちづくりを支援する指導者養成講座等の申込みを、インターネット上の簡便な手続きで行うことができます。

今後の生涯学習の推進を担っていく世代を中心に、同サービスの存在を周知するとともに、講座への参加を促して人材育成につなげます。

目 標：市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：各講座等担当課

施策指標：サービス活用数

成果指標：サービス利用人数

⑤ 子どもの読書活動の推進

地域の図書館などで、読書しやすい環境の整備や、読書の楽しさを伝える取り組みの充実を図り、子どもの自主的な読書活動を促します。

目 標：子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：貸出冊数

成果指標：児童書貸出冊数

関連計画：図書館基本計画



5.1.2 生涯学習の機会の提供

(1) 分野に応じた学習機会

＜現状・課題と方向性＞

生涯学習の内容は極めて幅が広く多種多様な分野・テーマがあることから、アンケート結果などから現状における各分野・テーマの取り組み状況を踏まえて、これに応じて学習機会の提供を図る必要があります。

行政としてはとくに、「新たに学びたい分野・関心のあるテーマ」で一定の回答率を得ながらも「いま取り組んでいる生涯学習の内容」で回答率の低い内容に着目して、市民が主体的・自発的に取り組みにくい分野・テーマの学習機会の確保に努め、生涯学習の内容の幅を広げていくことが求められます。

「いま取り組んでいる生涯学習の内容」と
「新たに学びたい分野・関心のあるテーマ」との比較

<複数回答>	いま取り組んでいる生涯学習の内容		新たに学びたい分野・関心のあるテーマ	
	回答数	回答率	回答数	回答率
スポーツ	129	37.0	193	24.1
健康づくり	114	32.7	338	42.3
芸術	69	19.8	142	17.8
趣味などその他	63	18.1	87	10.9
職業上必要な知識・技能・資格	60	17.2	120	15.0
ボランティア	58	16.6	90	11.3
子育て、教育	49	14.0	102	12.8
地域づくり	43	12.3	77	9.6
パソコン、インターネット	31	8.9	118	14.8
安曇野市の歴史や風土	31	8.9	109	13.6
身近な自然環境や地域環境の保全	29	8.3	78	9.8
外国語の学習	24	6.9	106	13.3
防犯、防災	20	5.7	82	10.3
ガイドや指導者として人に伝える技術	17	4.9	37	4.6
マナー・ライフプラン	13	3.7	83	10.4
特になし	—	—	113	14.1
回答数	349 ^{注)}		800	

注) 過去5年間に生涯学習の取り組みのある人

※アンケート結果より

回答率による色分けの凡例: 0 20 40 60 80 100

＜施策内容＞

① 防災啓発活動の支援

大規模な地震や土砂災害、豪雨など、近年頻発化・激甚化している災害への意識の高まりを受け、生涯学習の一貫として、防災や減災に対する啓発を行う機会を設けます。

目 標: 市民の防災意識を高める機会を設ける

対象世代: 24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担 当 課: 危機管理課

施策指標: 支援実施回数

成果指標: 訓練実施回数、出前講座開催回数

関連計画: 地域防災計画

② 災害時福祉避難スペース設置訓練

災害時における福祉避難スペースの設置訓練を実施し、要配慮者への対応方法を学ぶための機会を設けます。

目 標：市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：訓練回数

成果指標：訓練参加者数

関連計画：地域福祉計画

③ 人権に関する講座の開催

人権についての固定観念やこれまでの学習方法を振り返り、学び方を工夫しながら、正しく学べる講座を開催して、一人ひとりが当事者として学び合える機会をつくります。

目 標：市民が人権について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

④ 男女共同参画フォーラム・講座の開催

市民が男女共同参画について学べる機会として、男女共同参画フォーラムや講座を開催します。

目 標：市民が男女共同参画について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：人権男女共同参画課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：講座の開催回数、アンケート満足度

関連計画：男女共同参画計画



⑤ 環境講座の開催

豊かな自然環境に恵まれた本市の特性を生かし、市民が環境や景観について学べる講座の充実を図ります。

目 標：市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：環境課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：環境基本計画

⑥ 多文化共生のための講座の開催

外国籍の住民や日本を訪れる外国人旅行者が増加していきっていることも踏まえて、世界には多種多様な文化が存在し、それらが共生して誰もが安心して豊かに暮らせる地域づくりを推進していくことの必要性を考える講座を開催します。

目 標：市民が多文化共生の地域づくりを考える機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：人権男女共同参画課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：男女共同参画計画



⑦ 協働のまちづくり出前講座の開催

市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高め、生涯学習の成果を生かして協働のまちづくりにも役立てるための出前講座を開催します。

目 標：市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：地域づくり課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

⑧ スポーツ教室の開催

スポーツの初心者や未経験者が新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとして、様々なスポーツ教室を開催します。一方で、その指導者となる人材の育成を支援するための講座も検討します。

また、安曇野市がホームタウンとなっている松本山雅 FC の観戦や応援、ボランティア活動などを通じて、スポーツを見て、楽しみながら学べる機会の充実を図ります。

目 標：スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：スポーツ推進計画



⑨ 博物館・美術館・文書館等講座の開催

市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会として、博物館や文書館等における講座を開催します。

目 標：市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催回数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画

⑩ 図書館講座等の開催

学びの拠点として図書館の有効利用を促すために、市民のニーズに合わせて学習支援や調査研究支援のための講座や講演会等を開催します。

目 標：市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑪ 芸術公演・講習会の開催

市民が感性を磨き、知識を得て、生涯学習活動のきっかけをつかむ機会として、多種多様な芸術公演や講習会を開催します。

目 標：市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップを開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



⑫ ICT 関連講座の開催

日進月歩で進化し続ける IT 巻末 4 や ICT について、市民が学べる機会を設け、適切な利用や有効な活用方法を学べる機会を設けます。

目 標：市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：定員に対する参加希望者の割合、アンケート満足度



⑬ 鑑賞機会の充実

市民が様々な芸術を鑑賞できる機会の充実を図るために、各種展覧会や公演、講座等を実施します。

目 標：市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種の展覧会・公演・講座等を実施する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画



(2) 年代に応じた学習機会

＜現状・課題と方向性＞

学習機会の提供を図るうえでは、各年代のニーズに応じて興味や関心をひく内容やテーマ設定が求められます。

アンケートで今後新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマをうかがった結果からは、世代や性別によって学びたいと思う分野や関心のあるテーマに違いがあることが読みとれます。

特徴的なところでは、24歳以下の世代では「スポーツ」への関心が全世代のうち最も高く、次いで「職業上必要な知識・技能・資格」への関心度が高く、いずれも年齢層があがるにつれ、その回答率が低くなっています。逆に年齢層があがるにつれて高くなっているのは「健康づくり」で、これに関連して65歳以上の世代では「特にない」の比率も高まり、生涯学習への取り組み意欲が年齢とともに低減していく傾向も読みとれます。

また性別も含めて特徴的なところでは、24歳以下の世代の男性は「パソコン、インターネット」への関心が高く、64歳以下の女性は「外国語の学習」に対する関心が比較的高い傾向がみられます。25～44歳の世代では「子育て、健康」に対する関心が高く、とくに女性は突出して回答率が高くなっています。その他、65歳以上の世代の男性では「安曇野市の歴史や風土」に対する関心度も高くなっています。

これらの特徴を踏まえ、対象を明確にして学習機会の提供を図っていく必要があります。

生涯学習で新たに学びたい分野・関心のある内容（性別・世代別の回答率）

あなたが今後、生涯学習の一つとして新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマがあれば教えてください。(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康づくり	338	42.3	27.3	23.1	27.5	33.7	38.8	50.4	47.2	47.9
スポーツ	193	24.1	63.6	61.5	27.5	40.4	31.4	19.3	20.2	7.8
芸術	142	17.8	9.1	30.8	18.8	29.8	17.4	26.7	12.3	9.0
職業上必要な知識・技能・資格	120	15.0	40.9	30.8	30.4	30.8	19.0	13.3	4.9	3.0
パソコン、インターネット	118	14.8	31.8	0.0	14.5	18.3	14.9	19.3	12.9	10.2
特にない	113	14.1	9.1	7.7	13.0	5.8	6.6	8.1	17.8	28.1
安曇野市の歴史や風土	109	13.6	9.1	0.0	13.0	9.6	14.9	14.8	20.2	10.2
外国語の学習	106	13.3	13.6	30.8	17.4	32.7	9.1	20.7	3.1	4.8
子育て、教育	102	12.8	18.2	7.7	27.5	41.3	10.7	10.4	1.8	3.0
ボランティア	90	11.3	13.6	7.7	4.3	14.4	12.4	16.3	8.6	10.2
趣味などその他	87	10.9	0.0	15.4	7.2	6.7	13.2	19.3	8.6	9.6
マナー・ライフプラン	83	10.4	13.6	7.7	17.4	17.3	14.0	13.3	3.7	4.8
防犯、防災	82	10.3	9.1	15.4	14.5	11.5	11.6	10.4	11.0	6.0
身近な自然環境や地域環境の保全	78	9.8	9.1	7.7	5.8	13.5	14.9	8.9	11.0	5.4
地域づくり	77	9.6	9.1	0.0	2.9	8.7	15.7	8.9	12.9	7.2
ガイドや指導者として人に伝える技術	37	4.6	13.6	0.0	7.2	5.8	6.6	6.7	1.8	1.8
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例: 0 20 40 60 80 100 ※アンケート結果より

＜施策内容＞

① 青少年体験事業の実施

青少年が体験活動を通じて、協調性や自立心を学べる機会として、青少年体験事業を実施します。

目 標：青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

② 博物館・美術館における親子向け事業の実施

親子で参加できるイベントとして、博物館や美術館で歴史資料^{巻末 7}や美術品に見て・触れて・体験できる機会を設け、市内の公共施設の利用価値や楽しむための手助けにつながる事業を展開します。

目 標：親子が歴史資料や美術品に触れられる機会を設ける

市内の公共施設等へのアウトリーチ^{巻末 5}を行う

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：文化振興計画

③ 子育て勉強会・育児相談の実施

子育て中の保護者の悩みを共有し、不安の解消を図るとともに、よりよい子育てをみんな考えていく機会として、子育て勉強会や育児相談を実施します。

目 標：保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、健康推進課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



④ 「おはなしかい」等の定期開催

親子で本に親しんでもらう機会として「おはなしかい」等を定期的で開催します。

目 標：親子で本に親しんでもらう機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑤ ブックスタート事業の実施

親子が絵本を介して心ふれあう機会をつくるとともに、子どもが本に親しむきっかけをつくるために、親子で参加できる読み聞かせ講座や教室の開催など、ブックスタート事業を実施します。

目 標：親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：図書配布率

成果指標：子どもの読書率、利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



⑥ ヤングアダルト・高齢者を対象とした企画事業

現状において図書館利用の少ないヤングアダルトや高齢者を対象に、企画展や講座等を実施して図書館利用を促し、生涯学習のきっかけをつくります。

目 標：図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：図書貸出数

成果指標：子どもの読書率、利用者満足度

関連計画：図書館基本計画

⑦ 「朗人大学」の開催

学びを通して仲間をつくりながら、幅広い分野の知識や技術などを身に付けられる場として、年間で受講できる「朗人大学」を開催します。

目 標：幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいつくりのきっかけをつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：新規受講者数、開催数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：老人福祉計画及び介護事業計画

⑧ 健康体操教室の開催

市民に健康づくりの取り組みを促し、健康づくりについて考えるきっかけをつくるために、健康体操教室を開催します。

目 標：市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：健康推進課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度



5.1.3 利用満足度の高い施設運営

(1) 施設の運営

＜現状・課題と方向性＞

市民が生涯学習を行っている施設には様々な種類があります。アンケート結果をもとに主な施設を利用率の高い順に並べてみると右表のとおり、公民館、図書館、体育館、交流学习センター、運動場・グラウンド、その他施設、美術館、公園、博物館・資料館の順になっています。これらのうち、その他施設と公園を除く施設について、平成 21 年度から平成 27 年度までの利用者数を 33 ページ～35 ページにそれぞれ図表に整理しました。

この間、一部施設では改修や新築の工事があり、一部年度で利用者数に大きな増減が生じていますが、これらの要素を除くと、ここ数年で際立って大きな増加を示している施設はほとんどありません。

また、アンケート結果から利用する施設の所在地を分析してみると、ほとんどの施設はそれぞれの居住地域内にある施設が多く利用されています。ただし、美術館と博物館・資料館については、居住地域内の施設利用率が極めて低く、美術館については、安曇野市外の施設利用率が最も高くなっています。

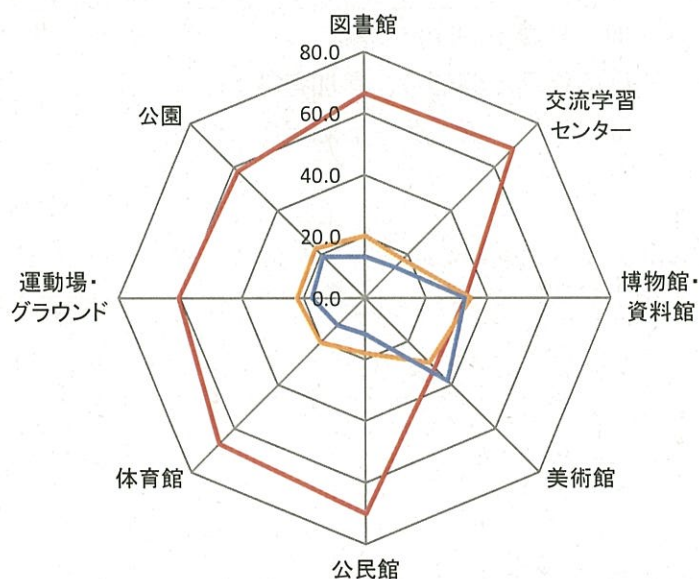
これらの現状を踏まえると、運営上の工夫により、既存の施設の満足度を高めていく余地は十分にあるものと考えられ、各施設に関わる人材育成の面も含め、利用者に提供するサービスの質を高めて、生涯学習の場として利用者の増加につながる施策展開が求められます。

生涯学習でよく利用する施設（再掲）

次の施設うち、あなたが生涯学習の場としてよく利用する施設があればお選びください。

〈複数回答〉	回答数	回答率(%)
公民館	145	41.5
図書館	121	34.7
体育館	81	23.2
交流学习センター	79	22.6
運動場・グラウンド	67	19.2
その他施設	61	17.5
美術館	59	16.9
公園	58	16.6
博物館・資料館	42	12.0

※アンケート結果より



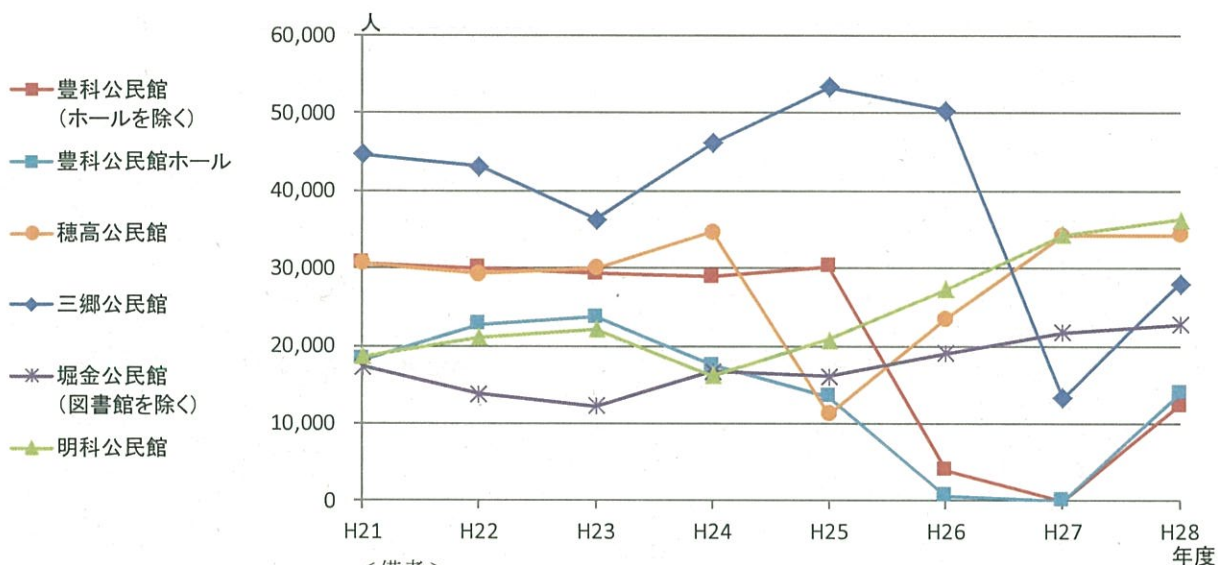
※アンケート結果より

生涯学習でよく利用する施設（所在地別の回答率）

公民館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科公民館(ホールを除く)	30,628	30,000	29,265	28,849	30,181	3,979	-	12,264
豊科公民館ホール	18,232	22,728	23,681	17,480	13,398	585	-	13,822
穂高公民館	30,624	29,254	30,002	34,638	11,134	23,500	34,174	34,355
三郷公民館	44,631	43,138	36,263	46,073	53,298	50,318	13,238	27,997
堀金公民館(図書館を除く)	17,248	13,770	12,168	16,678	16,050	18,984	21,664	22,784
明科公民館	18,657	21,066	22,108	16,170	20,733	27,267	34,310	36,310
合 計	160,020	159,956	153,487	159,888	144,794	124,633	103,386	147,532



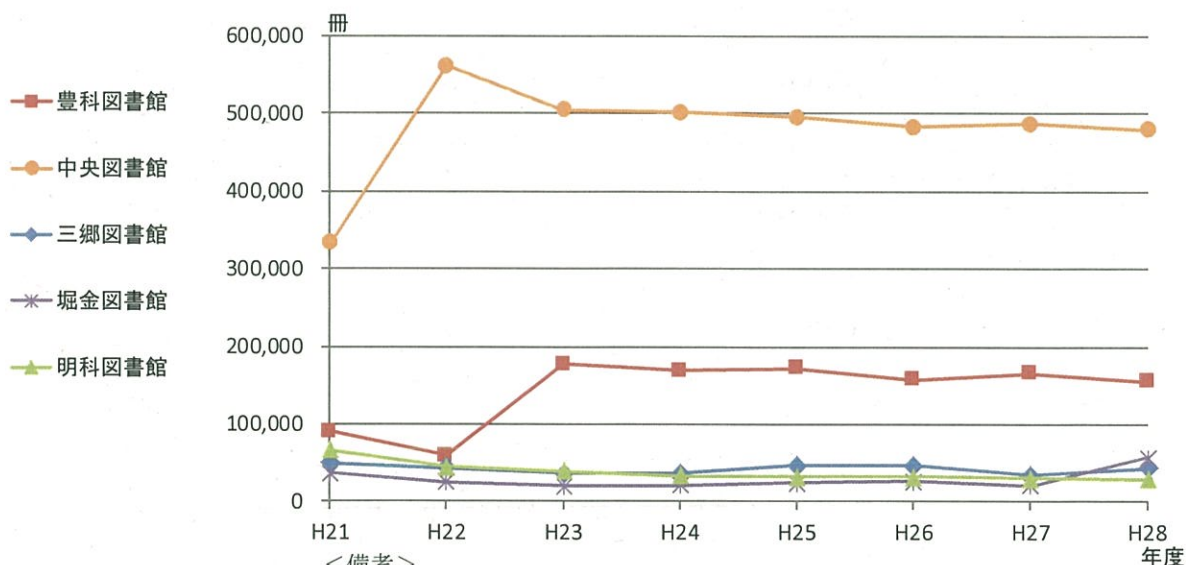
<備考>

- ・豊科公民館ホール H26-27:耐震補強・大規模改修工事
- ・穂高公民館 H25-26:改修工事
- ・三郷公民館 H27:改修工事

図書館の貸出冊数の推移

(年度/冊)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科図書館	89,576	59,413	176,761	168,123	172,067	157,437	165,752	155,613
中央図書館	333,160	561,364	504,721	501,213	494,884	482,270	486,420	479,103
三郷図書館	49,804	43,389	36,663	36,699	46,261	46,533	34,443	43,824
堀金図書館	36,441	25,251	19,424	21,274	23,728	25,541	21,080	56,823
明科図書館	66,341	45,019	39,032	33,194	31,745	31,989	29,685	28,948
合 計	575,322	734,436	776,601	760,503	768,685	743,770	737,380	764,311



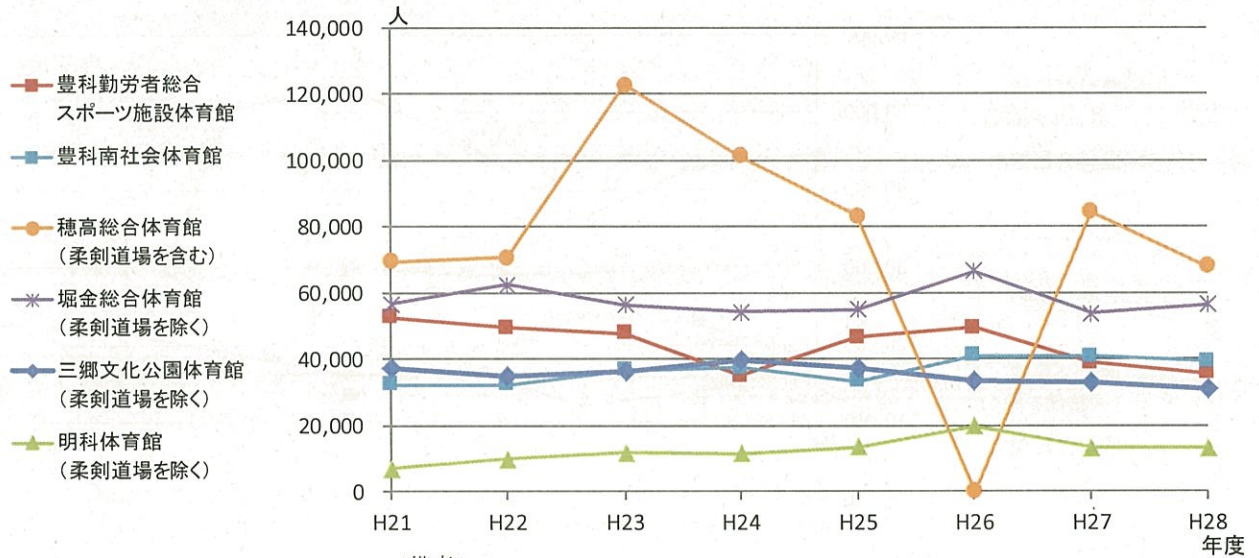
<備考>

- ・豊科図書館(「きぼう」に併設) H23.2月:開館
- ・中央図書館(「みらい」に併設) H21.9月:開館
- ・堀金図書館 H28.4月:堀金支所2階に移転

体育館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科勤労者総合スポーツ施設体育館	52,542	49,421	47,683	34,940	46,449	49,550	38,880	35,663
豊科南社会体育館	32,356	32,356	36,684	37,393	33,362	40,930	40,814	39,268
穂高総合体育館(柔剣道場を含む)	69,391	70,683	122,698	101,417	83,160	-	84,360	68,098
堀金総合体育館(柔剣道場を除く)	56,629	62,543	56,373	54,179	55,059	66,678	53,776	56,536
三郷文化公園体育館(柔剣道場を除く)	37,252	34,854	36,228	39,688	37,266	33,284	33,124	31,049
明科体育館(柔剣道場を除く)	6,973	9,913	11,884	11,580	13,572	19,906	13,257	13,178
合 計	255,143	259,770	311,550	279,197	268,868	210,348	264,211	243,792



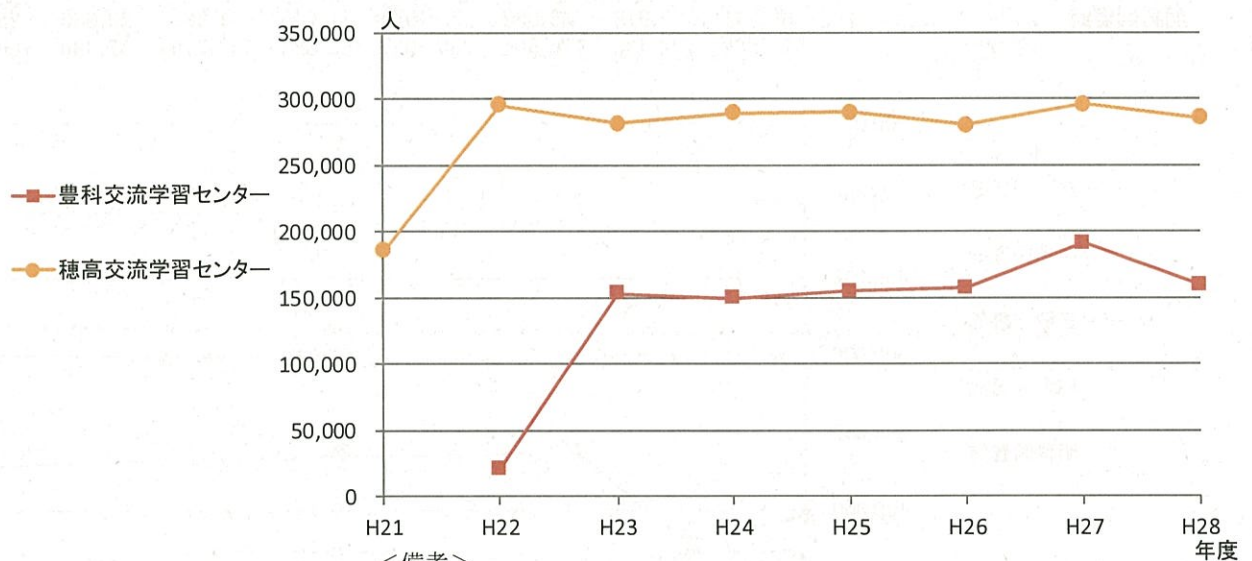
<備考>

・穂高総合体育館 H26:耐震改修工事

交流学習センターの利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科交流学習センター		21,461	153,096	149,515	154,988	157,568	191,429	159,749
穂高交流学習センター	185,600	295,339	281,361	289,697	289,775	280,109	295,901	285,998
合 計	185,600	295,339	281,361	289,697	289,775	280,109	295,901	285,998



<備考>

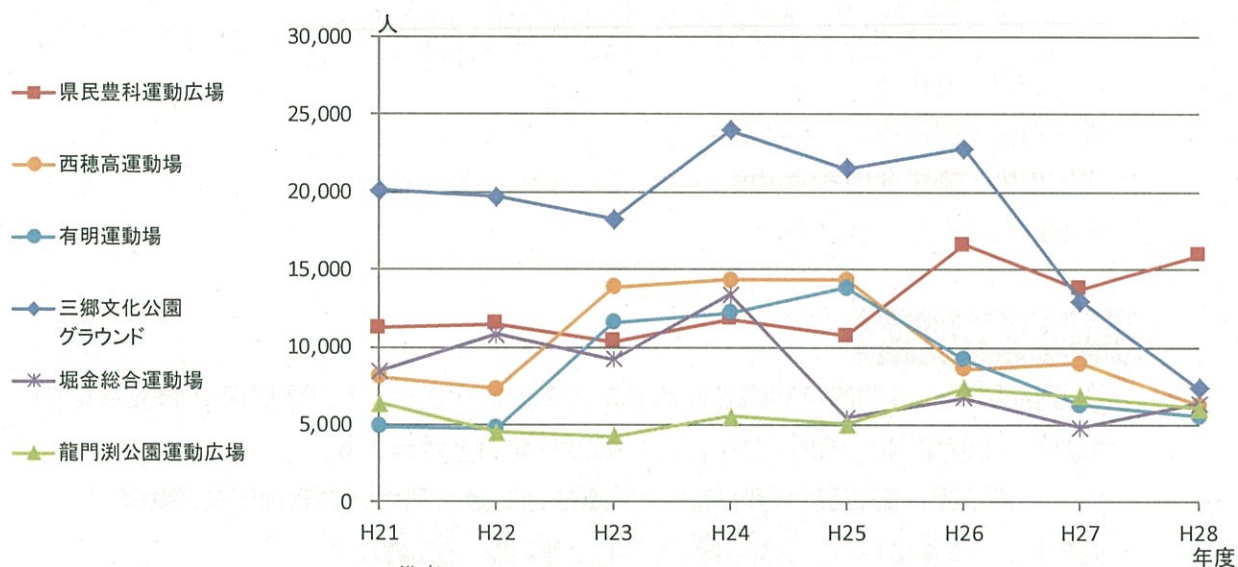
・豊科交流学習センター(「きぼう」) H23.2月:開館

・穂高交流学習センター(「みらい」) H21.9月:開館

運動場・グラウンドの利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
県民豊科運動広場	11,230	11,460	10,361	11,774	10,710	16,568	13,775	15,923
西穂高運動場	8,067	7,316	13,862	14,329	14,316	8,603	8,967	6,258
有明運動場	4,853	4,775	11,590	12,190	13,780	9,180	6,244	5,549
三郷文化公園グラウンド	20,107	19,680	18,238	24,003	21,518	22,802	12,996	7,335
堀金総合運動場	8,441	10,818	9,200	13,408	5,414	6,745	4,787	6,354
龍門洲公園運動広場	6,385	4,504	4,261	5,535	5,030	7,323	6,804	6,028
合 計	59,083	58,553	67,512	81,239	70,768	71,221	53,573	47,447



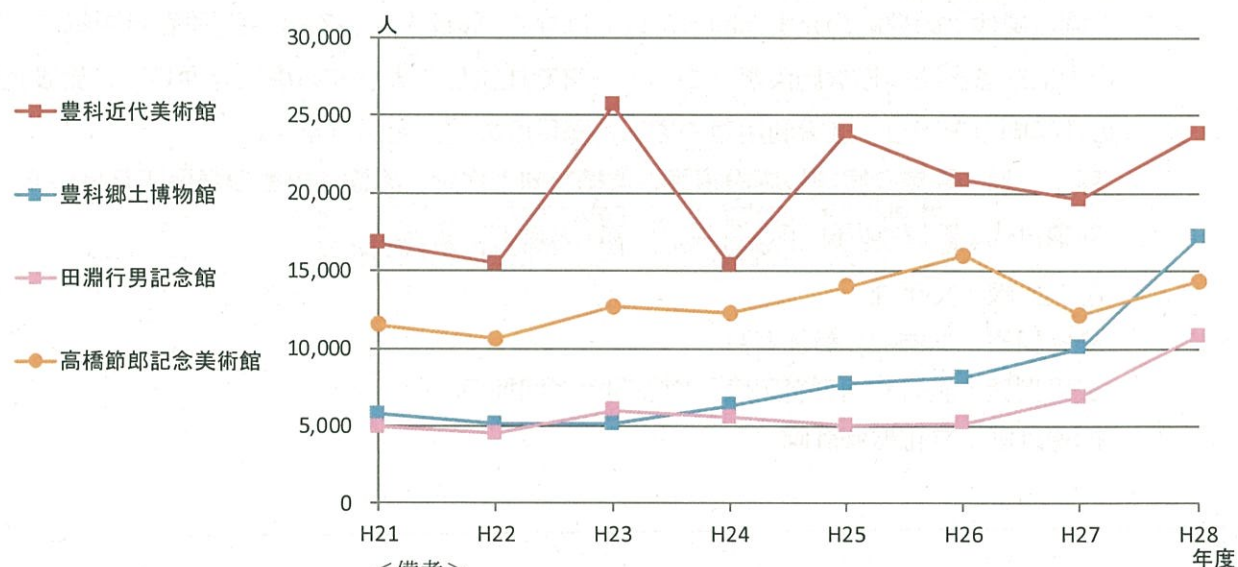
<備考>

・県民豊科運動広場 H24-25: 拡張改修工事 (H25.5: オープン)

美術館・博物館の利用者数の推移

(年度/人)

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
豊科近代美術館	16,726	15,436	25,650	15,377	23,872	20,805	19,607	23,826
豊科郷土博物館	5,752	5,105	5,109	6,333	7,688	8,118	10,016	17,149
田淵行男記念館	4,912	4,518	6,022	5,539	5,038	5,195	6,879	10,790
高橋節郎記念美術館	11,497	10,607	12,651	12,233	13,978	15,970	12,153	14,319
合 計	38,887	35,666	49,432	39,482	50,576	50,088	48,655	66,084



<備考>

・豊科近代美術館の利用者の増減は企画展の内容が大きく影響しているものと推察される。

＜施策内容＞

① 学芸員研修会の開催

学芸員が専門的な知識を深めるための研修会を開催し、施設利用者の満足度の向上につなげます。

目 標：学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：文化振興計画

② 図書館職員研修

図書館職員が専門的な知識を深めるための研修を行い、施設利用者の満足度の向上につなげ、生涯学習のサポーターとしての役割を向上させます。

目 標：図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



③ 施設連携事業の実施

施設単体での機能の充実を図るだけではなく、設備の整っている公民館を中核にして、市内にある多種多様な施設が一つのテーマで連携して実施する事業を通じて、施設相互の連携向上を図り、施設利用者の増加と満足度の向上を図ります。

目 標：事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：施設利用者満足度、施設利用者増加率

関連計画：文化振興計画

④ 常設展・出前（コンパクト）展示の実施

調査研究活動の成果や、収集してきた資料・情報等が市民をはじめとする多くの人々の目に触れられるよう、常設展やコンパクトなかたちでの出前展示を実施し、生涯学習の意欲向上につなげます。

目 標：調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催回数、参加者数

成果指標：開催延べ人数

関連計画：文化振興計画

⑤ 交流学習センターの利便性向上

生涯学習の中核施設となる豊科・穂高の交流学習センターのさらなる利便性の向上を図るために、利用者のニーズを随時把握しながら、改善に努めます。

また、施設全体をコーディネートできる人材育成に努めます。

目 標：施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：利便性向上のための取り組み数

成果指標：施設利用者満足度、施設利用者増加率

⑥ 音響照明スタッフ・レセプションистの活用

講座や講演会の開催に際し、参加者の満足度を高め、学びの意欲向上につながるよう、音響照明スタッフやレセプションist^{巻末 6}など各種スタッフ登録者の技能を生かして、快適な環境をつくり出し、質の高い応対サービスの提供を図ります。

目 標：各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：登録者の活用延回数

成果指標：施設利用者満足度



⑦ 施設利用案内の充実

生涯学習活動の場となる市内の様々な施設の場所（地図）、アクセス方法、駐車場の位置・収容可能台数、利用可能な曜日・時間帯、利用料金その他利用に際しての条件等、施設利用に関する案内情報の充実を図り、利用者が一目でわかりやすいような情報提供に努めます。

また、市民からの要望等を踏まえ、ホームページなどの案内をより見やすく、わかりやすく改善します。

目 標：市民が誰でも気軽に施設を利用できるよう利用案内を充実させる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：実施数

成果指標：施設利用者増加率



（２）施設環境の整備

＜現状・課題と方向性＞

この 10 年間で生涯学習の場となる施設の新設・改修はかなり進んできましたが、利用者の満足度をより一層高めていくためには、生涯学習として関心の高い分野や、現在の施設の利用状況、ICT の進展など取り巻く環境の変化等を踏まえて、施設の新設も含め、展示内容や設備の改善、資料の充実など施設環境の整備に努めていく必要があります。

＜施策内容＞

① 新総合体育館の建設

安曇野市における新たなスポーツ活動の拠点となる新総合体育館の建設を進め、開館後の利用を広く市民に促し、スポーツの取り組みの拡充を図ります。

目 標：市民が幅広いスポーツを行うための体育館を建設する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：施設利用者数

成果指標：施設利用者満足度

関連計画：スポーツ推進計画



② 公民館、交流学習センター等の会議室の Wi-Fi 環境拡充

各地域の公民館や、豊科、穂高の交流学習センターなど、生涯学習の拠点施設の会議室における Wi-Fi（公衆無線 LAN）^{巻末 8} 設備を充実させ、リアルタイムで快適に情報通信できる環境を整えることによって、生涯学習の充実と現場からの生涯学習情報の発信機能の向上を図ります。

目 標：快適なインターネット環境を提供し、新たな利用者を増やす

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、図書館交流課

施策指標：施設カバー率、接続回数（ログ）

成果指標：施設利用者増加率

③ 博物館・美術館の展示環境の改善

市内にある既存の博物館や美術館における常設展示内容を工夫するなど、わかりやすい展示に向けて継続的な改善を図るとともに、快適な鑑賞環境を整え、市民が学術・芸術・文化に親しめるよう努めます。

目 標：誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：アンケート満足度

成果指標：対象年齢及び利用者全体の増加率

関連計画：文化振興計画

④ 必要・十分な量の図書館資料の整備

市民が学ぶ喜びを味わい、学びの楽しさを知り、学びを深めることができる最も身近な施設である図書館の資料の充実に努め、必要・十分な量の図書館資料の整備に努めます。

目 標：図書資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：人口一人当たり貸出蔵書数、貸出冊数

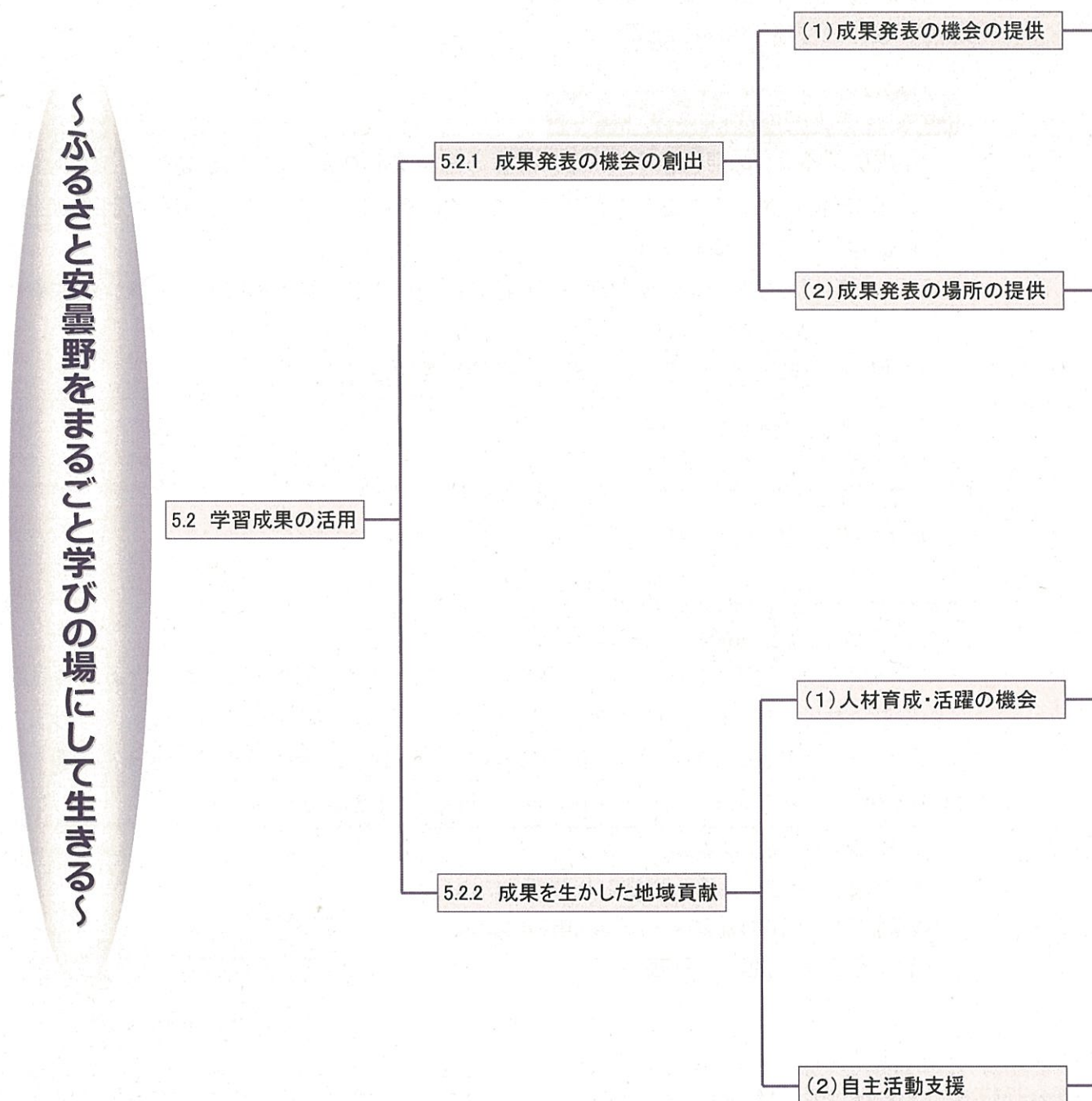
成果指標：市民の読書率、施設利用者満足度

関連計画：図書館基本計画



5.2 学習成果の活用

「学習成果の活用」についての施策展開を系統図（40、41 ページ）にまとめました。生涯学習は学んで終わりではなく、一人ひとりがその学びの成果を生かすことが重要だと考えています。



〔施策項目〕と〔施策目標〕は42～51 ページの間に示す施策内容と対応しています。

ライフステージごとに定めたスローガン

【24 歳以下の世代】
夢・未来へ 学びで
新しい自分や仲間と
出会おう

【25～44 歳の世代】
家族も地域も
みんなで楽しく
学び合おう

【45～64 歳の世代】
学びでリフレッシュ！
自分を磨き、社会に
役立てよう

【65 歳以上の世代】
学びながら生きる
次代の安曇野人を
育もう

〔施策項目〕

〔施策目標〕

① 環境フェアの開催

: 環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める
来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める →P42

② こども文化祭の開催

: 青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める →P43

③ 市民スポーツ祭の開催

: 市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める →P43

④ 新進音楽家公開演奏会の開催

: 新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める →P43

⑤ 地域文化祭の開催

: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P44

⑥ 公募展の開催

: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P44

⑦ 機関誌等の発行

: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める →P44

① 貸スペースの稼働率の向上

: 市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める →P45

② 発表の場としてのホールの活用

: 交流学習センターや公民館ホールを発表の場として市民に提供し、活動意欲を高める →P45

① 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催

: 地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる →P47

② ジュニア・リーダー養成講座の開催

: 大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する →P47

③ 青少年スポーツ指導者講習会の開催

: スポーツ指導者を育成する →P47

④ 読み聞かせボランティアの育成

: 読み聞かせのボランティアを育成する →P48

⑤ 図書館ボランティア研修会の開催

: 図書館ボランティアの知識を深める研修会を開催する →P48

⑥ 安曇野市コミュニティスクール事業の実施

: 学校活動を支援する者をボランティアとして登録し、学校の要請に応じ活用する →P48

⑦ スポーツマイスター制度(仮称)の実施

: 技能を持つ者をスポーツマイスターとして登録し、活用する →P49

⑧ リーダーバンク制度の活用

: 地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する →P49

⑨ 健康づくり推進員の活動拡充

: 健康づくり推進員が地域において活動する →P49

⑩ 手話奉仕員養成講座の開催

: 日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する →P50

⑪ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催

: 災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる →P50

① 自主サークル設立支援

: 市民が継続的に自主活動できるように支援する →P51

② 市民活動サポートセンターの充実

: 市民活動を支援・促進し、協働を推進する →P51

③ 図書館ボランティアの主体的な活動

: 図書館ボランティアが主体的に事業を実施する →P51

5.2.1 成果発表の機会の創出

(1) 成果発表の機会の提供

<現状・課題と方向性>

生涯学習には多種多様な活動があるなかで、それぞれに活動する市民や団体が必ずしもその成果を発表する機会に恵まれているとはいえないのが現状です。

生涯学習は他の人にその成果を定期的にみてもらうことで、活動継続のモチベーションや活動を通じて培われる資質・能力の向上にもつながります。またそうした発表の場で、同じ内容を学ぶ者同士が一堂に会し、交流が生まれることにより、有益な情報の共有や仲間づくりにもつながります。さらにはそうした発表の場に観賞のために訪れた参加者が、その活動に取り組むきっかけにもなることも期待できます。

必ずしも大規模な発表の場あるいはそのための発表の場でなくても、多くの人々が集まる既存のイベントなどとタイアップして、様々な生涯学習の活動成果を発表できる機会を積極的につくり出し、活動意欲の向上につなげていく必要があります。

<施策内容>

① 環境フェアの開催

環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、互いに交流する場になっている「安曇野環境フェア」の開催を継続して、当該団体の活動意欲の向上を図るとともに、来訪者の環境に対する意識を高めます。

目 標：環境活動団体が日頃の取り組みの成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める

来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める

対象世代：

24 歳以下	25～44 歳	45～64 歳	65 歳以上
--------	---------	---------	--------

担 当 課：環境課

施策指標：参加団体数、来場者数

成果指標：参加者・出展者アンケート、来場者アンケートの満足度

関連計画：環境基本計画



② こども文化祭の開催

青少年が日頃の活動の成果を発表し、同世代と出会う場にもなっている「安曇野市こども文化祭」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上と、学校や地域、年齢の枠組みを超えてつながる仲間づくりを促進します。

目 標：青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：出演団体、参加者数、来場者数

成果指標：参加者来場者アンケートの満足度

③ 市民スポーツ祭の開催

市民が日頃のスポーツ活動の成果を競い合う場となっている「安曇野市民スポーツ祭」の開催を継続し、参加者の活動意欲の向上とスポーツ活動の推進を図ります。

目 標：市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：種目別競技会の開催数、参加者数

成果指標：競技会の記録、参加者アンケートの満足度

関連計画：スポーツ推進計画

④ 新進音楽家公開演奏会の開催

新進の音楽家が技量を競い合い、発表する場になっている「あづみの新進音楽家公開オーディション」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上を図ります。

目 標：新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：演奏会参加者数

成果指標：選出者の市主催自主企画公演依頼回数



⑤ 地域文化祭の開催

各地域で行っている文化祭の開催を継続し、市民の日頃の文化活動の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動に取り組む人々の参加意欲の向上を図ります。

また現在、地域単位で行っている文化祭を統合し、市全体で開催できる可能性についても検討します。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、地域課

施策指標：出品数、来場者数

成果指標：来場者アンケートの満足度



⑥ 公募展の開催

多彩な生涯学習の成果を多くの人々に見てもらえる場として、様々なテーマで開催する公募展を継続し、それぞれの活動意欲の向上を図ります。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：開催数、来場者数、応募者数

成果指標：来場者アンケートの満足度

関連計画：文化振興計画

⑦ 機関誌等の発行

市民の日頃の成果を紹介する機関誌等の発行を促し、多くの人々に見てもらえることで、活動意欲の向上を図ります。

また、新聞やラジオ等のメディアを通じて活動を発信できる機会の確保に努めます。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：発行部数

成果指標：残数

関連計画：文化振興計画

(2) 成果発表の場所の提供

＜現状・課題と方向性＞

成果発表の機会の提供で述べた現状・課題と方向性と同様に、成果発表の場所の提供もまた重要になります。市内にある屋内外の様々な公共施設や公共的な空間の有効活用を促し、成果発表の場所として積極的に利用してもらうことによって、活動意欲の向上につなげていくことが求められます。

＜施策内容＞

① 貸スペースの稼働率の向上

市有施設の有効活用を図り、市民の日頃の成果を見てもらう場としての利用を促し、活動意欲の向上につなげます。

目 標：市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

施策指標：出展者数

成果指標：稼働率、利用者アンケートの満足度

関連計画：文化振興計画



② 発表の場としてのホールの活用

豊科、穂高の交流学習センターや各地域の公民館にあるホールを、市民の日頃の活動成果を発表する場としての利用を促し、活動意欲の向上を図ります。

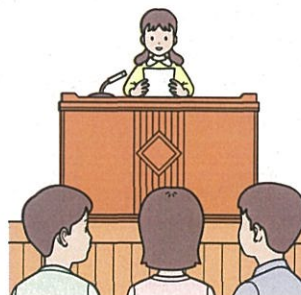
目 標：交流学習センターや公民館ホールを発表の場として市民に提供し、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課、図書館交流課

施策指標：利用者数

成果指標：稼働率、利用者アンケートの満足度



5.2.2 成果を生かした地域貢献

(1) 人材育成・活躍の機会

＜現状・課題と方向性＞

生涯学習の成果を他の人に発表するだけでなく、地域貢献に生かしていくことは、その活動に取り組む人にとって、より大きな活動継続のモチベーションにつながるだけでなく、本市のまちづくりや地域社会の発展のためにも有益です。

しかしながら、アンケート結果では「生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか」という問いかけに対しては、「健康維持、老化防止」や「自らの生きがいくつくり」などの項目は回答率が高いのに対して、地域貢献に直結するような項目の回答率は相対的に低い傾向にありました。ただそのなかでも「地域づくりの推進」や「社会福祉活動」と答えた人の割合はいずれも1割台で比較的高く、男女別にみると「地域づくりの推進」はどの年代でも男性の回答率が女性よりも高く、「社会福祉活動」は25歳以上では女性の回答率が男性よりも高い傾向がみられました。また、25～44歳の世代の女性は「地域の子どもたちへの学習活動」の回答率が2割を超えるなど、現に子育てに携わっている人が多いこの世代の特徴を反映した傾向もみられました。

このように、性別や世代によって関心のあるテーマが異なることも考慮しながら、生涯学習の成果を地域貢献につなげられるような人材育成や活躍の機会の創出を図っていくことが求められます。

生涯学習の学びから役立てたいこと（性別・世代別の回答率）

あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。

(%)

<複数回答>	全体		24歳以下の世代		25～44歳の世代		45～64歳の世代		65歳以上の世代	
	回答数	回答率	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
健康維持、老化防止	446	55.8	40.9	30.8	43.5	52.9	46.3	64.4	59.5	63.5
自らの生きがいくつくり	422	52.8	40.9	30.8	46.4	60.6	57.0	65.2	47.9	45.5
教養の向上	265	33.1	31.8	46.2	43.5	57.7	39.7	46.7	16.6	14.4
生活の安定・安全確保・質的向上	174	21.8	45.5	38.5	30.4	29.8	24.8	20.7	16.6	13.2
仕事や就職	114	14.3	59.1	46.2	36.2	27.9	15.7	10.4	1.8	2.4
地域づくりの推進	94	11.8	18.2	15.4	8.7	11.5	18.2	8.1	16.6	6.0
社会福祉活動	88	11.0	0.0	0.0	7.2	15.4	11.6	14.8	8.6	11.4
特にない・生涯学習に関心がないので答えようがない	80	10.0	4.5	15.4	8.7	4.8	5.8	7.4	14.1	15.6
地域の子どもたちへの学習活動	74	9.3	13.6	0.0	8.7	20.2	13.2	10.4	4.3	4.2
身近な自然環境や地域環境の保全	72	9.0	4.5	0.0	4.3	8.7	10.7	12.6	10.4	7.2
地域の伝統文化の継承	62	7.8	4.5	0.0	5.8	11.5	9.1	8.1	7.4	6.6
国際交流の発展	42	5.3	9.1	7.7	8.7	8.7	5.0	7.4	3.1	1.8
ガイドや指導者としての活動	32	4.0	4.5	0.0	4.3	6.7	4.1	4.4	3.1	2.4
その他	6	0.8	0.0	7.7	1.4	0.0	0.0	0.7	1.8	0.0
回答数	800		22	13	69	104	121	135	163	167

回答率による色分けの凡例:

0	20	40	60	80	100
---	----	----	----	----	-----

※アンケート結果より

<施策内容>

① 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催

防災啓発活動や日頃の防災に関する学びに取り組む人向けに、自主防災会長・自主防災リーダー研修会を開始し、地域の自主防災組織でリーダーとして活躍できる人材の育成を図ります。

目 標：地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：危機管理課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：訓練実施組織数

関連計画：地域防災計画

② ジュニア・リーダー養成講座の開催

ジュニア・リーダー養成講座の開催を継続して、大人と子どもの架け橋となって地域で活躍できる子どもの養成を図ります。この講座では長期的な視点で、段階的に育成できるプログラムを実施するとともに、実際に地域で活躍できる場面をつくり、地域の人々に活動内容や講座の成果を伝えられるように努めます。

また、ジュニア・リーダーの講師となる人材の確保も図ります。

目 標：大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：ジュニア・リーダー人数



③ 青少年スポーツ指導者講習会の開催

青少年がスポーツを安全に楽しみながら学んでもらうために、適切な指導を行える青少年スポーツ指導者の講習会を開催します。

各競技団体で実施している指導者講習会と役割分担をして、技術的な指導者よりも、競技種目を問わず、基礎体力づくりや全体のコーディネートができる人材育成を目指すとともに、指導者の候補となる人材の確保にも努めます。

目 標：スポーツ指導者を育成する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：青少年スポーツ指導者人数

関連計画：スポーツ推進計画

④ 読み聞かせボランティアの育成

想像力や言語能力の向上、感情を豊かにするなどの効果が期待される読み聞かせボランティアの育成を図ります。

学習成果を生かす場として、子育てサポート活動での活躍や子育て世代に向けての読み聞かせのコツなど教える講師としての活躍を図ります。

目 標：読み聞かせのボランティアを育成する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：読み聞かせボランティア人数

関連計画：図書館基本計画



⑤ 図書館ボランティア研修会の開催

読み聞かせ活動のみならず、図書の整理や貸出・返却等の支援を含め、図書館の環境づくりに寄与する図書館ボランティアを育成する研修会を開催し、知識を深めて、市内各地域の図書館での活躍を図ります。

目 標：図書館ボランティアの知識を深める研修会を開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：図書館基本計画

⑥ 安曇野市コミュニティスクール事業の実施

学校と地域や保護者が力を合わせ、子どもたちの学びや健全な成長を支援する取り組みとして、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともに作る学校」を目指します。学校の要請に応じ、支援される地域の方々の経験・技術を役立てられる環境づくりを推進します。

目 標：学校活動を支援する者をボランティアとして登録し、学校の要請に応じ活用する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：学校教育課

施策指標：事業申込数

成果指標：ボランティア活用数

関連計画：安曇野市教育大綱

⑦ スポーツマイスター制度（仮称）の実施

各スポーツに関してとくに優れた技能を有する者をスポーツマイスターとして登録し、市民のニーズに応じて活躍できるスポーツマイスター制度（仮称）を実施します。

目 標：技能を持つ者をスポーツマイスターとして登録し、活用する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：登録者数

成果指標：マイスター活用数

関連計画：スポーツ推進計画

⑧ リーダーバンク制度の活用

スポーツや芸術など各分野に精通している方を人材として登録しているリーダーバンク制度を生かして、とくに地域の自然や考古、歴史、民俗等の成り立ちに関する知識を有する人材の登録を促し、地域の魅力を人々にわかりやすく伝えられるガイドや、地域づくりを主導できるリーダーとして育成するための講座やプログラムの充実を図ります。

目 標：地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

施策指標：登録者数

成果指標：リーダー活用数

⑨ 健康づくり推進員の活動拡充

生涯学習に取り組む上で必要な自己の健康の維持・増進を図るために、各地域で健康づくりの取り組みを広げる健康づくり推進員を育成し、活動を広げます。

目 標：健康づくり推進員が地域において活動する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：健康推進課

施策指標：地区活動回数、参加者数

成果指標：推進員活動回数

関連計画：健康づくり計画



⑩ 手話奉仕員養成講座の開催

日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催し、聴覚障がい者のコミュニケーションサポーターとしての活躍を図ります。

目 標：日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する

対象世代：－

担 当 課：福祉課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：障害福祉計画



⑪ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催

日赤奉仕団活動としての訓練や講習会等を開催し、災害時に奉仕活動できるリーダーを育成します。

目 標：災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる

対象世代：☐ 24 歳以下 ☒ 25～44 歳 ☒ 45～64 歳 ☐ 65 歳以上

担 当 課：長寿社会課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：訓練参加者数

関連計画：地域福祉計画



(2) 自主活動支援

＜現状・課題と方向性＞

生涯学習の成果を地域貢献に生かしていくためには、行政側からその機会の提供を図るだけでなく、地域貢献に資する自主的な活動の支援も重要です。

現状ではそうした活動支援が十分といえない面もあるため、市民が必要とするサービス内容を随時把握して、的確な支援策を展開していく必要があります。

＜施策内容＞

① 自主サークル設立支援

生涯学習の一貫として市民が主体的にサークルを立ち上げ、自主的な生涯学習の取り組みを全市に展開していくために、自主サークルの設立を支援します。

目 標：市民が継続的に自主活動できるように支援する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課 社会教育担当

施策指標：設立団体数、加入者数

成果指標：自主サークル継続活動数

② 市民活動サポートセンターの充実

様々な生涯学習の市民活動を支援し、活動の促進を図るとともに、市民と行政、その他団体等との連携・協働を促す市民活動サポートセンターの充実を図ります。

目 標：市民活動を支援・促進し、協働を推進する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：地域づくり課

施策指標：講座開催数、通信発行回数

成果指標：登録団体数

③ 図書館ボランティアの主体的な活動

図書館ボランティアが活躍できる様々な事業展開を図り、主体的に活動できる場を広げます。

目 標：図書館ボランティアが主体的に事業を実施する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：図書館交流課

施策指標：図書館サポーター数

成果指標：サポーター主体事業実施数

関連計画：図書館基本計画

第6章 本計画の進め方

6.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～

本計画の推進にあたっては、第1次生涯学習推進計画策定時に構築した総合的な体制を継承し、市民等との連携・協働を軸に、庁内で計画の進捗管理を行う生涯学習推進本部と計画の進捗状況の確認を行う生涯学習推進市民会議が両輪となって、関係する庁内各課や附属機関・行政機関と連携を図りながら計画を進めます。

右図に示す体制を念頭に、各主体の果たす役割を以下に示します。

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習推進本部は、関係各課を構成員とする庁内組織で、計画の進捗管理のほか、関係各課の関連施策との調整を図りながら、本計画に基づく個別施策の実施方針や重点施策等を決定し、関係各課に必要な事業展開を指示するとともに、市民等の意向を把握して、個別施策及び計画全体の効果の分析・評価を行い、必要に応じた計画を見直し、改善を図ります。

(2) 生涯学習推進市民会議

生涯学習推進市民会議は、市民や関係する附属機関・行政機関の代表者らで構成する組織で、定期的に計画の進捗状況の確認を行い、生涯学習推進本部と連携して、計画推進に関わる事項の決定に際しての検討や、個別施策及び計画全体の効果の確認・検証を行い、必要な提言を行います。

(3) 関係各課

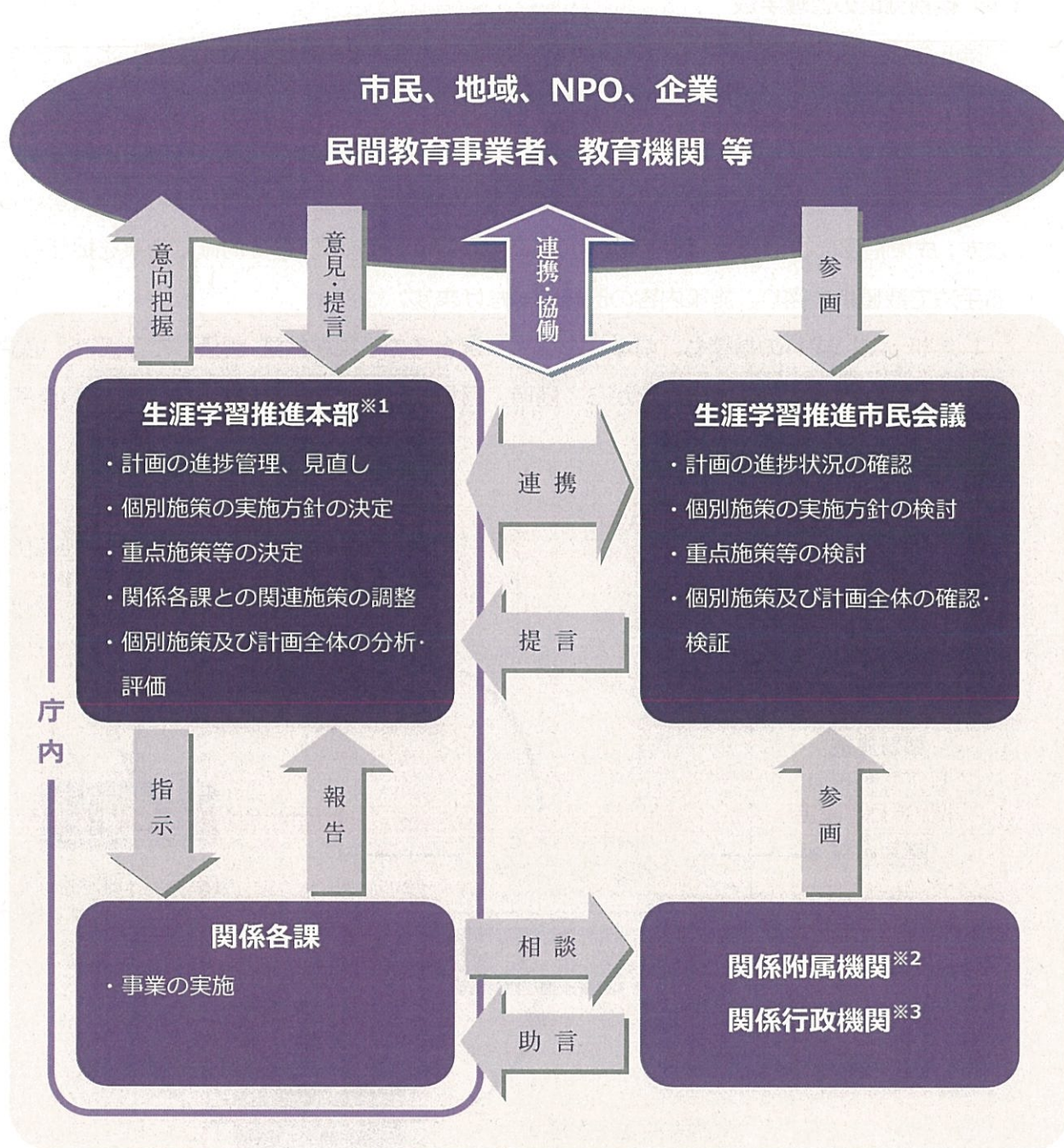
関係各課は、本計画に基づく事業の主体として、生涯学習推進本部の指示を踏まえ、計画の目的や個別施策の目標に沿って事業を実施します。

(4) 関係する附属機関・行政機関

関係する附属機関・行政機関は、計画の進捗管理や事業実施に際し、生涯学習推進本部や関係機関からの相談に応じて、必要な助言を行います。また、生涯学習推進市民会議にも参画して、計画の推進と改善に努めます。

(5) 市民等の役割

生涯学習の取り組み主体である市民は、意向調査や生涯学習推進市民会議への参画を通じて、計画や事業に対する意見・提言も行うとともに、地域、NPO、企業、民間教育事業者、教育機関等とともに、計画の推進と改善に努めます。



※1 生涯学習推進本部の構成員

危機管理課、人権男女共同参画課、地域づくり課、環境課、福祉課、子ども支援課、健康推進課、文化課、図書館交流課、生涯学習課（事務局）

※2 社会教育委員の会など社会教育関係の附属機関

※3 国や県の行政機関

本計画の推進体制

6.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～

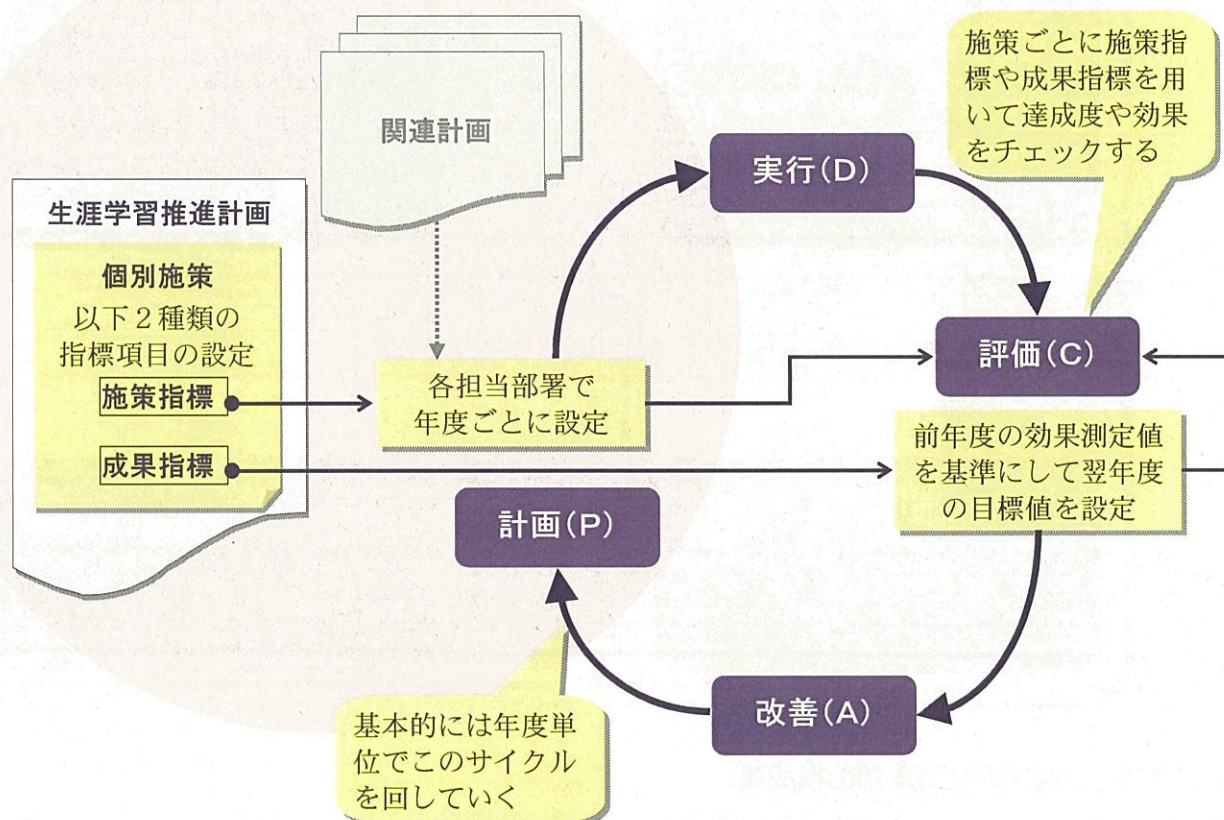
本計画の実効性を担保するための計画管理の手法を示します。

(1) 個別施策の管理手法

第5章に示した個別施策には、施策ごとにその達成度を測る指標（施策指標）と、施策の効果を測る指標（成果指標）の項目を定めました。

施策指標は、関連計画に記載のある施策であればその内容も踏まえて、各担当部署で年度ごとに目標数値を定め、PDCA サイクル^{巻末9}で、達成状況を確認しながらその進捗を管理します。成果指標については、施策実施後のアンケートなど施策ごとに的確に効果を捉えられる手法で数値化を図り、施策内容の改善につなげます。

したがっていずれの指標も、前年度の実施状況とその効果を検証・評価したうえで、必要に応じた施策内容の改善を図りながら、随時、目標数値を定めるプロセスを基本とします。



個別施策の管理手法

(2) 計画全体の包括的な評価手法

第5章の施策展開に示す施策の小分類単位で、個別施策の展開による包括的な効果を定期的に評価するための指標（包括的評価指標）を以下のとおり定めます。

これらの指標は住民による評価を基本とし、原則として、本計画策定時のアンケートと同様の設問で、前期5か年の満了時及び後期5か年の満了時にそれぞれ実施するものとします。なお、前期5か年の満了時には必要に応じて、目標数値等の見直しを行います。

5.1 学習機会の充実

5.1.1 生涯学習に取り組みやすい環境づくり

(1) 情報の発信・提供

包括的評価指標その1	現 状 (H28)	目 標 (H39)
「生涯学習」という言葉の認知度 ^{注1)}	30.4%	40%

注1) 問「生涯学習という言葉の意味を知っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 妨げ要因への対応

包括的評価指標その2	現 状 (H28)	目 標 (H39)
過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注1)}	43.6%	54%

注1) 問「この5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをしたか」に対する「はい」の回答率

5.1.2 生涯学習の機会の提供

(1) 分野に応じた学習機会

包括的評価指標その3	現 状 (H28)	目 標 (H39)
仕事に役立つ知識・技術の学習機会の充実度 ^{注1)}	9.3%	19%
情報化に対応するための学習機会の充実度 ^{注2)}	8.9%	19%
環境問題の学習機会の充実度 ^{注3)}	13.4%	23%
安全・安心な地域づくりの学習機会の充実度 ^{注4)}	16.8%	27%
人権理解のための学習機会の充実度 ^{注5)}	18.6%	29%

注1) 問「仕事に役立つ知識や技術を身に付ける学習の機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「情報化に対応するための学習の機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注3) 問「環境問題について学習する機会が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注4) 問「安心・安全な地域づくりのための学習の機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注5) 問「人権について正しく理解するための学習の機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 年代に応じた学習機会

包括的評価指標その4	現 状 (H28)	目 標 (H39)
24歳以下の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注1)}	男性：31.8% 女性：23.1%	男性：42% 女性：33%
25～44歳の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注2)}	男性：39.1% 女性：49.0%	男性：49% 女性：59%
45～64歳の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注3)}	男性：47.9% 女性：50.4%	男性：58% 女性：60%
65歳以上の世代における過去5年間の生涯学習の取り組みの有無 ^{注4)}	男性：41.7% 女性：40.1%	男性：52% 女性：50%

注1～4) いずれも問「生涯学習という言葉の意味を知っているか」に対する「はい」の回答率

5.1.3 利用満足度の高い施設運営

(1) 施設の運営

包括的評価指標その5	現 状 (H28)	目 標 (H39)
生涯学習施設の管理・運営に対する満足度 ^{注1)}	27.1%	33%

注1) 問「市立の各生涯学習施設は、市職員が適切に管理・運営しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 施設環境の整備

包括的評価指標その6	現 状 (H28)	目 標 (H39)
学習環境の整備に対する満足度 ^{注1)}	15.8%	31%

注1) 問「誰もが学習に参加しやすい環境が整っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

5.2 学習成果の活用

5.2.1 成果発表の機会の創出

(1) 成果発表の機会の提供

包括的評価指標その8	現 状 (H28)	目 標 (H39)
学習成果の発表機会に対する満足度 ^{注1)}	20.1%	26%
市民同士の交流に対する満足度 ^{注2)}	16.4%	22%

注1) 問「学習した成果を発表する機会があるか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「市民同士の交流が盛んに行われているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 成果発表の場所の提供

包括的評価指標その9	現 状 (H28)	目 標 (H39)
公民館の学習・交流の場としての活用度 ^{注1)}	42.3%	52%
交流学習センターの活用度 ^{注2)}	35.3%	45%

注1) 問「公民館は地域の学習・交流の場としての役割を果たしているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「交流学習センターは市民活動の場として活用されているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

5.2.2 成果を生かした地域貢献

(1) 人材育成・活躍の機会

包括的評価指標その10	現 状 (H28)	目 標 (H39)
学習成果の地域還元に対する満足度 ^{注1)}	10.5%	16%
リーダーバンク制度の充実に対する満足度 ^{注2)}	7.4%	13%

注1) 問「生涯学習の成果である知識や技能が地域に還元されているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

注2) 問「リーダバンク制度が充実しているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

(2) 自主活動支援

包括的評価指標その11	現 状 (H28)	目 標 (H39)
ボランティア活動に取り組める環境整備に対する満足度 ^{注1)}	19.6%	25%

注1) 問「ボランティア活動に積極的に取り組める環境が整っているか」に対する「そう思う」・「ややそう思う」の回答率

※包括的評価指標の分類は第5章の施策分類と対応

付属資料

資料1 計画策定の主な経過

資料2 計画策定に係る委員会等

資料3 用語解説

資料 1 計画策定の主な経過

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会

開催回数	開催年月日 (討議形式)	内 容
第1回	平成 29 年 4 月 27 日 (全体討議)	・委員の委嘱 ・スケジュールの確認 ・第1次計画の問題点と現在の状況
第2回	平成 29 年 5 月 30 日 (グループ討議)	・計画体系の確認 ・基本理念の案 ・基本目標、施策の柱・内容案
第3回	平成 29 年 7 月 12 日 (全体討議)	・基本理念の確認 ・基本目標、施策の柱・内容決定 ・具体的な取り組みの検討その1
第4回	平成 29 年 8 月 18 日 (グループ討議)	・具体的な取り組みの検討その2
第5回	平成 29 年 11 月 9 日 (全体討議)	・第2次計画素案の検討 ・具体的な取り組みの決定 ・主要施策・施策の評価方法の決定
第6回	平成 29 年 11 月 30 日 (全体討議)	・第2次計画案の決定 ・公表までのスケジュール
第7回	平成 30 年 2 月 2 日 (全体討議)	・第2次計画案の修正箇所の確認

■ アンケート

調査期間	平成 28 年 11 月 16 日～平成 28 年 11 月 30 日
調査対象	安曇野市内在住の 18 歳以上の住民 2,500 人（層化無作為抽出）
調査結果	回収数：800 通（回収率：32%）

■ 意見募集（パブリックコメント）

募集期間	平成 29 年 12 月 20 日～平成 30 年 1 月 19 日
------	------------------------------------

資料2 計画策定に係る委員会等

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱

平成28年12月27日教育委員会告示第10号

(設置)

第1条 第2次安曇野市生涯学習推進計画（以下「計画」という）の策定に係る提言をするため、第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の策定に関すること。
- (2) 計画に係る市民からの意見の分析に関すること。
- (3) その他計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は15人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 生涯学習に関する見識を有する者
- (2) 学校教育関係者
- (3) 社会教育関係者
- (4) 家庭教育関係者
- (5) 安曇野市社会教育委員
- (6) 市内の生涯学習に関する団体の関係者
- (7) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、計画策定の日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き又は説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、平成29年1月1日から施行する。

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長

区 分	氏 名	備 考
生涯学習に関する見識を有する者	◎宮下 健司	元長野県立歴史館総合情報課長
学校教育関係者	小林 栄子	安曇野市校長会選出 穂高西小学校長
社会教育関係者	安井 邦夫	明科公民館長
	宮下 克彦	高橋節郎記念美術館長
	百瀬 佳子	堀金図書館長
	幅 修一	元社会教育指導員
家庭教育関係者	上兼 裕	安曇野市社会福祉協議会職員
	亀井 智泉	おはなし つむぎいと代表
安曇野市社会教育委員	○平田 米子	副議長
	平倉 勝美	委員
市内の生涯学習に関する団体の関係者	降旗 幸子	芸術文化協会連絡協議会会長
	古川 節雄	体育協会 専務理事
その他教育委員会が必要と認める者	三澤 禮司	放課後子ども教室ボランティア
	堀金 隆雄	生涯学習講座受講者
	舟橋 嘉奈子	リーダーバンク登録者

(敬称略)

■ 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議設置規程

平成28年8月24日教育委員会訓令第3号

(設置)

第1条 第2次安曇野市生涯学習推進計画（以下「計画」という）策定に当たり、計画の基本方針や推進する施策等を検討するため、第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議（以下「会議」という）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議の所掌事務は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の策定に必要な調査研究に関すること。
- (2) 計画により推進する施策等に関すること。
- (3) 計画の策定に係る部局との連絡調整に関すること。
- (4) その他計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 会議は、会長、副会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は教育部長を、副会長は生涯学習課長を、委員は別表に掲げる職にある者をもってこれに充てる。
- 3 会長は、会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 会議は、構成員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(事務局)

第5条 会議の事務局は、生涯学習課に置く。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って別に定める。

附 則

この訓令は、公布の日から施行する。

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定プロジェクト会議構成員

部局名	課 名	職 名
総務部	危機管理課	危機管理担当係長
総務部	人権男女共同参画課	人権男女共生担当係長
政策部	情報統計課	情報政策係長
市民生活部	地域づくり課	まちづくり推進係長
市民生活部	環境課	環境政策係長
福祉部	長寿社会課	福祉政策担当係長
保健医療部	健康推進課	保健予防係長
教育委員会教育部	学校教育課	学校教育係長
教育委員会教育部	生涯学習課	社会教育担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課	スポーツ推進担当係長
教育委員会教育部	文化課	文化振興係長
教育委員会教育部	文化課	博物館係長
教育委員会教育部	図書館交流課	図書館交流担当係長

■ 安曇野市生涯学習推進本部設置要領

(設置)

第1 安曇野市生涯学習推進計画に基づき、当該計画の進行管理を行なうとともに、生涯学習推進市民会議などの意見や提言を踏まえて、年度ごとに重点施策及び実施方針を設定し、施策の実現を図るため、安曇野市生涯学習推進本部（以下「本部」という）を設置する。

(任務)

第2 本部は、次に掲げる事項を実施する。

- (1) 安曇野市生涯学習推進計画の進行管理
- (2) 重点施策の決定
- (3) 実施方針の決定
- (4) 事業実施の評価
- (5) 庁内各課の調整・報告

(組織)

第3 本部は、本部長、副本部長及び委員をもって組織する。

- 2 本部に本部長1人、副本部長1人を置き、本部長は教育部長を、副本部長は生涯学習課長を、委員は別表に掲げる職にある者をもってこれに充てる。
- 3 本部長は、本部を代表し、会務を総理する。
- 4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4 本部の会議は、本部長が招集し、会議の議長となる。

- 2 本部の会議は、構成員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(事務局)

第5 本部の事務局は、生涯学習課に置く。

(その他)

第6 この要領に定めるもののほか、本部の運営に関し必要な事項は、本部長が本部の会議に諮って別に定める。

附 則

この要領は、平成26年8月6日から施行する。

安曇野市生涯学習推進本部構成員

部局名	課 名	職 名
総務部	危機管理課	危機管理担当係長
総務部	人権男女共同参画課	人権男女共生係長
市民生活部	地域づくり課	まちづくり推進係長
市民生活部	環境課	環境政策係長
市民生活部	穂高支所地域課	地域担当係長
福祉部	長寿社会課	福祉政策担当係長
福祉部	長寿社会課	長寿福祉係長
福祉部	子ども支援課	児童係長
保健医療部	健康推進課	保健予防係長
教育委員会教育部	文化課	文化振興係長
教育委員会教育部	文化課	博物館係長
教育委員会教育部	図書館交流課	図書館交流担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	社会教育担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	スポーツ推進担当係長
教育委員会教育部	生涯学習課（事務局）	社会教育担当

資料3 用語解説

番号	用語 →出現ページ	解説
1	ICT →P4,15,27,38	Information and Communication Technology の略で、情報通信技術と訳される。コンピュータやインターネットを介して行う情報処理や通信に関する総合的な技術を示す言葉で、IT（情報技術）とほぼ同義だが、ICT は情報の共有や伝達などコミュニケーションの重要性を伝える意図で近年よく用いられている。
2	SNS（Facebook や Twitter など） →P4,9,11,15,16,19	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。インターネットを介して提供されているサービスで、個人や企業・組織の職員等がメッセージや写真などを投稿し、特定のあるいは不特定多数の人々がそれらを閲覧・共有することができ、様々な交流や情報発信の手段にもなっている。主なサービスとして、Facebook（フェイスブック）や Twitter（ツイッター）、LINE（ライン）、Instagram（インスタグラム）などがある。
3	CSR →P5	Corporate Social Responsibility の略で、企業の社会的責任と訳される。企業が自社の利益の追求だけでなく、法令遵守や情報提供、環境への配慮、地域社会に貢献する活動など倫理観に基づく主体的な行動や取り組みを通じて社会に対して果たす責任。
4	IT →P15,27	Information Technology の略で、情報技術と訳される。ICT（情報通信技術）とほぼ同義であるが、これとの対比で IT は、コンピュータやインターネットの技術そのものを指す言葉として使い分けられる場合もある。
5	アウトリーチ →P15,29	公的機関や公共的文化施設などが地域に出向いて行うサービスのこと。生涯学習の分野では、学習要求を持っていない人々に対して学習機会を提供し、学習要求や学習行動を引き起こす効果をもつ取り組みとして着目されている。
6	レセプションист →P15, 37	受付業務や応接業務、会場案内業務、パーティーの企画などを行う人。
7	歴史史料 →P29	歴史史料又は歴史資料。歴史に関する調査・研究で、作成当時の文書・記録類の現物又は当時の形のまま印刷されたものなど「史料」といい、当時の文書・記録類を用いてまとめた論文などを「資料」という。
8	Wi-Fi（公衆無線 LAN） →P39	無線 LAN は Wi-Fi（ワイファイ：無線 LAN の規格名称）とも呼ばれ、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンなど様々な情報通信機器から無線で（電波を利用して）インターネットに接続できるネットワークのこと。これを公共空間などで不特定多数の人が利用できるようにしたものが「公衆無線 LAN」で、そのサービスを提供している場所を「フリースポット」や「Wi-Fi スポット」などと呼ぶ。
9	P D C A サイクル →P54	Plan（計画）-Do（実行）-Check（評価）-Act（改善）の4段階の頭文字をとったサイクルで、事業活動の管理業務を円滑に進めるための手法の一つ。これを繰り返すことで、業務を継続的に改善していくという考え方に基づく。

第2次安曇野市生涯学習推進計画

平成 30 年3月

発 行 安曇野市

編 集 安曇野市教育委員会教育部生涯学習課

議案第 2 号	教育部 生涯学習課
平成 30 年 2 月 15 日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当係長) 米倉 直樹

タイトル	第 2 次安曇野市スポーツ推進計画について
決定を要する事項の内容	計画の決定
要旨	「第 2 次安曇野市スポーツ推進計画」の策定に向け、庁内会議や策定委員会で協議を行い、素案のパブリックコメント（12/5～1/5）も実施しました。最終案が完成しましたので、その内容について、ご意見等をいただきたいと考えています。
説明	1 計画の法的位置付け 国のスポーツ基本法第 9 条により、「地方公共団体の長は、スポーツ基本計画を参酌した、地方スポーツ推進計画を定めるよう努めるものとする」とされている。当市では、平成 23 年度～29 年度の期間でスポーツ振興計画（第 1 次計画）を策定したが、その期間が終了するため、新たな計画を策定する必要がある。 2 第 1 次計画（H23～H29 年度）の総括 ①各種施策に基づき事業を実施してきたが、成人のスポーツ実施率の向上（26.8% → 32.6%）など、スポーツ振興について一定の成果は上がっているものと考えている。ただし、目標値をクリアした項目は少ない現状であった。 ②平成 29 年 2 月に実施した市民アンケートの結果などから、特に以下の点に課題があるものと考えられた。 ・指導者の不足、育成 ・中学生女子の体力の低下及び運動嫌いの比率の上昇 ・20 代から 40 代で運動をする機会が減少している ・市の自然環境を活かした事業への取り組み ・地域総合型スポーツクラブのあり方、運営方法など ③施策数が 46 と多く、手のつかない内容も散見されたため、焦点を絞っていく必要があるのではないかと考えられた。 3 市民意見の把握 ①市民アンケート（中学生以上の 2,000 人に配布）を実施（H29. 2 月） ＜回収数 842 通（42.1%）＞ ②策定委員会（市民等 18 人）を 7 回開催（H29. 1 月～H30. 1 月）

③パブリックコメントの実施 (H29. 12. 6～H30. 1. 5)

※上記の会議などで検討を重ね、別冊の最終案を作成しました。なお、上記の他に、庁内会議を6回開催 (H29. 1月～H30. 1月)。

4 最終案 (別冊) の概要

①期間は平成30年度～平成39年度の10年間とする。

※当面の5年で実施する内容の明確化 (残りの5年については、スポーツ推進審議会で計画の評価及び見直しについての審議をし、必要な場合には計画の見直しを行う。)

②将来像「笑顔あふれ活力みなぎる健康スポーツ都市 安曇野」

③基本目標は3

◆市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

◆「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

◆安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

④基本施策は12 (詳細は別冊の17ページを参照)

5 パブリックコメントについて (別紙1)

※安曇野市自治基本条例第19条及び安曇野市パブリックコメント手続実施要綱に基づき実施。

①期 間：平成29年12月6日～平成30年1月5日

②実施状況：3件 (1人) の意見が寄せられた。

6 今後の日程等

H30. 2月 部長会議

H30. 4月 冊子、概要版の印刷

(完成後、市民や関係団体・議会等へ周知)

7 市民等への周知方法 (予定)

①ホームページ、広報誌、市民説明会

②スポーツ推進委員会、地域総合型スポーツクラブへの説明

③体育協会、スポーツ少年団への説明

④市内小中学校及び高等学校への周知

⑤市内の体育施設、図書館などに配布 他

パブリックコメントの結果について

「第2次安曇野市スポーツ推進計画」の策定にあたり実施したパブリックコメントについて、お寄せいただいた意見を整理・要約し、市としての考え方や対応を取りまとめましたので、下記のとおりお知らせします。

記

- 1 意見募集期間：平成29年12月6日（水）から平成30年1月5日（金）まで
- 2 意見者数及び意見件数：1人（3件）
- 3 担当課：安曇野市教育委員会 教育部生涯学習課（スポーツ推進担当）

No	頁	項目	ご意見（要旨）	市の考え方	対応
1	19	コーディネーショントレーニング（COT）の更なる推進	1次計画では基本目標の生涯スポーツの推進の柱の一つとしてCOTの推進を掲げている。これはCOTがすべてのスポーツのベースとなる能力の向上が年代を問わず図れる事、さらには高齢者の日常生活力を高め、健康寿命の延伸にも寄与できる点等を勘案して掲げたものであるが、2次計画には「基本施策①子供のスポーツ推進」の項にしか記載が無いので、取り組みの促進が必要である。COTは幼児・児童に特に効果が顕著で、「基本施策①子供のスポーツ推進」項に掲げる意義は高いが、1次計画の意味も汲んでいただき、対象の年代を問わず推進していく事を他の項へも表記願いたい。	第1次計画の基本目標の一つとして掲げた「コーディネーショントレーニングの普及」については、幅広い世代をターゲットにしていたため、重点的な取り組みが出来ていないのではないか、という反省がありました。そのため、第2次計画では、限られた予算の中で、将来を担う特に中学生以下の子どもに重点的な対応をしていく方向の計画といたしました。しかし、ご意見のとおり高齢者などへの対応も重要な観点であることから、基本施策⑦（26ページ）で掲げた「市内での連絡組織の設置」の中で、他の課と連携を図りながら今後の方向性等について検討をしていきたいと考えています。よって、26ページに以下の文言を追加（下線部分）いたします。「・特に中高年のスポーツを通じた健康維持に重点を置き必要な連携方を策を具体化するとともに、中高年向けのコーディネーショントレーニングについても検討を進めます。」	計画案に反映いたします。
2	19	「生涯の健康づくり」の意識を育み、取り入れた学習の機会の提供	この項では若年層に向けて「生涯の健康づくり」の意識づけをする取り組みということには理解できるが、この事は年代にかかわらず重要なことだと思ふので、各年代に向けての同様の取り組みを他の項にも記載した方がよいのではないだろうか。	ご意見の部分は、基本目標1「市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進」の中の基本施策①「子どものスポーツ推進」に記載されている部分です。基本施策は重点的に取り組む事業の概要を記載していますが、全体的な方向性については、基本目標1に内包されているものと考えており、その中で幅広い世代に対応していくことを計画しています。	計画案に反映いたしましたが、ご意見の点を踏まえ、計画推進への参考とさせていただきます。
3	24	基本施策⑥地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり	スポーツは特別なもの、場所、用具、お金、時間が必要なものという意識がアンケート結果からもまだまだ高いように思います。これを私しよくする一つとして、情報発信と最新の知識を習得した良い指導者が重要だと思ひます。指導内容やコーチング理論も日進月歩で、昨日の常識は今日の非常識がたくさんあるもので、指導者のスキルアップ、指導者の育成についてはもっと強調しても良いのではないだろうか。	第1次計画においても「指導者の養成と指導体制の活性化」が施策として計画されていましたが、有効な事業が展開されていなかったことが反省点です。ご意見のとおり、指導者の育成は非常に重要な観点であると考えていますので、まずは基本施策⑥の「施策の展開」に掲げた内容を着実に実行することが重要であると考えています。	計画案に反映いたしましたが、ご意見の点を踏まえ、計画推進への参考とさせていただきます。

第 2 次 安曇野市スポーツ推進計画 (案)

平成 30 年 1 月

目 次

第1章 計画に関する基本事項	1
1. 計画策定の意義・目的	1
2. 計画の性格と位置付け	2
3. 計画の期間	2
4. 上位計画の概要	2
5. スポーツのとらえ方	4
第2章 市民のスポーツとの関わりの現状	5
1. 市民のスポーツ実施率～世代・性別での相違～	5
2. スポーツの実施機会提供と施設利活用の状況	9
3. 小中学生の体力の変化	10
4. 「する」スポーツを支える体制	11
5. 年齢の積み重ねと運動不足により生まれるリスクへの対応	12
6. 市民の望むスポーツ推進策（平成21年度と平成28年度調査の比較から）	14
第3章 計画の目指すところ・目標	15
1. 将来像	15
2. 基本目標	16
第4章 実現のための施策	17
基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進	18
基本施策① 子どものスポーツの推進	18
基本施策② 「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進	20
基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり	21
基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス	22
基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善	23
基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実	24
基本施策⑥ 地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり	24
基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化	26
基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化	28

基本目標 3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出	29
基本施策⑨ 障がい者スポーツを広める場と体制づくり	29
基本施策⑩ 豊かな環境を活かしたスポーツ交流	30
基本施策⑪ 「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大	31
基本施策⑫ 東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流	32
第5章 計画の推進及び進捗管理	33
1. 計画の推進	33
2. 数値目標による管理	33
3. 計画の進捗管理	33

第1章

計画に関する基本事項

1. 計画策定の意義・目的

安曇野市では、平成23年3月に市民が自主的・主体的にスポーツ活動を展開するためのしくみを構築し、市民のライフステージに合わせてスポーツができる環境づくりを行う計画として「安曇野市スポーツ振興計画」を策定し、必要な施策を進めてきています。

この間、国内に目を向けると、平成23年6月にスポーツ基本法が制定され、平成25年度には2020年東京五輪の開催決定、平成27年度にはスポーツ庁設置、平成28年度には第2期スポーツ基本計画の策定と、スポーツをめぐる環境が変化してきました。この過程でスポーツは、次代を担う青少年の体力の向上のほか、様々な交流の促進、地域の一体感や活力の醸成、心身の健康の保持増進など、より多面的な役割の重要性が認識されてきています。

このような動向や考え方にに基づき、安曇野市のスポーツをめぐる様々な状況や市民意識、将来の動向等を勘案し、市のスポーツに関する概ね10年先を見据えた施策を取りまとめることを目的としたものが「第2次安曇野市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という。）です。

なお、安曇野市スポーツ振興計画は、本計画の第1次計画とみなし、「第1次推進計画」とします。

計画の法的位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条の地方スポーツ推進計画に相当します。第9条に基づいて定める国のスポーツ基本計画を参酌して定めるものとされています。

同条の条文には『地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする』と示されており、本計画はこれに基づいて定める計画です。

長野県では、平成29年度に長野県スポーツ推進計画の第2次計画を策定しています。

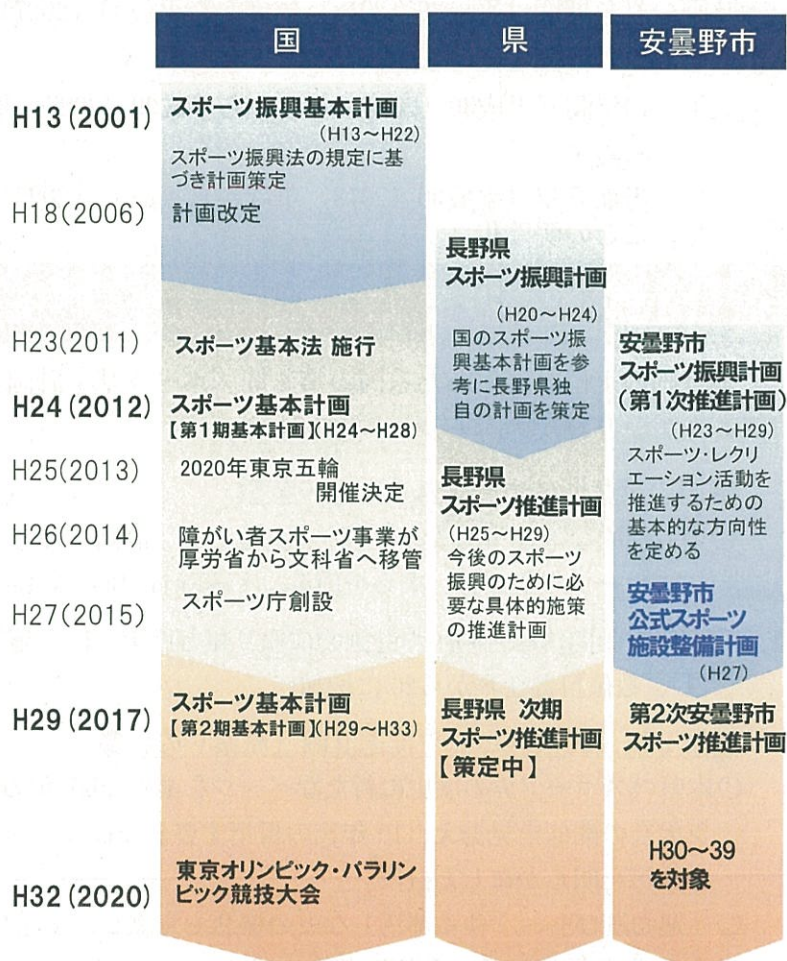
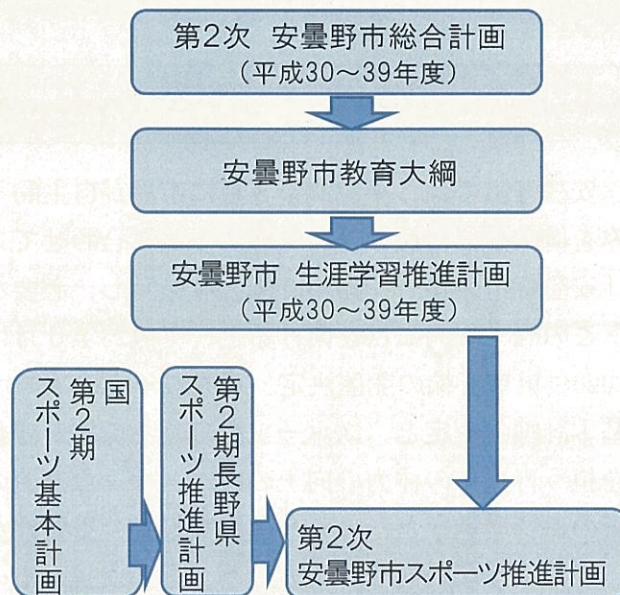


図1 上位計画の変遷と本計画との関係

2. 計画の性格と位置付け

- ① 本計画は、国のスポーツ基本計画、長野県スポーツ基本計画の理念を踏まえ、本市及び本市教育委員会が今後10年の期間を対象として、市内でのスポーツ推進に関する基本的な方向性を定めたものです。
- ② この計画は、本市におけるスポーツ推進を総合的・効果的に推進するために、市民、地域、学校、行政、その他関係機関が連携を図りながら取り組むための指針となるものです。
- ③ この計画は、「第2次安曇野市総合計画」などの関連計画との整合性を図りながら策定しました。



3. 計画の期間

計画の対象期間は平成30（2018）年度から平成39（2027）年度までとし、次の2つの視点に重点を置いて計画を定めます。

- ① 10年間（平成30（2018）年度から平成39（2027）年度まで）を見据えての基本方針の設定
- ② 当面5年（平成30（2018）年度から平成34（2022）年度まで）の間に取り組むべきことの明確化

4. 上位計画の概要

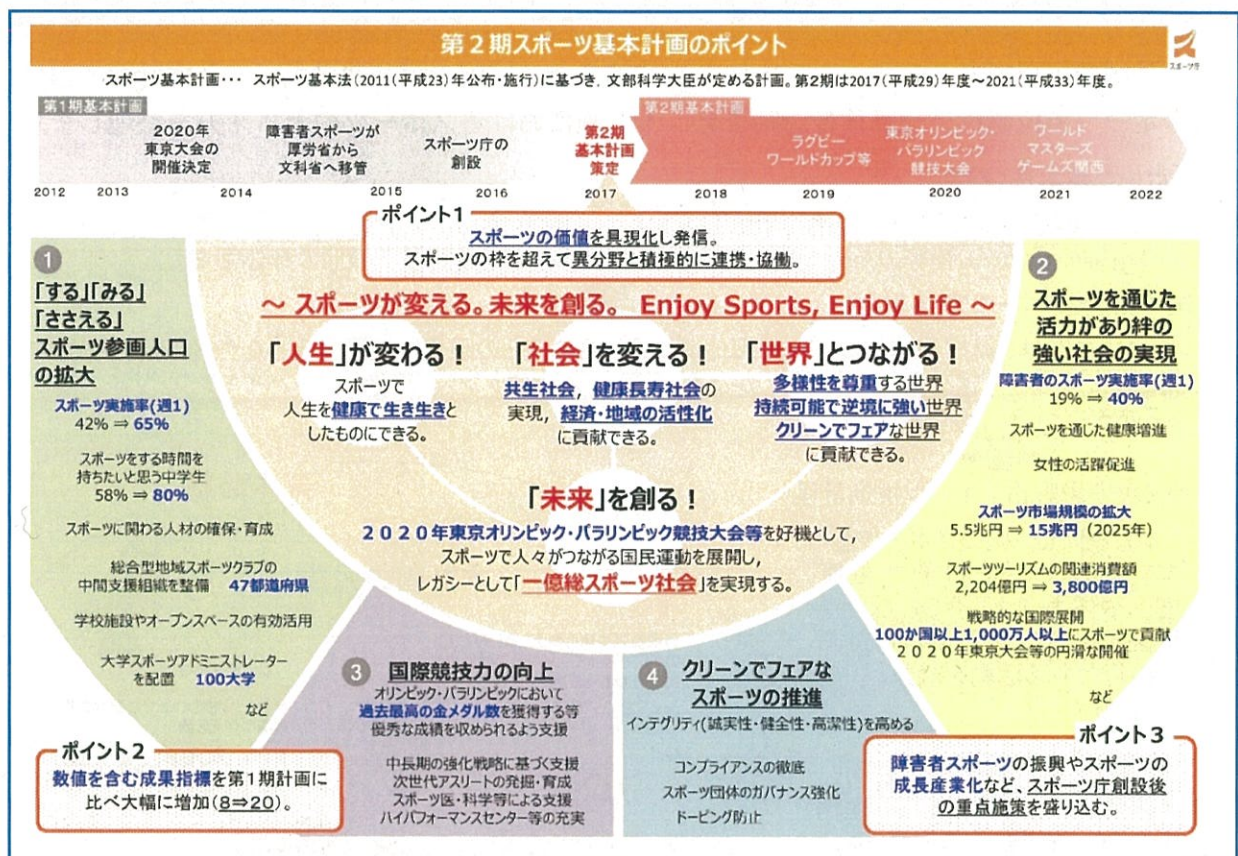
本計画の上位計画にあたる国の第2期スポーツ基本計画、第2期長野県スポーツ推進計画の概要を下記及び次のページに整理します。

●国の第2期スポーツ基本計画の特徴

- 中長期的なスポーツ政策の基本方針として、計画の理念を 「スポーツの価値」として具体化。
～スポーツが変える。未来を創る。 ～Enjoy Sports, Enjoy Life ～
- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策では、施策体系を大括り化（4つの政策目標）し、数値目標を8から20に増加。

●第2次長野県スポーツ推進計画（原案）の特徴

- 本県のスポーツ界の歴史に新たなページを刻む 2027 年の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催を見据え、10年後の目指す姿と今後5年間（2018年度～2022年度まで）に取り組む施策を明らかにした計画。
- 「運動遊び」、「ゆる部活」などの概念も意識し、多様なニーズに応えたスポーツ推進方策の具体化が行われている点が特徴。



【参考1】第2期スポーツ基本計画の概要(スポーツ庁ホームページ)

10年後の目指す姿と施策の展開

基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- (1) 幼児期からの運動の習慣化
- (2) 学校体育・運動部活動等の充実
- (3) 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- (1) ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- (2) 地域のスポーツ環境の整備

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- (1) 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上
- (2) スポーツ界の好循環の創出

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- (1) スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
- (2) スポーツを通じた人々の交流促進
- (3) プロスポーツとの連携・協働の推進

【参考2】第2次長野県スポーツ推進計画(原案)(長野県ホームページより)

5. スポーツのとらえ方

本計画の根拠であるスポーツ基本法前文や第2条及び国の第2期スポーツ基本計画におけるスポーツの位置付けや具体像を踏まえ、本計画におけるスポーツのとらえ方を整理します。

スポーツ基本法 前文

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動。

国の第2期スポーツ基本計画

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがある。例えば散歩やダンス・健康体操、ハイキング・サイクリングもスポーツとしてとらえられる。

第2次安曇野市スポーツ推進計画

本計画では、国のスポーツ基本計画の考え方と同様に、健康増進や体力向上、楽しみなどの意図を持って、余暇時間に計画的に行われる活動を対象としてとらえる。

一方で、健康増進法に沿った身体活動推進の取り組みも連携するべく、安曇野市での暮らしのなかでの身体活動の特徴なども踏まえた計画を検討するものとする。



図3 身体活動と運動の違い

図の出典：新しい身体活動基準2013身体活動指針(アクティブガイド)に基づいた保健指導
独立行政法人国立健康・栄養研究所 宮地元彦

ライフステージに応じた運動の必要性

人間の身体は、骨・筋肉・神経が成長発達し、高齢期にはこれが低下に向かいます。安曇野市健康づくり計画・安曇野市老人福祉計画及び介護保険事業計画では、ライフステージのなかでの運動器の変化について触れ【下図参照】、それぞれのステージに応じた運動の実施を支援することが重要と認識し、必要な取り組みを進めています。

年齢	保育園・幼児園児	小学生	中学生	高校生	成人				高齢者			
	4～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	
骨	紫外線、重力、圧力、カルシウムの摂取によって骨密度が高くなる			18歳 骨密度ピーク				閉経 女性ホルモンの影響で、大腿骨・脊椎の骨密度が優先的に低下				
筋力		12～14歳 持久力最大発達時期	14～16歳 筋力最大発達時期			筋力減少 始まる	目立って 減少				ピーク時の約2/3に 減少	
神経	平衡感覚 最大発達時期	10歳 運動神経完成							閉眼片足立ち（平衡感覚・足底のふんばり・大腿四頭筋の筋力・柔軟性）が20歳代の20％に低下			
足底	6歳 土踏まずの完成											
運動	園での遊び	体育の授業				運動習慣ありの人の割合が低い						
		スポーツ少年団	部活動									
		持久力・筋力の向上				持久力・筋力の維持						

運動器を向上・維持するためには、全ての年代において、運動を行うことが重要

【参考3】運動器の変化と運動・スポーツとの関係 (長野県松川町保険活動計画等を参考に作成) 出典：安曇野市健康づくり計画

第2章

市民のスポーツとの関わりの現状

1. 市民のスポーツ実施率 ～世代・性別での相違～

(1) 安曇野市民のスポーツ実施率の特徴

●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況(スポーツ実施率関連)

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
1	成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	26.8	50.0	32.6

○平成29年2月に安曇野市で実施した平成28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査(市民2,000人を対象、842通回収、以下、市民アンケート調査とする。)では、安曇野市に住む成人の週1回以上のスポーツ実施率は32.6%でした。平成21年度の前回調査と比較して約6%上昇しました。

○全国規模の調査に基づくスポーツ実施率は42.5%であり、これに比べ安曇野市では10%ほど低い状況にあります(ただし全国調査での実施したスポーツの選択肢と安曇野市の調査での選択肢は異なりますので、参考値となります)。

○第1次推進計画の目標値50.0%には到達していません。これは全国対象の調査結果も同様です。

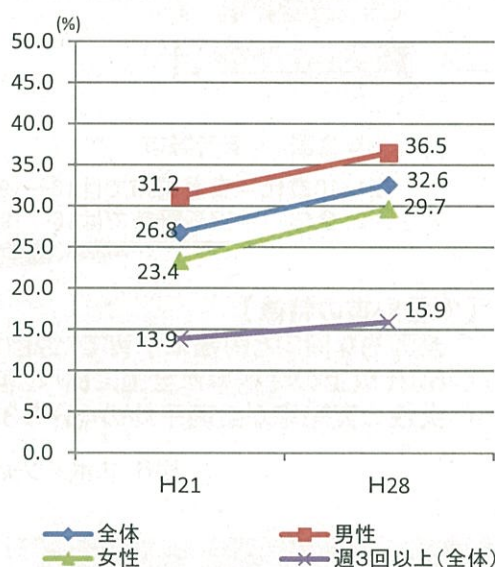
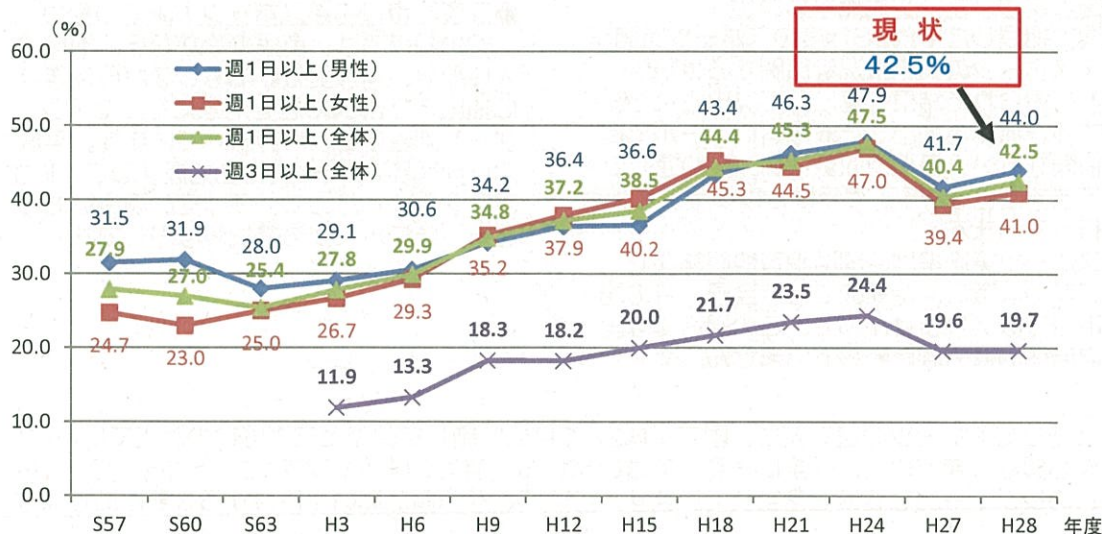


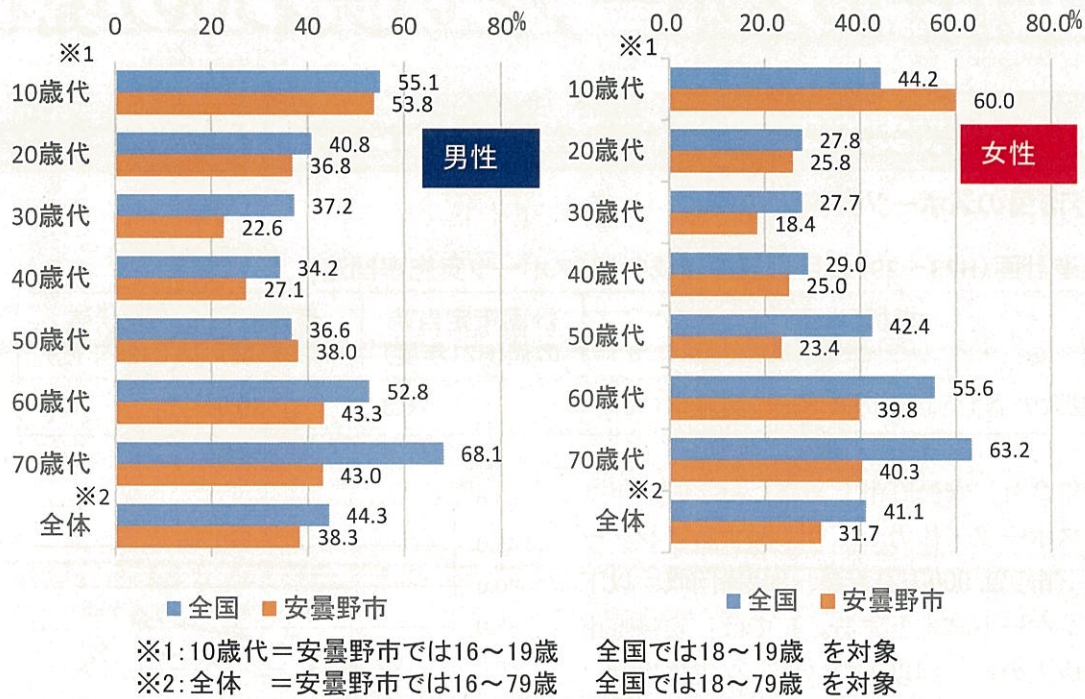
図4 安曇野市でのスポーツ実施率の推移
(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)



(出典)「体力・スポーツに関する世論調査(平成24年度まで)及び「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(平成27年度)」、「スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成28年度)」

図5 全国対象で調査したスポーツ実施率の推移

性別・年代別スポーツ実施率についての安曇野市と全国の調査結果の比較



【安曇野市の特徴】

- 全国的な傾向と同様に子育て・労働世代でスポーツ実施率が下がる。
- 60代以上の実施率が全国に比べ、低い傾向。
- 女性の実施率が全国平均の4分の3程度。

図6 スポーツ実施率の男女・世代別特徴

スポーツ実施率

スポーツ実施率は、成人で週1回以上運動をした人の比率のことです。ここでは、国と安曇野市それぞれの率の把握方法について補足します。

●国によるスポーツ実施率の算出

国で把握した平成28年度のスポーツ実施率は「スポーツの実施状況等に関する世論調査」で得られた結果を基にして算出された結果です。無作為抽出した対象者にメールで協力依頼を行い、目標回収数（20,000通）に達するまで回答をWEBで受け付ける手法で調査を行っています。

スポーツ実施率は、国勢調査や農林業センサス等のように、定期的に行う全国一斉の記入調査ではありませんので、この調査では国と自治体の違いは比較していません。

●安曇野市によるスポーツ実施率の算出

安曇野市では、市民のなかから、地域の人口配分、年齢配分に配慮しながら無作為に抽出した2,000名を対象に行ったアンケート調査をもとに算出しています。平成21年度調査以後の変化を把握することに主眼を置きましたので、両年度の調査における行ったスポーツの選択肢は同じです。

実施したスポーツの選択肢も、国で平成28年度に実施した調査と安曇野市の調査では、環境条件も異なりますので、完全に一致してはいません。前者にはキャンプ・オートキャンプ、釣りなどのレジャー的な要素も含まれています。このことを念頭において比較する必要があります。

(2) スポーツ実施を阻む要因

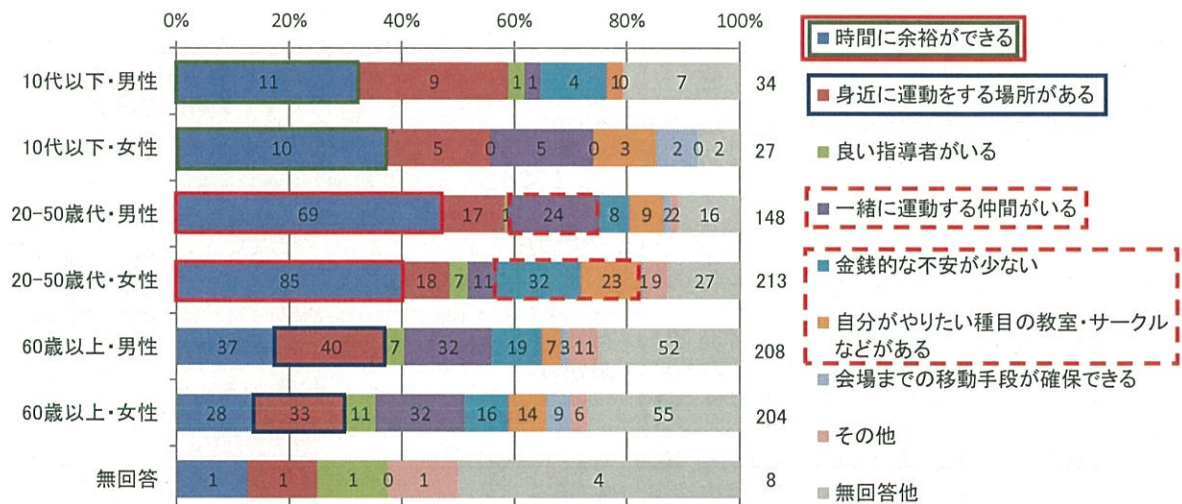
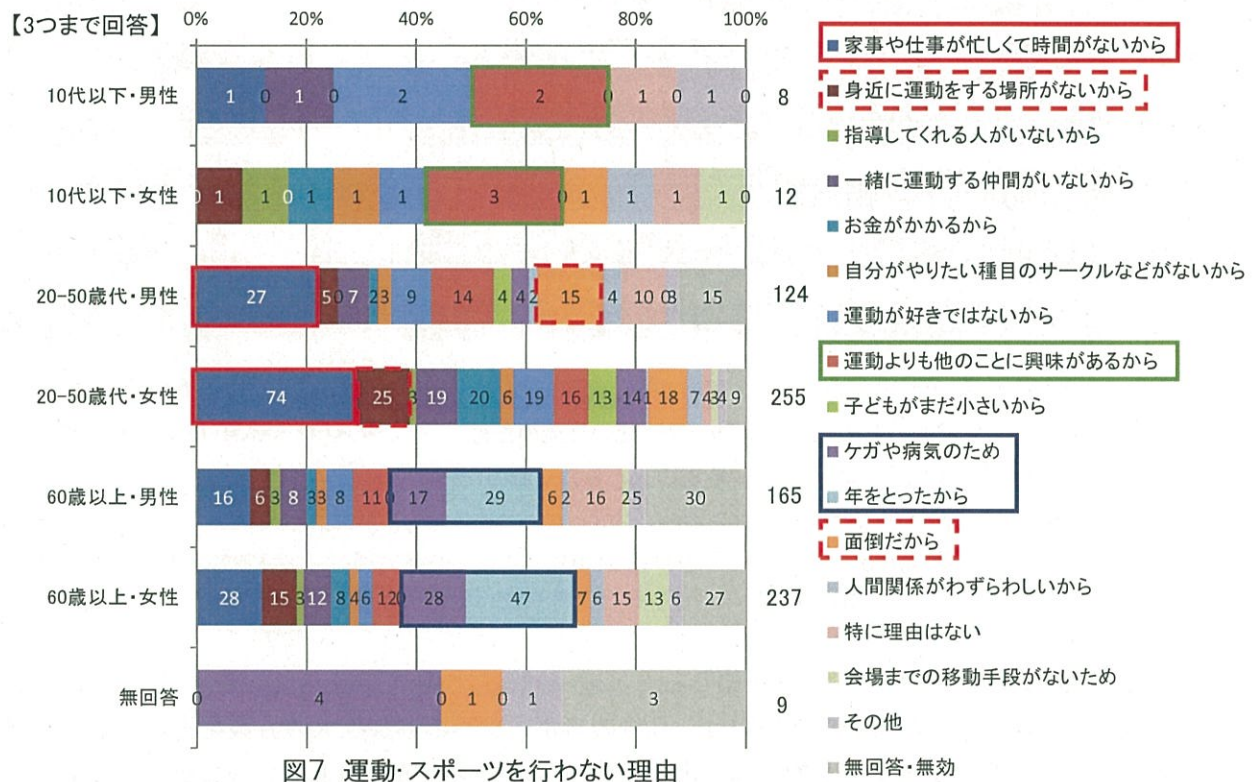
市民アンケート調査の結果から、スポーツを行わない理由を世代・性別の組み合わせで整理したところ、次のような傾向が把握されました。

●運動・スポーツを行わない理由

- ・10代以下は「運動よりも他のことに興味があるから」の回答が特徴的。
- ・20～50歳代の男女は「家事や仕事が忙しく時間がない」の回答が多い。
男性は「面倒だから」、女性は「身近に運動する場所がない」との回答も多い。
- ・60歳以上の男女では「年をとったから」「ケガや病気のため」との回答が多い。

●運動・スポーツの時間を増やすための条件

- ・10代以下、20～50歳代は「時間に余裕ができる」という回答の比率が最も高い。
- ・時間以外の要素については、男性で「一緒に運動する仲間がいる」、女性で「金銭的な不安が少ない」「自分がやりたい種目の教室・サークルがあること」があげられている。
- ・60歳以上は「身近に運動をする場所がある」という回答の比率が最も高い。



(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

(3) 市民のスポーツ参加拡大のキーワード

市民アンケート調査の結果から、スポーツを行う理由についても世代別で分析を行ったところ、どの世代も、健康・体力づくり及びスポーツを楽しむという理由が最も多いことは明白ですが、これらに続いて回答数の多い理由に関しては、世代によって様々です。

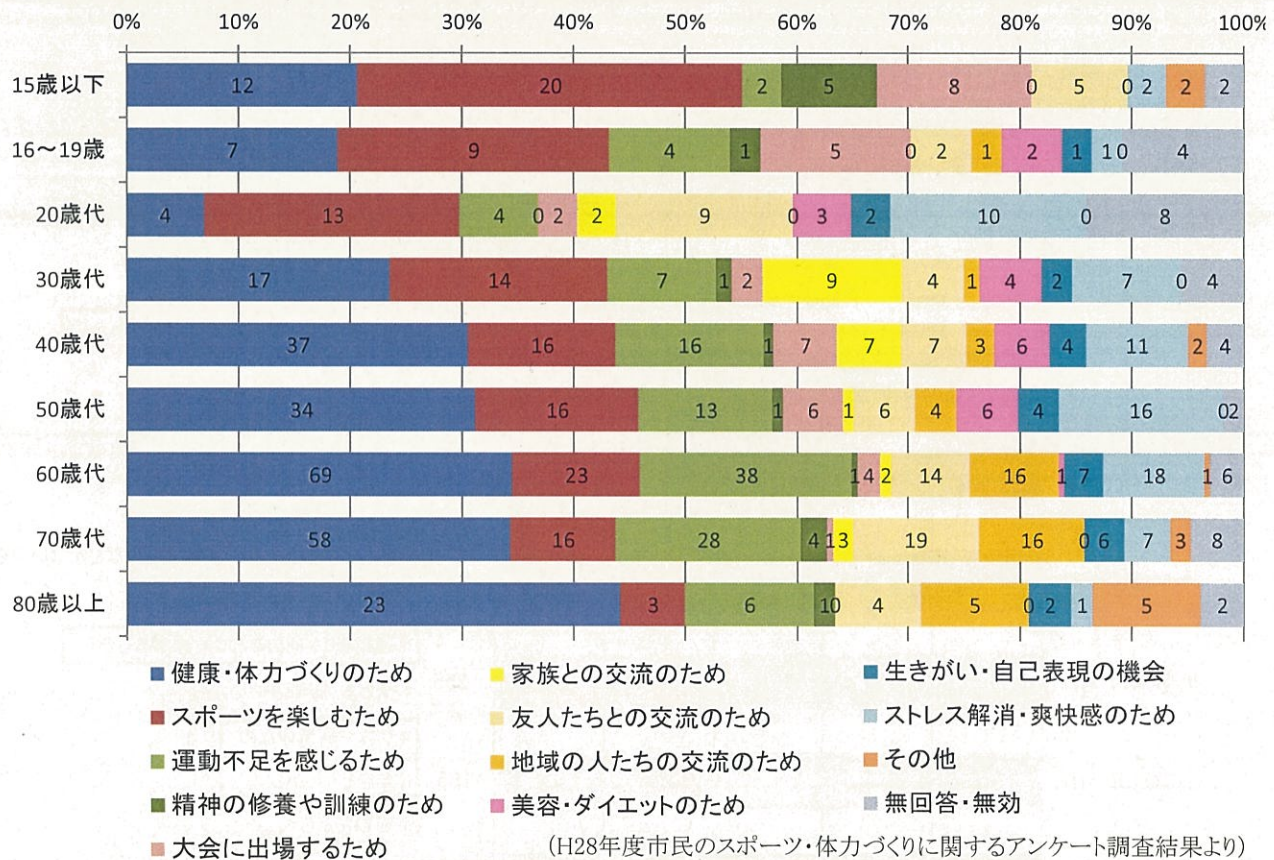


図9 運動・スポーツを行う理由(世代別分析)

「健康・体力づくり及びスポーツを楽しむ」に続く回答については、年齢層ごとに次のような特徴が見出されます。これらの参加理由は、今後のスポーツへの参加拡大の方策を世代に応じて展開するうえで重要なキーワードであり、市民全体のスポーツ実施率向上にもつながる視点であると考えられます。

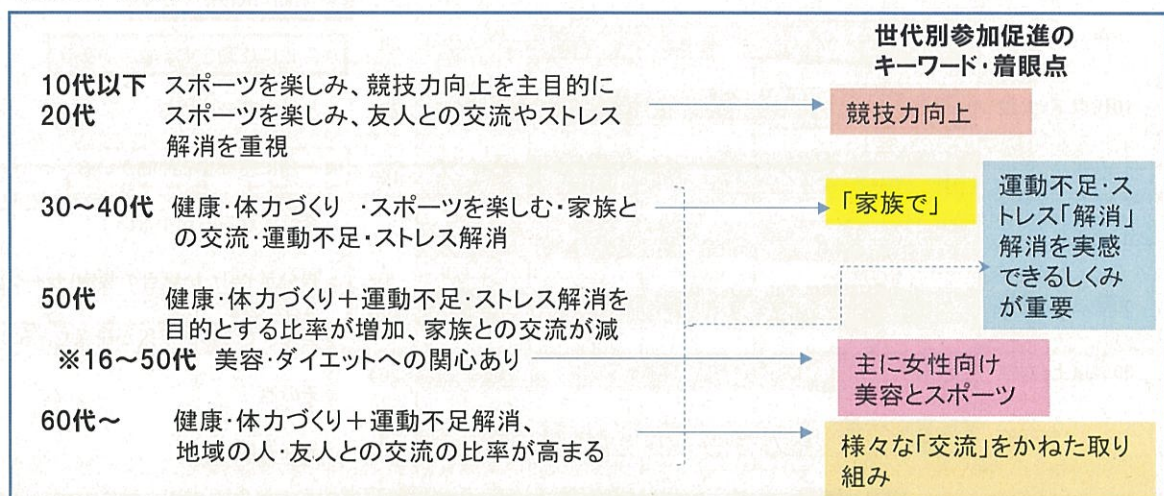


図10 「健康・体力づくり及びスポーツを楽しむ」以外の世代別実施目的

2. スポーツの実施機会提供と施設利活用の状況

(1) スポーツイベント、教室・講座等への参加者数

市主催のスポーツイベント、教室や講座への参加者数は増加傾向にあり、第1次推進計画策定当時に比べると、15,000人以上増加しています。

●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（イベント参加）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
4	スポーツイベント参加者数(人/年)	20,028	30,700	35,418

(2) 施設利用状況の変化

下図に平成26年度から平成28年度までの間の公共スポーツ施設及び学校施設の延利用者数の推移をとりまとめました。平成26年度は約70.6万人であったのに対し、平成28年度は66.6万人となっています。高齢化に伴うソフトボール競技者の減少など、全体的に減少の傾向が見受けられます。

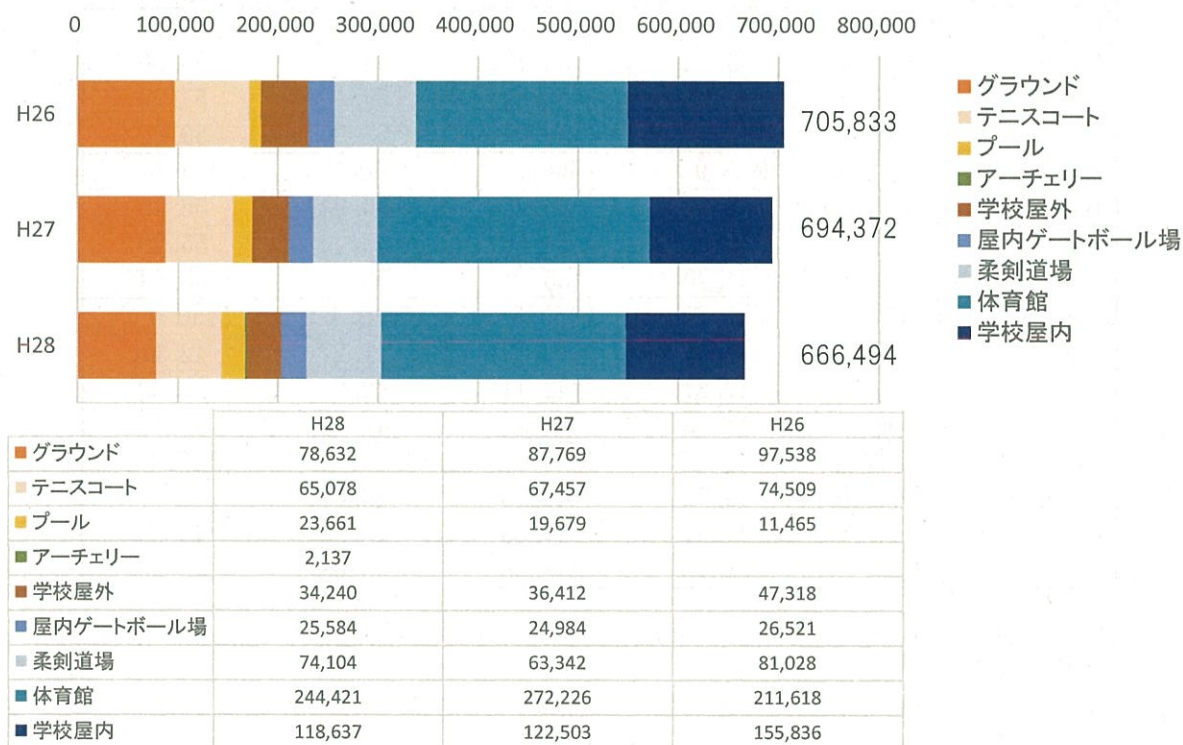


図11 平成26年度から28年度における施設種別の延利用者数の推移

●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（施設利用関係）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
5	スポーツ・レクリエーション施設利用者数(人/年)	642,303	700,000	666,494

3. 小中学生の体力の変化

毎年実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年生男女、中学2年生男女を対象）の平成25年度以降の結果では、安曇野市の中学生女子の点数が毎年、全国平均値と比べて低い状態が続いています。

中学生男子では、全国平均とおおむね同水準、小学生は男女とも最近3カ年は全国平均を超えています。

なお、これらの調査結果については安曇野市体力向上推進委員会が毎年分析を行い、その結果を報告しています。

【調査内容の概要】

(1) 児童生徒に対する調査

① 実技に関する調査

小学校8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

② 質問紙調査

(2) 学校に対する調査

子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

《平成25～28年度の安曇野市と長野県・全国の体力合計点(平均)の一覧》

(◎高い ○僅かに高い □ほぼ同じ ▽僅かに低い ▼低い)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
① 小5男子	市T得点	□49.9	◎51.3	○50.8	◎51.2
	安曇野市	53.74	55.10	54.55	55.00
	県	54.07	53.84	54.10	54.20
	国	53.87	53.91	53.80	53.92
② 小5女子	市T得点	▼48.9	□50.3	◎52.1	◎51.0
	安曇野市	53.78	55.27	56.94	56.35
	県	54.35	54.66	55.40	55.29
	国	54.70	55.01	55.18	55.54
③ 中2男子	市T得点	▽49.2	○50.5	▽49.4	□50.0
	安曇野市	41.01	42.19	41.27	42.11
	県	41.87	42.11	42.33	42.39
	国	41.78	41.74	41.89	42.13
④ 中2女子	市T得点	▼48.4	▼47.7	▼47.8	▼47.4
	安曇野市	46.72	46.15	46.63	46.77
	県	47.01	47.38	48.83	48.65
	国	48.42	48.66	49.08	49.56

※体力合計点：小・中学校8種目の記録を年齢別、男女別の換算表により点数化(1～10点)し、その合計点を80点満点で表したものです。

※T得点：全国平均を50点としたときの換算点です。

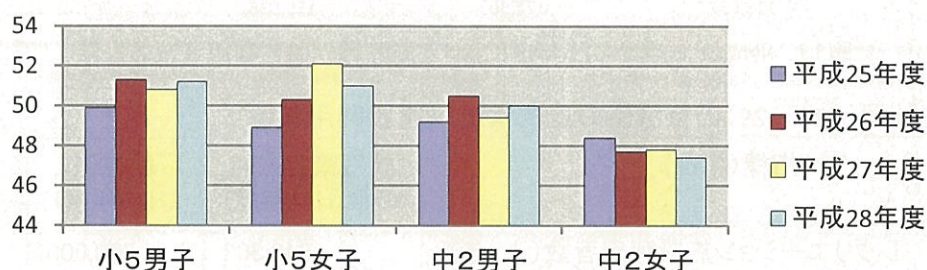
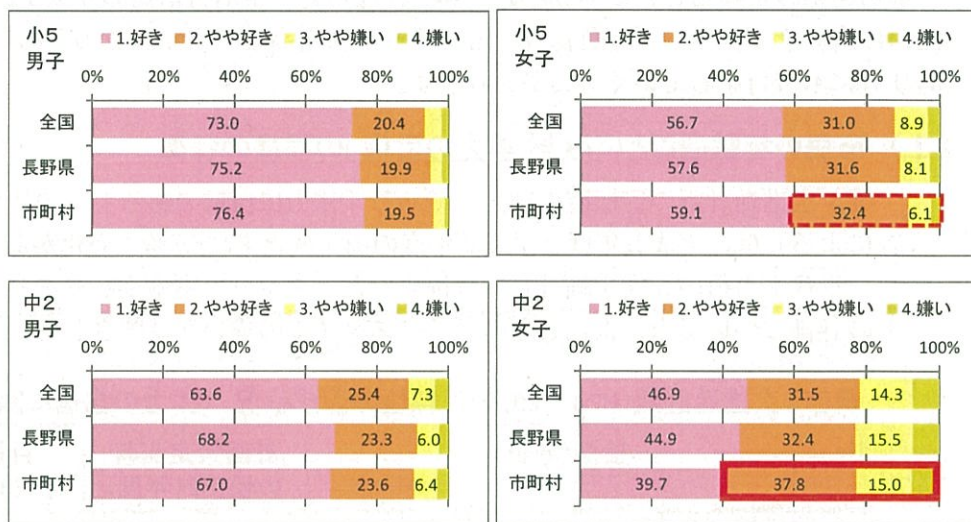


図12 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果(安曇野市)

【補足分析】体力評価が全国水準に達しない中学生女子では「運動好き」が減る

体力の実技テストの合計点で全国平均より低い水準の中学生女子では、運動に対して「やや好き」「やや嫌い」「嫌い」という回答の比率が全国平均に比べて高くなっています。

女子では、小学5年から中学2年に至る過程で運動が「好き」という回答者が59.1%から39.7%に減り、男子に比べて顕著に運動に対する興味・関心が薄れていく傾向がみられます。



安曇野市体力向上推進委員会資料より（平成28年度）

図13 運動に対する好き・嫌いの比率(安曇野市)

4. 「する」スポーツを支える体制

市内の総合型地域スポーツクラブ（※）は堀金地域の1団体に限られており、第1次推進計画で目標とした2団体目の設立は進んでいません。また、クラブの認知度も、7年前の調査に比べ3%ほど低下しました。

さらに、高齢化や人口減少の傾向もあいまって、体育協会加入者も減少傾向にあります。

少子高齢化や人口減少の影響で、「する」スポーツを支える体制の高齢化、指導者の不足などが懸念されます。

●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（人材・推進体制関係）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
2	総合型地域スポーツクラブ数(クラブ)	1	2	1
3	総合型地域スポーツクラブ参加者数(人/年)	498	980	480
9	総合型地域スポーツクラブ認知度(%)	17.0	35.0	14.0
6	体育協会加入者数(人/年)	6,881	8,000	6,214
8	クラブ、サークル所属率(%)	22.5	30.0	22.7

※ 総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1)子どもから高齢者まで（多世代）、(2)様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブをいいます。

5. 年齢の積み重ねと運動不足により生まれるリスクへの対応

年齢を積み重ねるごとに運動不足が顕著になると、生活習慣病のリスクのほか、運動器の障害のために自立度が低下し介護負担等が増えるリスクも高まります。このため、年齢層に応じた運動のあり方にも着目をしていく必要があります。

(1) 市民の年齢層ごとにみた「体力の自信」の程度の特徴

第1次推進計画の目標値のひとつである「体力に自信のある」人の比率（市民アンケート調査による）は、平成21年度と平成28年度の両年度ともに6.7%で変化がありませんでした。しかし、世代や自信の程度を細分して分析すると、スポーツ実施率が異なるのと同様に、自身の体力の評価についても、世代ごとのライフスタイルの違いが反映されています。

●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況（体力の自信に関する項目）

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
7	体力感(体力に自信のある人)(%)	6.7	15.0	6.7

市民アンケート調査の結果から、体力への自信の程度と男女別・年齢層の関係をみると、「自信がある」という回答は大半の世代で10%を割っており、「まあ自信がある」や「あまり自信がない」「自信がない」などの回答比率が年代に応じて大きく変化しています。その傾向は次のようにまとめることができます。

- 男女共通で、30代から40代、60代、70代、80代へと年を重ねる際に「まあ自信がある」という人の比率が下がり、「自信がない」という人の比率が高まる。
- 男性は40代から50代、70代から80代の移行期、女性は60代から70代の移行期に自信の低下が顕著である。
- 体力への自信が下がる傾向が目立つ「働き盛りの世代」と「高齢世代」の体力づくりへの意識向上につながるような取り組みが重要になる。

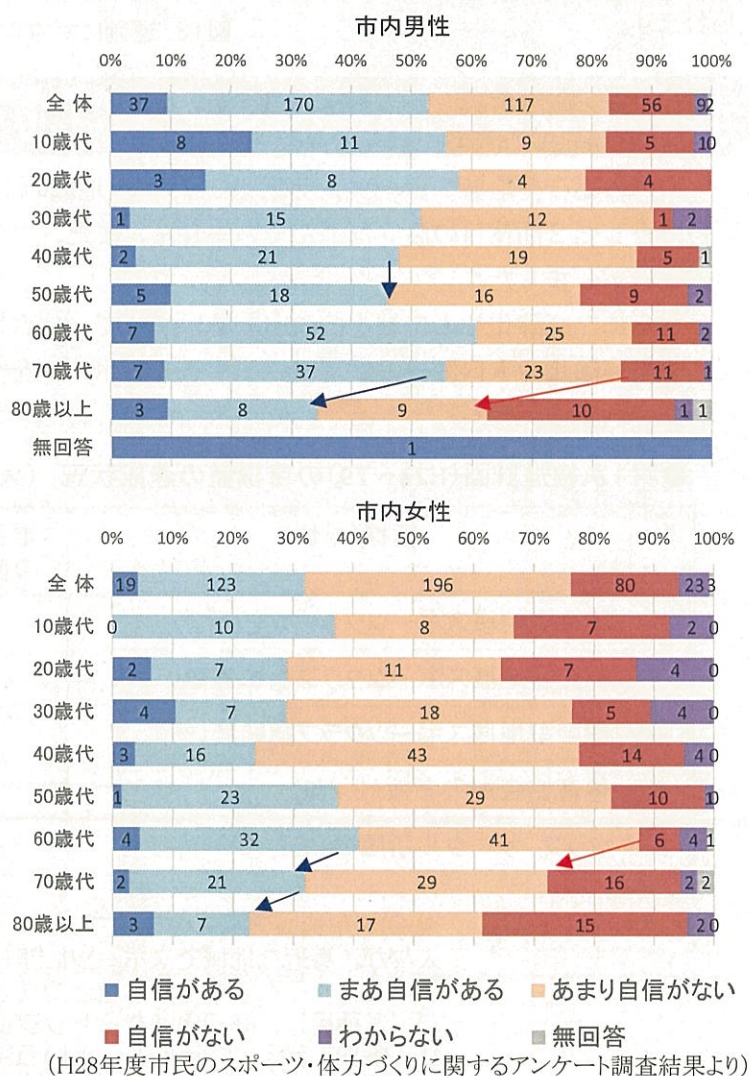


図14 体力への自信に関する性別・年齢層別回答

(2) 中高年世代の身体活動・運動

特定健診・後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」について、近年の状況を男女・世代の区分でまとめてみると、勤労世代（20～64歳）に比べ高齢世代（65歳以上）でその比率が男女とも高くなっています。

しかし、高齢世代では、平成26年度以降、いずれの比率も低下の傾向がみられます。勤労世代は年度により増減がみられ、日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合は、男女とも平成25、26年度で相対的に高い値となっていますが、その後は幾分低下する傾向にあります。

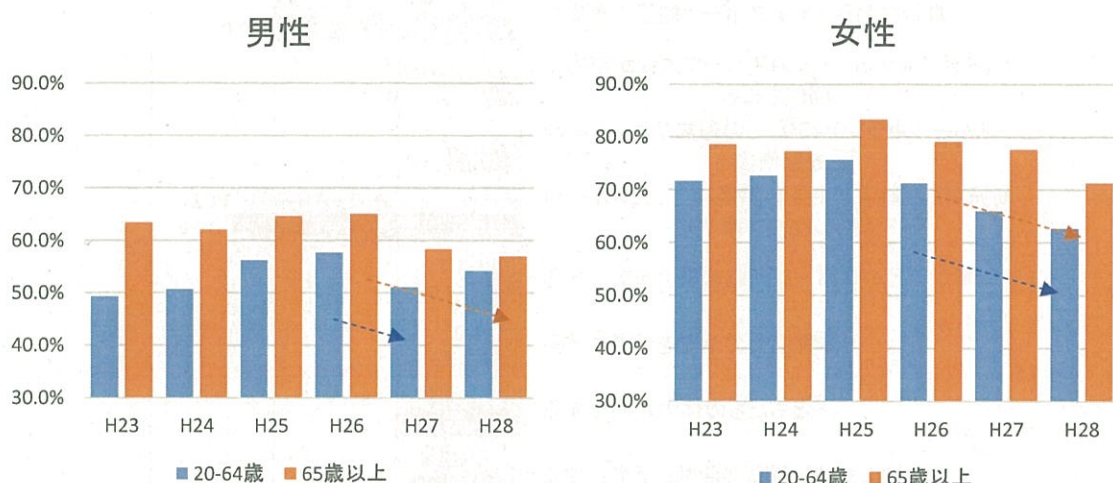
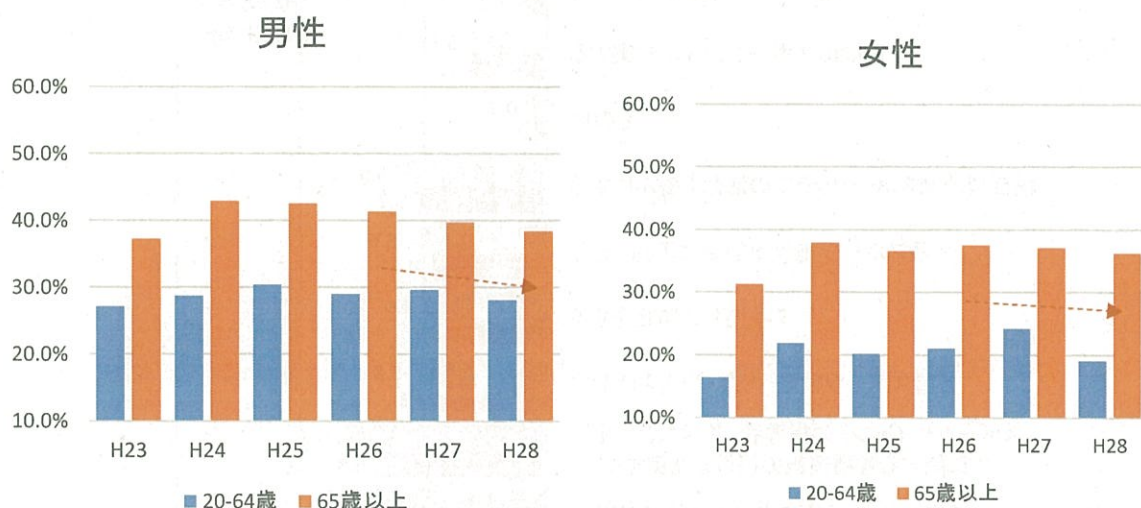


図15 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合



(※)運動習慣者とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者
(安曇野市健康推進課資料:特定健診・後期高齢者健診の質問票結果より)

図16 運動習慣者(※)の割合

6. 市民の望むスポーツ推進策（平成21年度と平成28年度調査の比較から）

市民アンケート調査の結果から、安曇野市のスポーツ推進を図るために必要だと思うことを、平成21年度調査と平成28年度調査の結果の差が大きい順（増加率の高い順）に整理しました。

上位に位置したのは、優れたスポーツ指導者の増加、身近に利用できる施設、ハイレベルで活躍できる選手の育成、年齢層にあったスポーツの機会増加、トップレベルの大会開催等でした。

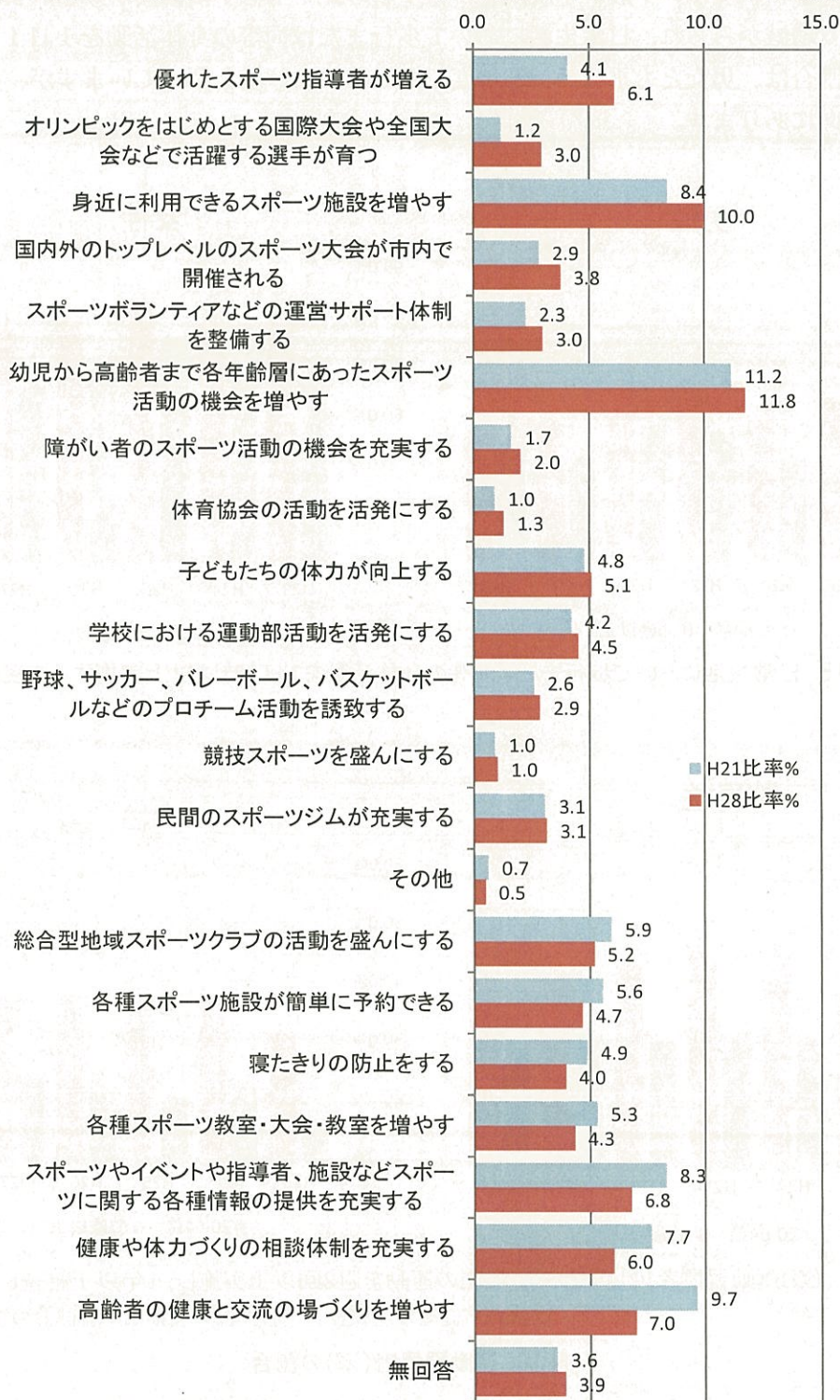


図17 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

（H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より）

第3章

計画の目指すところ・目標

1. 将来像

笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野

スポーツは人間が生命を維持するうえで欠かせない身体活動のひとつであり、スポーツをすることで健康維持、精神育成等様々な面で効果を得ることができます。また、スポーツは、市民一人ひとりの適性や関心に応じて取り組むことができ、一部の人々に限られることのない「みんなのもの」でもあります。スポーツを「する」ことでみんなが「楽しさ」「喜び」を得ること、これはスポーツの価値の原点です。

安曇野市では、スポーツを「する」ことから生まれる「楽しさ」「喜び」を大事にし、みんなの笑顔や元気を生み出し、健康な暮らしを送りながら、スポーツを通じた様々な交流を促進し、そこで育まれる活力をさらに大きくすることが重要と考えます。

以上のような思いをこめて、これから10年で目指すスポーツ推進の将来像を「笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野」と定めます。

2. 基本目標

基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

情報化社会の急速な発展に伴う市民の嗜好や生活様式（ライフスタイル）も多様化しています。一方で、高齢化も進み、市民の健康への意識は高まっています。

スポーツへの関わり方も世代やライフスタイルに応じて様々です。競技スポーツで心身を鍛える若い世代から親子で楽しむ子育て世代、健康の持続に意識の高い熟年世代、介護予防に関心を持つ高齢世代…。この多様さを受け入れることのできる環境や条件を整えることが大切です。

より多くの市民がそれぞれの考えに沿ったスポーツとの関わりを持てる機会や場づくりに努め、「する」スポーツの継続と新たな参加を促し、笑顔があふれ、心身ともに健康な暮らしにつなげていくことを目指します。

基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

急速な高齢化、個々の意識の多様化の進行とともに、スポーツを伝え、受け継いでいくしくみにも変化がみられます。指導者の後継者不足、子どもの減少に伴う部活動や育成のしくみの衰退などが進み、市民がスポーツをする、あるいはスポーツへの参加促進を図るための基盤が揺らぎつつあります。

変化の激しい時代に適応しながら、市民のスポーツ参加を多様なスタイルで促すため、スポーツ指導者やスポーツをする人を支えている様々な人材が意欲的に継続して関与し、仲間を増やすことのできるような環境を整えることを目指します。

「する」スポーツを支える体制としくみを、より時代にあったものへと改めていくことに取り組みます。

基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

スポーツは健康づくりにつながるなどの参加する人だけが恩恵を受けるわけではありません。競技を通じた競技者同士の関わり、大会やイベントを通じた様々な人同士の交流や絆も生み出します。

安曇野市には、豊かな水環境、美しい景観、温泉など外部に広くアピールできる良好環境があり、この環境を活かしたスポーツイベントや交流は、国内でみてもここならではのものになり得る可能性を秘めています。

この可能性を高めるべく、市民一人ひとりへの効果だけでなく、地域の活力創造などにつながるスポーツ交流やイベントなどの取り組みも進めます。

第4章

実現のための施策

3つの基本目標に沿って、その実現に必要となる基本的な施策を整理し、体系図としてとりまとめました。

基本目標

基本施策

基本目標1

市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

- ①子どものスポーツの推進
- ②「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進
- ③ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり
- ④効果的なスポーツ情報サービス
- ⑤公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

基本目標2

「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

- ⑥地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり
- ⑦健康増進に関わる多様な主体の連携強化
- ⑧総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

基本目標3

安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

- ⑨障がい者スポーツを広める場と体制づくり
- ⑩豊かな環境を活かしたスポーツ交流
- ⑪「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大
- ⑫東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流

次のページ以降に、基本施策ごとに市民のスポーツとの関わりと、第1次推進計画以後の市の取り組みにおける現状と課題を踏まえながら、今後の施策の展開を示します。

基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

安曇野での暮らしのスタイルと世代の違いにふさわしいスポーツ参加促進のための機会と場を生み出すことに重点を置きます。

基本施策① 子どものスポーツの推進

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市では特に中学生女子の体力が全国平均に比べ低く、運動が好きと回答する生徒が顕著に少ない傾向にあります（本書11ページ【補足分析】参照）。子どもたちの体力の維持・向上の根底にはスポーツを「好き」と感じる事が重要である傾向が見出されます。
- ・この傾向から、幼少の頃から親子でスポーツに親しむ場面を生み出すことや、達成感や成功を感じることでできる体験を積み重ねる機会の拡充が重要です。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・安曇野市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼少期（本書4ページ【参考3】参照）からの基礎体力向上に向け、コーディネーショントレーニングの拡充に力を入れ、特に認定こども園に関してはほぼ全園で事業を実施してきました。しかし、指導者不足のため1園当たりの頻度が低下しており、認定こども園の先生に対して指導を行っていく必要があります。
- ・また、学習会、出前講座の開催などにも力を入れ、親子、シニア等各世代にも、その効果や特徴への理解を深める機会を設けました。
- ・子どもたちの運動への抵抗感を緩和するうえでも、このトレーニングを小学生の低学年（運動神経が完成する10歳程度）まで継続できる運営体制を構築する必要があります。
- ・安曇野市のスポーツ少年団の参加人数・参加団体は増加傾向にあり、県下で団数は上位1位、団員数は上位2位で、活発な活動が展開されています。今後もこの状況を維持するべく、子どもたちの体力づくりやスポーツへの興味・関心を高める取り組みの継続が重要です。

表1 コーディネーショントレーニング(COT)普及等に関する講座等の実施概要(H23～28)

施策区分	事業内容
指導者の育成	COT学ぶ会
学習会、出前講座の開催	COTキッズ教室
	COT実践トレーニング
	COTジュニア教室、COTシニア教室
	COT幼保派遣事業
	COT親子体験会、高齢者体験会

※ コーディネーショントレーニング

子どもたちのなかには、バランスをとるのがうまい子や、リズムに合わせてからだを動かすことが得意な子がいます。このような子どもたちの動きに隠されているのが「コーディネーション能力（状況を目や耳などの五感で察知し、それを頭で判断し、具体的に筋肉を動かすといった一連の過程をスムーズに行う能力）」であり、この能力を高めるための、科学的に裏付けられた、楽しんで取り組むことのできるトレーニング方法

【 施策の展開 】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標 運動好きの割合(%) 60.6%→70.0%

※小学5年生、中学2年生の男女平均

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

◇コーディネーショントレーニングのさらなる推進

- ・幼児を対象としたコーディネーショントレーニングの実施を今後も継続するとともに、指導者の育成を進めます。
- ・コーディネーショントレーニングの効果をさらにあげるため、小学校のカリキュラムに組み込まれるようにモデル事業を展開します。

◇スポーツ少年団活動への支援

- ・体育協会との連携を図り、スポーツ少年団の活動を支援し、子どものスポーツ活動の機会の充実に取り組みます。

◇親子参加のスポーツ体験企画の充実

- ・これまでに開催した親子で参加するスポーツ教室の実施実績を踏まえながら、ターゲットやテーマの設定に工夫を加え、市民のニーズや課題の解決につながる企画の立案を進めます。

◆「生涯の健康づくり」の意識を取り入れた学習の機会の提供

- ・中学生女子などの運動への関心向上に向け、親子向けの講習の機会や、健康な人生を送るうえでの運動やスポーツの効果などに理解を深める機会を設けます。

安曇野市スポーツ少年団

「一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを!」「スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会のなかに!」と願い、「安曇野市スポーツ少年団」は平成19年に発足。現在、68団体約1,877人の団員たちが活動しています。

表2 安曇野市スポーツ少年団登録団体一覧

団体名	登録単位団体名 H29.4現在
柔 道	●豊科柔道 ●安曇野市柔道クラブ
剣 道	●豊科剣道 ●穂高剣道 ●堀金少年剣道クラブ ●三郷少年剣道クラブ ●明科剣道 ●夢 未来「対山館」AZUMINO
ミニバスケット	●豊科ミニバスケット ●穂高ミニバスケットボールクラブ ●安曇野三郷ミニバスケット ●安曇野堀金ミニバスケット ●明科ミニバスケットボール
空 手	●豊科空手道 ●武道空手少年クラブ安曇野道場 ●穂高空手道 ●真武館 ●三郷少年空手クラブ ●公和館三郷文化 ●堀金少年空手クラブ ●明科空手
サッカー	●豊科南サッカー ●アルフト安曇野ジュニア ●FC AZUL ●穂高少年サッカー・スクール ●三郷サッカー ●三郷サッカー・JY ●堀金サッカー ●明科サッカー・中学 ●明科サッカー ●安曇野グリーンヒル
卓 球	●豊科卓球 ●穂高卓球研究会 ●堀金少年卓球クラブ
バドミントン	●豊科ジュニアバドミントン ●穂高バドミントン ●明科バドミントン ●安曇野シニアバドミントン
硬式野球	●安曇野南リトルシニアリーグ ●安曇野穂高少年硬式野球連盟 ●豊科少年硬式野球協会 ●三郷少年硬式野球協会 ●堀金少年硬式野球協会
軟式野球	●軟式野球学童豊科クラブ ●豊科野球クラブ ●三郷学童野球クラブ ●明科少年野球クラブ ●明科野球クラブ
合 気 道	●あづみ野少年合気道クラブ ●穂高合気道
乗 馬	●安曇野市乗馬
ソフトテニス	●豊科ソフトテニス ●ソフトテニスあづみ野クラブ
弓 道	●豊科弓道
バレーボール	●豊科ジュニアバレーボールクラブ ●穂高キッズバレーボールクラブ ●少年バレーボール三郷クラブ ●三郷SVB ●キッズバレー堀金Wish ●安曇野JVC ●安曇野ジュニア教室 ●安曇野明科Jrバレーボール
ラグビー	●安曇野ラグビースクール ●三郷少年ラグビースクール
エアロビクス	●穂高ジュニアビクスサークル
体操・新体操	●わくわくKID'S ●三郷新体操
野外活動・多種目	●楽動隊

基本施策②「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市民のスポーツ実施率は、平成28年度の調査では7年前の調査に比べ約6%増加しましたが、全国平均には10%ほど及びません。実施率を高めるには、新たにスポーツの機会への参加を促すしかけが必要です。
- ・新たにスポーツを始めることを促す主要なターゲットは、健康づくりへの意識が高く、相応に時間のある「高齢者」と、将来の安曇野市を担う「子どもたち」であると考えられます。
- ・このような人々に対して参加を促すことのできる種目としては、競技人口が少なく、誰もが気軽に参加しやすく、体を動かすことから始める体操などの軽スポーツが挙げられます。
- ・市民アンケート調査の結果から、今後の参加希望率の最も高い種目はウォーキングです。歩くことは健康づくりにも効果があり、歩くきっかけを提供する取り組みは今後さらに重要になります。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・健康に歩くための工夫を伝えるため、市では、インターバル速歩講座、ノルディック・ウォーク講習会などの講座を開催しています。
- ・市では、熟年・壮年世代の初心者向けの講座（スポーツ吹矢などの軽スポーツの教室等）にも力を入れています。
- ・これらの種目は、初めてスポーツに取り組もうとする人の動機付けとして今後重要になると考えられます。

表3 初心者向けの講座等に関する実施概要(H23～28)

施策区分	事業内容	施策区分	事業内容
親子向けスポーツ教室の開催	親子体操教室 親子初心者カヌー体験会 親子スポーツ教室	歩くことから始める健康づくり	安曇野ウォーキング インターバル速歩講座 里山ウォーク ノルディック・ウォーク講習会 ポールウォーキング講習会
就学前の子どものスポーツ活動のきっかけづくり	わんぱくGYM教室		
未経験者、初心者向けのスポーツ教室の開催	アーチェリー教室 スマイルステップ教室 ニュースポーツ教室		

【施策の展開】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

目標指標 軽スポーツ及び競技スポーツ初体験会の教室※の参加者数
76 → 200 (人/年)

(※生涯学習課主催分)

◇軽スポーツ推進への重点化

- ・初心者向け、未経験者向け、親子参加のスポーツ体験のメニューとして、軽スポーツをテーマにした教室や講習の機会の拡充を図ります。
- ・初心者向けのスポーツの講座や体験会を実施する際の用具の購入等の拡充を図ります。

◇競技スポーツの気軽な体験機会の充実

- ・卓球、バドミントンなどの競技スポーツを経験したことのない人たちが、気軽に体験できる教室や講座の充実を図ります。

◆「ウォーキング」ニーズに応える新たな取り組み

- ・市民一人ひとりが歩いてポイント等を貯め、特典を得ることができるしくみを展開するなど、ウォーキング+αの魅力をつくりだし、参加と実践の意欲を高める方策の研究を進めます。

基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」、「身近に利用できるスポーツ施設を増やす」という回答が上位を占めています。
- ・市内では、20代後半、30～50代のスポーツ実施率が低く、この世代の参加促進が重要です。

- ・一方でスポーツ実施の目的は世代によって違いも大きいいため、様々なニーズに応じて「スポーツの場」を企画する必要があります。
- ・また、初心者への参加意欲に限らず、競技者のモチベーションの維持・向上にもつながる支援も必要です。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・近年、講習会などへの女性の参加者数が増えている種目として、ヨガ等が挙げられます。このようなタイムリーなニーズを把握したうえで、成人向けの講習の企画運営を継続・拡充することが重要です。
- ・平成28年度に市内で開催されたスポーツイベントや教室・講習への参加者実績は35,418人であり、7年前に比べ大幅に増えました。このうち20～30人規模の教室や学習の機会は、大半が市主体で運営しており、今後は、スタッフの確保や体制の再構築も必要になると考えられます。

表4 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

順位	選択肢詳細	H28比率%	H21比率%
1	幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす	11.8	11.2
2	身近に利用できるスポーツ施設を増やす	10.0	8.4
3	高齢者の健康と交流の場づくりを増やす	7.0	9.7
4	スポーツやイベントや指導者、施設などスポーツに関する各種情報の提供を充実する	6.8	8.3
5	優れたスポーツ指導者が増える	6.1	4.1
6	健康や体力づくりの相談体制を充実する	6.0	7.7
7	総合型地域スポーツクラブの活動を盛んにする	5.2	5.9
8	子どもたちの体力が向上する	5.1	4.8
9	各種スポーツ施設が簡単に予約できる	4.7	5.6
10	学校における運動部活動を活発にする	4.5	4.2

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

【施策の展開】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標

20～40代のスポーツ教室等参加率	25.7%→40.0%
親子で参加するスポーツ教室の参加者	434→600(人/年)

◇成人のスポーツ参加を促す教室や講座の開催・拡充

- ・仕事や家事などでスポーツ活動が難しい状況にある世代に向け、スポーツ教室の開催日や時間、内容に工夫を加え、魅力あるスポーツ教室等を開催します。
- ・親子で楽しみながら将来の健康づくりも意識できるスポーツ体験や学習の機会を創出します。
- ・新総合体育館の整備とあわせて、創意工夫のある運営形態なども検討し、体験教室等の内容の拡充を図り、より多様なニーズに応えるスポーツ体験の教室や講座の開催を進めます。

◇大会参加への支援

- ・全国大会などに出場する選手や団体に対して、激励金等を通じた支援を継続します。

◆市民のスポーツ参加への関心を高めるしかけづくり

- ・スポーツ施設の利用や教室等への参加を促すきっかけとして、利用実績をポイント等として蓄積でき、一定の水準まで達した場合に特典を得られるようなしくみを官民連携で検討します。

基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みへの回答として「スポーツやイベント、指導者等の情報提供」が6.8%で上位4番目に、「各種スポーツ施設が簡単に予約できる」が4.7%で9番目に位置します（本書21ページ表4参照）。
- ・これらを合計すると11.5%となり、最上位の「年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」と同等の水準であり、情報発信の充実に対するニーズが高い傾向にあることがわかります。
- ・市民がスポーツに関する情報を入手する際の手段としては広報誌・回覧板等が上位を占めています。一方で、世代による違いもあるため、多様な手法での情報発信も必要です。
- ・また、人口の社会増が多い安曇野市では、スポーツに新たに参加する人や新たに住んだ人などが苦労なく情報を入手できるしくみを充実させる必要があります。

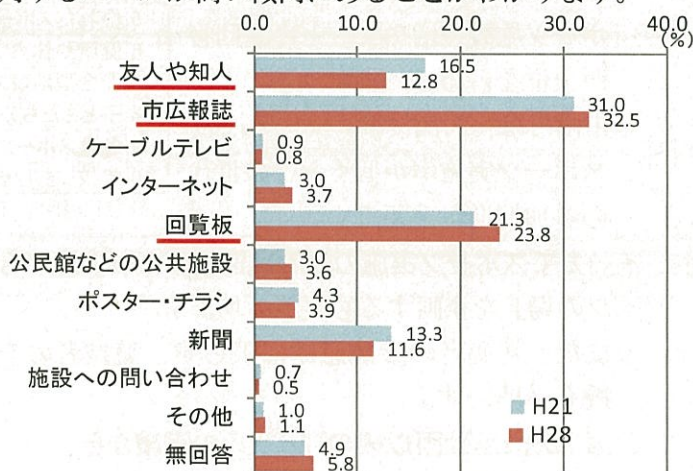


図18 スポーツに関する市民の情報源

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・スポーツ施設の予約システムの導入や利用料金の調整等を進め、施設利用申し込みの円滑化を進めました。
- ・市主催のスポーツ教室やイベントについては、市の広報誌等を中心に、情報発信を展開してきており、総参加者数も第1次推進計画の目標値を超えています。

【施策の展開】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標

広報誌、ホームページ、ツイッター等での情報発信回数

47→60 (回/年)

◇市民ニーズに適合したスポーツ情報のさらなる発信

- ・適切な手法でタイムリーに情報を提供するため、地図情報などを有効に活用し「どこで、何をできるのか」がわかる情報や、指導者に関する情報を集約・整理して発信するなど、コンテンツに対応した発信方法に工夫を加えます。

◆ポータルサイト設置・運営、SNSを活用した発信の検討

- ・情報受発信のツールの多様化に合わせ、インターネット、SNSを有効に活用して情報の受発信を進めます。

◆官民連携での発信の検討

- ・スポーツ施設は公的施設だけでなく民間施設もあることから、双方での情報交換や、無駄や無理のない情報発信を、体育協会等と連携で進める方法を研究します。

基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果から、施設の寒さ対策の充実、観客の応援場所の充実、備品の老朽化や劣化対策等、施設の快適性・利便性の改善を求める声が多くあります。
- ・施設の利用者数は平成28年度の実績で666,494人であり、今後の利用促進に向け、施設の改善を継続的に進め、満足度の向上につなげていく必要があります。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・公共スポーツ施設に関しては、第1次推進計画の内容を踏まえ、次のような改修・整備等を進めてきました。
 - ①耐震改修：穂高総合体育館改修（バリアフリー含む）
 - ②自然を活かしたスポーツ環境づくり：三郷黒沢マレットゴルフ場コース増設（27→36ホール）
 - ③新規整備：高家スポーツ広場整備
 - ④公式スポーツ施設整備計画に沿った施設整備の着手
（豊科南部総合公園における新総合体育館の整備）
- ・今後は、豊科南部総合公園における新総合体育館の整備に、より多様なニーズを反映させ、利用者が満足できる施設の実現を目指す必要があります。
- ・上記の体育館整備に伴う豊科南社会体育館や豊科武道館剣道場の廃止（安曇野市公共施設白書に基づく）のほか、老朽化に伴う大規模改修を行った場合その効果が見出せない施設の廃止の検討などを進めながら、人口減少と今後の財政負担を考慮した施設の統廃合について、より明確な計画を定めていくことが必要です。

【施策の展開】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

目標指標

施設利用者アンケートによる満足度 63.8% →70.0%

◇既存施設の部分改修による快適性・利便性の向上

- ・上記以外の既存施設については、市民のニーズ、老朽化の程度、利用状況等に応じて優先順位を見定めながら、修繕や部分改修を継続します。
- ・改修等にあたっては、利用者の安全確保、快適性の向上に努めるとともに、より多くの市民がスポーツに親しめるよう、スポーツ施設のユニバーサルデザインに配慮した改善を計画的に進めます。

◇新規施設の整備と既存施設の大規模改修等

- ・計画期間の前半5年間においては、次の施設を対象として施設の改善を進めます。

- ①新規整備：豊科南部総合公園拡張と新総合体育館整備
- ②大規模改修：三郷文化公園体育館等の改修（耐震化を含む）

◆市内体育施設の統廃合等の将来計画の具体化

- ・計画期間の後半5年間も含む将来を見据え、平成28年度にスポーツ庁で策定されたスポーツ施設ストック適正化ガイドラインに沿って、市内の体育施設の将来的な長寿命化、統廃合等に関する具体的な計画を作成します。

基本目標2 「する」スポーツを支える体制・しくみの充実

少子化が進むなか、競技スポーツの将来の担い手が育ちにくい現状や、優れたスポーツ指導者を求める市民の声を踏まえ、次世代の担い手を育てていく指導者やスポーツ推進に関わる市民のモチベーションを持続できるしくみづくりに重点をおきます。

基本施策⑥ 地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

①指導者の確保と育成

- ・市民アンケート調査の結果から、今後市が力を入れるべき取り組みのなかで、平成21年度調査と比べて最も回答者の比率が伸びた選択肢は「優れたスポーツ指導者が増える」でした。
- ・指導できる人がいない状態ではスポーツの継続が難しくなります。指導できる機会もつくることとあわせて、指導者の育成を図る必要があります。
- ・市内で進む人口の高齢化の影響は顕著で、指導者、推進体制の高齢化のほか、指導者のなり手不足の問題が発生しつつあります。

②指導者相互の交流

- ・指導的立場・スポーツ組織のマネジメントに関わる人が相互につながりをつくり、日々の課題の解決の糸口をみつけたり、相互の刺激を得ることは、「支える人」の苦労を減らしたり、モチベーションの維持につなげるうえで重要です。
- ・関係者の所在や得意分野などの基礎的な情報も不足しており、スポーツ指導者のヨコの連携を強化する必要があります。

③次世代への継承

- ・指導者の存在の有無のほか、少子化や競技種目への関心の変化も影響し、中学校で運営可能な部活動（競技種目）が限定される状況が続いており、運動部への入部者数の割合も減少傾向にあります。
- ・教員の日常業務の増加に伴い、教員だけでは部活動を支えられない状況が顕在化しており、地域で部活動を支えていくようなしくみづくりが必要な状況です。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

①指導者の確保と育成

- ・スポーツ指導者研修会を平成24、25、27、28年度に各1回開催しています。指導者の資質向上に向け、継続するとともに、人材も確保していく必要があります。
- ・指導者を確保するうえでも、第3者に対して指導能力があることを示す「指導者資格」の保有が重要です。指導的立場にいる人達からは、その資格の新規取得や更新への負担が大きいという声がきかれます。

②指導者相互の交流

- ・スポーツ推進委員会内に専門部を設置（子どもスポーツ部など5つの部）しています。人材の確保が難しい現状において、総合型地域スポーツクラブの新たな立ち上げなど、地域スポーツ振興の中心的な立場として活躍されることが期待されます。また、既存の組織で機能の低下した組織があれば改善も必要と考えられます。
- ・スポーツや健康に関わる有資格者やスポーツ指導者の生涯学習リーダーバンクへの登録を進めています。現時点では登録者も限定的であるため、このほかの登録のしくみも含め、人材情報の整理をさらに進める必要があります。

③次世代への継承

- ・堀金地域に設立されている総合型地域スポーツクラブ「スポネット常念」では、部活動のない分野の競技を補う形で堀金地域の子どもたちのスポーツニーズに応えています。
- ・こうした地域の組織との連携などを通じて、新たな指導者を確保する方法や確保できた場合の役割と責任の分担や、指導者が指導を継続できる環境づくりを、長野県、国などの取り組みとも連携・調整しながら進める必要があります。

【施策の展開】

目標指標

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

- スポーツ指導者講習会等の開催数
- スポーツ指導者連絡協議会（仮称）の設立

- 1→3（回/年）
- 0→1（組織）

◇スポーツ指導者研修会の拡充

- ・スポーツ指導者の指導技術向上やコミュニケーションのスキルアップに向け、他の機関と連携し、研修会や講習会を充実させ、スポーツ指導者の資質向上に努めます。

◇指導者に関する情報の整理

- ・生涯学習リーダーバンク、スポーツ推進委員、部活動外部指導者（登録）などスポーツ推進の人材情報を一元的に集約し、関係者で共有できるしくみを構築します。

◇部活動指導員制度への対応

- ・学校教育法施行規則の一部改正（平成29年4月）に伴い「部活動指導員」が制度化されます。現在県で具体化を進めており、市ではその対応の検討を進めます。

◆スポーツ指導者連絡協議会の設立・支援

- ・体育協会などで活動するスポーツ指導者の相互の連携と資質向上のため、スポーツ指導者連絡協議会（仮称）を設立し、その活動を支援します。

◆指導者・ボランティアの育成支援

- ・様々な団体・組織が主催する障がい者スポーツ指導者、ボランティアの養成講座などについて情報提供を行い、市民の参加促進を図ります。

◆人材情報の有効活用

- ・中学校の部活動の指導等、人材を必要とする機関のニーズと確保された人材とをマッチングさせる連携や調整のしくみづくりについて検討を進めます。

◆資格取得の支援

- ・スポーツ指導の経験が豊富で、公的な指導者資格の取得や継続を目指す人を主対象として、資格取得の支援を行うしくみについて検討を進めます。

基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・特定健診・後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」は勤労世代に比べ高齢世代で男女とも高くなっていますが、平成26年度以降、いずれの割合も低下傾向にあります（本書13ページ参照）。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・こうした動きを受け、中高年の健康維持、高齢者の介護予防のための身体活動とスポーツの取り組みに関しては、市内で様々な教室や体験の機会が提供されています。
- ・市では平成26年度より健康運動指導士を採用し、専門的な知見を活かした指導が可能な体制を整え、教室・イベント等で活躍しています。
- ・このようなニーズは今後も高まると考えられますが、これに対応する行政機関や民間の組織が相互に連携する体制が十分に整っているとはいえません。健康長寿のまちづくりの視点にたった効果的な連携を戦略的に進める必要があります。

表5 健康づくりに関する取り組みの実施概要(H23～28)

施策区分	事業内容
スポーツによる健康・体力づくりに向けた意識啓発	ウェーブリングストレッチ教室
	各種体操教室(健康推進課の事業)
	かんたんエアロビクス&ストレッチ教室
	市歌体操(安曇野健康体操)の考案 <松本大学との連携>
	ピラティス教室
	ヘルスアップ教室
	ボディシェイプアップ教室
	やさしいエアロビクス教室
	安曇野らくらくスポーツカレッジ ※スポネット常念への委託
	初心者ヨガ教室
健康・体力づくりの推進	あつみのピンキラ体操教室(松本大学との連携)
	エンジョイシニア！実践お達者塾
	介護予防教室(太極拳等)
	シニア健康太極拳教室
	介護予防講習会「古武術を用いた身体の動かし方」「取り組もう！今日からロコモ予防」
	楽々太極拳教室(老人クラブ太極拳教室)
	足腰らくらく体操教室
	地区体操教室
	目指せ脳の若返り！脳力アップ教室 <コグニサイズを用いたエクササイズ>

【施策の展開】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標

健康づくりに関する庁内連絡会議（仮称）の開催 0→3（回/年）

◇健康長寿の視点からのスポーツや身体活動に関する情報の整理と発信

- ・庁内で取り組む健康づくり・健康増進に関する情報の共有をさらに進め、熟年世代や高齢者、運動不足傾向にある世代に向け、効果的なスポーツや身体活動に関する情報提供を進めます。
- ・効果的な情報発信などを通じて、市民が満足するスポーツ関連事業の推進を図るため、庁内での連絡組織の設置を進めます。
- ・特に中高年のスポーツを通じた健康維持に重点を置き、必要な連携方策を具体化するとともに、中高年向けのコアディネーショントレーニングについても検討を進めます。

◆健康増進に向けた民間組織との連携策の検討

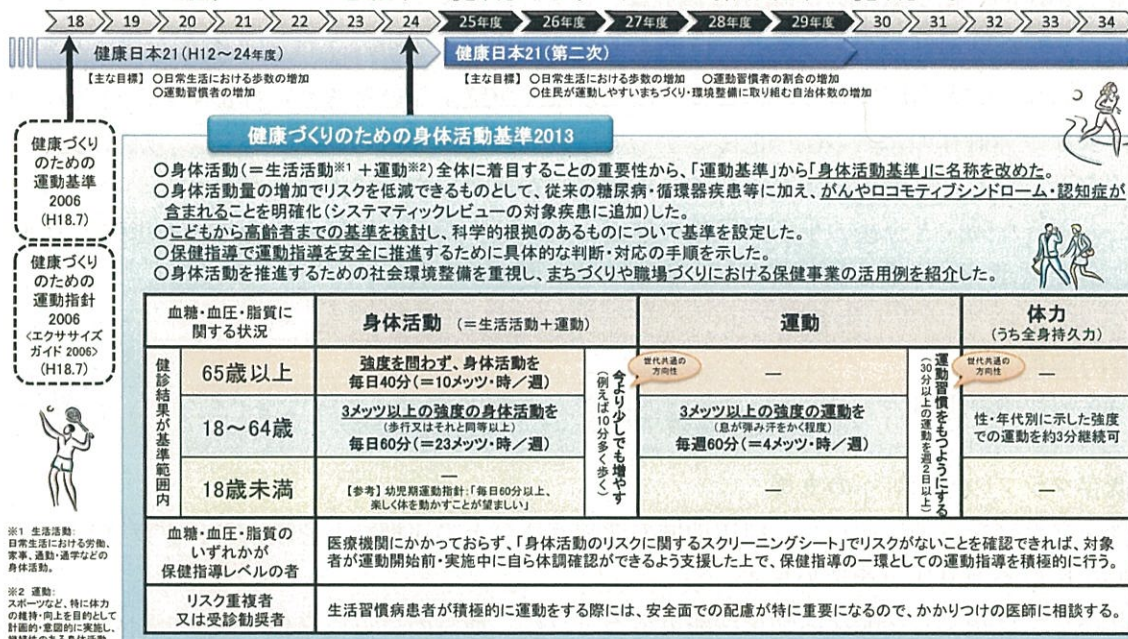
- ・行政と市民が連携して健康長寿のまちづくりに取り組んでいくため、健康づくりに取り組む市内の民間組織のニーズや意向を把握し、行政との連携の方策について検討を進めます。
- ・市民向けの健康づくりへの意識啓発につながるスポーツや身体活動に関する講演会や学習会等を開催します。

【参考4】健康づくりのための身体活動基準 —健康日本21に基づいた基準—

健康増進法に基づき、厚生労働省では運動も含めた「健康づくりのための身体活動の量や内容についての望ましい基準」を医学的知見も蓄積しながらつくりあげ、2013年にとりまとめています。運動以外の活動も「量」として示しているため、日常的にも活用が可能な内容となっています。

健康づくりのための身体活動基準2013(概要)

ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動(生活活動・運動)を推進することで健康日本21(第二次)の推進に資するよう、「健康づくりのための運動基準2006」を改定し、「健康づくりのための身体活動基準2013」を策定した。



○健康づくりのための身体活動指針は、国民向けパンフレット「アクティブガイド」として、自治体等でカスタマイズして配布できるよう作成。

生活活動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の生活活動の例
3.0	普通歩行(平地、67m/分、犬を連れて)、電動アシスト付き自転車に乗る、家財道具の片付け、子どもの世話(立位)、台所の手洗い、大工仕事、梱包、ギター演奏(立位)
3.3	カーペット掃き、フロア掃き、掃除機、電気関係の仕事:配線工事、身体の動きを伴うスポーツ観戦
3.5	歩行(平地、75~85m/分、ほとんどの速さ、散歩など)、楽に自転車に乗る(8.9km/時)、階段を下りる、軽い荷物運び、車の荷物の積み下ろし、荷づくり、モップがけ、床磨き、風呂掃除、庭の草むしり、子どもと遊ぶ(歩く/走る、中強度)、車椅子を押す、釣り(全般)、スクーター(原付)・オートバイの運転
4.0	自転車に乗る(≒16km/時未満、通勤)、階段を上る(ゆっくり)、動物と遊ぶ(歩く/走る、中強度)、高齢者や障がい者の介護(身支度、風呂、ベッドの乗り降り)、屋根の雪下ろし
4.3	やや速歩(平地、やや速めに≒93m/分)、苗木の植栽、農作業(家畜に餌を与える)
4.5	耕作、家の修繕
5.0	かなり速歩(平地、速≒107m/分)、動物と遊ぶ(歩く/走る、活発に)
5.5	シャベルで土や泥をすく
5.8	子どもと遊ぶ(歩く/走る、活発に)、家具・家財道具の移動・運搬
6.0	スコップで雪かきをする
7.8	農作業(干し草をまとめる、納屋の掃除)
8.0	運搬(重い荷物)
8.3	荷物を上の階へ運ぶ
8.8	階段を上る(速く)

メッツ	3メッツ未満の生活活動の例
1.8	立位(会話、電話、読書)、血洗い
2.0	ゆっくりした歩行(平地、非常に遅い≒53m/分未満、散歩または家の中)、料理や食材の準備(立位、座位)、洗濯、子どもを抱えながら立つ、洗車・ワックスがけ
2.2	子どもと遊ぶ(座位、軽度)
2.3	ガーデニング(コンテナを使用する)、動物の世話、ピアノの演奏
2.5	植物への水やり、子どもの世話、仕立て作業
2.8	ゆっくりした歩行(平地、遅い≒53m/分)、子ども・動物と遊ぶ(立位、軽度)

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステムティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

運動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の運動の例
3.0	ボウリング、バレーボール、社交ダンス(ワルツ、サンバ、タンゴ)、ピラティス、太極拳
3.5	自転車エルゴメーター(30~50ワット)、自体重を使った軽い筋力トレーニング(軽・中強度)、体操(家で、軽・中強度)、ゴルフ(手引きカートを使つて)、カヌー
3.8	全身を使ったテレビゲーム(スポーツ・ダンス)
4.0	卓球、パワーヨガ、ラジオ体操第1
4.3	やや速歩(平地、やや速めに≒93m/分)、ゴルフ(クラブを担いで運ぶ)
4.5	テニス(ダブルス)*、水中歩行(中強度)、ラジオ体操第2
4.8	水泳(ゆっくりとした背泳)
5.0	かなり速歩(平地、速≒107m/分)、野球、ソフトボール、サーフィン、バレエ(モダン、ジャズ)
5.3	水泳(ゆっくりとした平泳ぎ)、スキー、アクアビクス
5.5	バドミントン
6.0	ゆっくりとしたジョギング、ウェイトトレーニング(高強度、パワーリフティング、ボディビル)、バスケットボール、水泳(のんびり泳ぐ)
6.5	山を登る(0~4.1kgの荷物を持って)
6.8	自転車エルゴメーター(90~100ワット)
7.0	ジョギング、サッカー、スキー、スケート、ハンドボール*
7.3	エアロビクス、テニス(シングルス)*、山を登る(約4.5~9.0kgの荷物を持って)
8.0	サイクリング(約20km/時)
8.3	ランニング(134m/分)、水泳(クロール、ふつうの速さ、46m/分未満)、ラグビー*
9.0	ランニング(139m/分)
9.8	ランニング(161m/分)
10.0	水泳(クロール、速い、69m/分)
10.3	武道・武術(柔道、柔術、空手、キックボクシング、テコンドー)
11.0	ランニング(188m/分)、自転車エルゴメーター(161~200ワット)

メッツ	3メッツ未満の運動の例
2.3	ストレッチング、全身を使ったテレビゲーム(バランス運動、ヨガ)
2.5	ヨガ、ビリヤード
2.8	座って行うラジオ体操

*試合の場合

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステムティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

(厚生労働省ホームページより)

基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・総合型地域スポーツクラブ自体の認知度は市民の間でも低い状況にあり、認知度を上げるような取り組みが今まで以上に必要となります。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・現在、総合型地域スポーツクラブは堀金地域の1つのみです。
- ・地理的な特徴を考慮すると、あと2つ程度の設立が望ましいと考えられますが、設立の準備に必要な予算確保のための関係機関等からの助成要件（団体数・人数など）も、以前に比べ大きくなっており、準備の負担が大きく、新規設立が容易でない状況にあります。
- ・このような動向と今後の少子高齢化の進展、人口減少などを見据え、今後の安曇野市の地域をあげたスポーツ推進体制を研究し、構築する必要があります。

【施策の展開】

◇：既存施策の改善・拡充

目標指標

総合型地域スポーツクラブ参加者数 480 → 1,000 人

◇既存クラブの運営等への支援

- ・既存クラブを有効に活かし、周辺地域の活動団体等との連携などを模索し、クラブへの参加の輪を広げる取り組みを進めます。
- ・既存クラブがより活発な活動を展開できるように、運営の自主自立化に向けた取り組みに対しての支援を継続します。
- ・マネージャー養成のため、研修会などへの参加を促し、クラブ運営に必要な人材を育成します。
- ・市民への総合型地域スポーツクラブの認知度を高め、活動内容などを理解してもらうためのパンフレットの制作・配布などの広報活動を進めます。

◇既存のスポーツ推進体制の改善

- ・スポーツ推進に関する人材の情報整理とあわせ、今後の市内をとりまく情勢も勘案し、スポーツ推進委員など、市内のスポーツを先導的に推進していく体制について、改めるべき点を整理するとともにその対策を具体化し、必要に応じて再編や構築を進めます。

基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

障がい者スポーツの推進を通じた絆づくりと、安曇野の良好な環境を舞台に広まりつつあるスポーツイベントのしくみや体制を活かし、スポーツを通じた多様な交流の創出に重点を置きます。

基本施策⑨ 障がい者スポーツを広める場と体制づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・全国規模の調査報告では、パラリンピックの認知度は98.2%あるにもかかわらず、パラリンピック以外の障がい者スポーツの直接観戦経験のある人は4.7%という結果(※1)や、障がい者のスポーツ参加率は18.2%という結果(※2)が出ています。
- ・市内での障がい者スポーツに関する教室等の参加や関心の程度は、全国規模の調査結果よりも低い状況にあります。国や県の取り組みとの連携も視野に入れて認知度向上のきっかけづくりが必要です。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・平成29年度には、障がい者スポーツ体験会（ボッチャ）を開催しました。
- ・今後の継続に向けては、教室等の運営の際のサポート体制の確立が課題といえます。
- ・リオパラリンピックへの市内居住の出場者への壮行会を行うとともに、大会出場時のパブリックビューイング及び終了後の報告会を開催しました。

※1 日本財団パラリンピック研究会「国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」報告書

※2 健常者と障がい者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障がい者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)報告書

【施策の展開】

- ◇:既存施策の改善・拡充
- ◆:新規施策

目標指標 障がい者スポーツ教室・イベントの開催数 0→3(回/年)

◇障がい者スポーツの体験の機会と発信の充実

- ・これまでの取り組みの成果を活かし、今後も引き続き、認知度向上に向けて障がい者スポーツに関する体験の機会や、活動成果の発信の機会などを設け、参加や連携のきっかけづくりを進めます。
- ・様々な団体・組織が主催する障がい者スポーツ指導者、ボランティアの養成講座などについて市民向けの情報提供を行い、市民の参加促進を図ります。
- ・また、障がい者のスポーツ活動や利用拠点となる施設等に関する情報提供を充実します。

◆障がい者スポーツの推進体制の構築に向けた基盤づくり

- ・将来的な障がい者スポーツの推進体制の組織化に向け、体験や交流の機会を契機にして、指導者（一例として長野県障がい者スポーツ協会との連携）、協力者、連携先の確保を支援します。

基本施策⑩ 豊かな環境を活かしたスポーツ交流

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・平成27年より開催されている信州安曇野ハーフマラソンは、市内でスポーツボランティアが各所で活動できる機会となっており、市民がスポーツを支える形で交流のできる貴重な機会です。
- ・今後もスポーツの機会を活かしたボランティア活動等を通じて、市民同士の絆の向上、交流の促進を図ることは重要です。
- ・また、ボランティア活動に限らず、イベント等の機会を通じて、参加者、市民、来訪者が交流を深めることも重要です。
- ・市民や来訪者が安曇野の美しい景色や環境のなかを走りぬける、自転車で動くスタイルが拡大しつつあります。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・信州安曇野ハーフマラソンに代表されるスポーツ交流イベントを継続し、協力者の拡大により参加者増を目指していく必要があります。
- ・平成28年度には、リオ五輪でカヌースラローム競技アジア初のメダルを獲得した羽根田選手の名前を冠にしたスラローム大会が、安曇野明科の前川で市民団体の主催で開催されました。これと前後して、犀川のカヌーラフティング体験など、夏の水辺スポーツ環境としての価値が再認識されつつあります。
- ・このような動きや自転車利用等の進む状況を、観光産業振興との連携なども視野に入れ、総合的なスポーツによる地域振興につなげていく必要があります。

【施策の展開】

- ◇：既存施策の改善・拡充
- ◆：新規施策

目標指標 環境を活かしたスポーツイベントの開催数 1→5(回/年)

◇スポーツ交流イベントへの参加拡大

- ・既存のイベントへの協力者を増やしたり、新総合体育館や豊かな環境を活かした新たなスポーツイベントの開催に向け関係者との調整を進め、スポーツを通じた交流の裾野の拡大に努めます。

◆自然を活かしたスポーツを通じた交流の拡大

- ・犀川、万水川、前川などを利用したラフティングやカヌー、山岳地形を活かした登山やトレッキング、さらには、サイクルスポーツ、グライダー等のスカイスポーツなどの自然体験型スポーツの普及と推進に向け、様々な主体が連携して取り組む体験や交流の機会に対し、必要な支援の充実を図ります。



基本施策⑪ 「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・市民アンケート調査の結果では、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」が最上位であり、スポーツを通じた市民や世代間の交流ができる機会を生み出していくことは、今後も重要な視点です。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・ニーズの多様化にあわせて、「する」スポーツだけでなく、高い技術にも触れることのできる「見る」スポーツにも力を入れていく必要があります。
- ・安曇野市では、平成22年度より、市民がスポーツを通して交流を深め、安曇野市としての連帯感を共有するための事業として安曇野市民スポーツ祭を開催しています。6月末の開幕イベントを経て、その後半年間、市内各所にあるスポーツ施設を有効活用して、様々な種目の競技会が開かれています。しかし、8回の運営を経て、広報・周知などの面を中心に改善を要する部分もみられます。
- ・平成32（2020）年度に完成予定の新総合体育館は、様々な世代の市民がスポーツを通じた交流を進めるうえで重要な拠点になると考えられます。

【施策の展開】

◇：既存施策の改善・拡充

◆：新規施策

目標指標 国内トップレベルの試合等の誘致 0→2(回/年)

◇高い技術に触れる機会の充実

- ・体育協会や各種団体と連携して、より高いレベルの競技大会の開催を支援し、「見る」スポーツの機会の拡充を図ります。
- ・トップ・アスリートと交流する機会の拡充を図ります。

◇安曇野市民スポーツ祭の改善

- ・8年間の実績を踏まえ、その効果と課題を整理し、新総合体育館での開催事も見据えながら、運営方法等の改善を検討します。

◆新総合体育館整備を契機にした市内スポーツイベントの整理・統合・拡充

- ・スポーツを通じた交流をより効果的なものへと導くため、新総合体育館の開館前の段階から市内で開催される大きな大会やイベントの年間スケジュールの整理・統合・拡充等の検討を進めます。

基本施策⑫ 東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・リオパラリンピックでの市内居住の選手の活躍や、市内の前川のコースで開催された羽根田選手のリオ五輪メダル獲得記念大会などを通じ、オリンピックが身近なものと感じられる機会が増えてきました。
- ・国内では2020年の東京オリンピックが、県内では2027年の長野国体が開催される見込みであり、このような大規模なスポーツイベントを契機に人々の交流を深めることが期待されます。

○第1次推進計画以後の取り組みの実績から

- ・安曇野市では2020年の東京オリンピックに向け、ホストタウンとして名乗りを上げ、北信越国体でも利用されている龍門渚公園内の前川カヌースラロームコースを活用し、カヌー競技の普及と国際交流を推進することとしています。
- ・このような取り組みを市民や関係者が連携して実践できる体制づくりが必要です。またこうした機運を、今後の長野国体や新総合体育館も視野に入れ、様々な交流の促進につなげていくことが重要です。

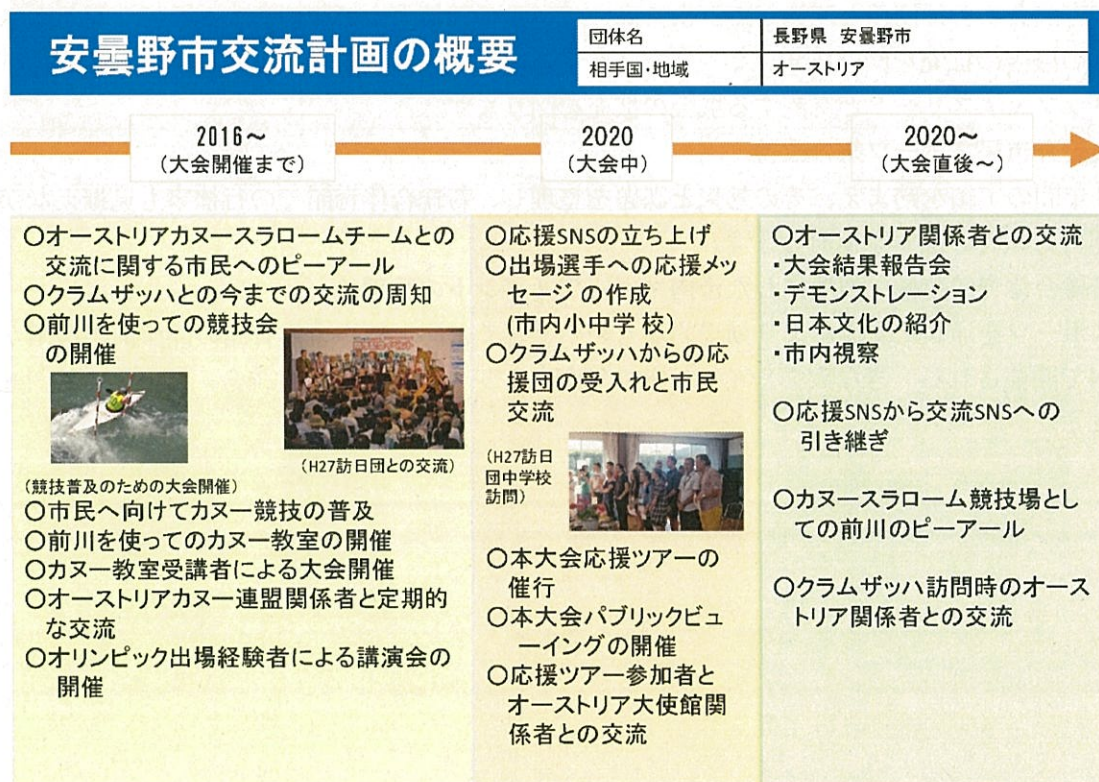
【施策の展開】

◇：既存施策の改善・拡充

目標指標 東京五輪・長野国体関連行事・催事への参加者延人数 2,000人

◇東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンの取り組みの推進

- ・前川のカヌースラロームコースを活用し、オリンピック出場選手等のデモンストレーションや、カヌー教室等を開催しながら、下図に示すイメージの国際交流を展開します。



(首相官邸ホームページより)

図19 安曇野市交流計画の概要

第5章

計画の推進及び進捗管理

1. 計画の推進

本計画の推進にあたっては、行政はもとより、市民やスポーツ関係団体・関係機関などの「協働」により実践していくことが必要です。

このため、本計画について積極的に広報し、周知を図ります。また、市民のスポーツニーズや施策の展開状況を把握・評価し、事業実施に反映することにより、合理的な計画推進を図ります。

2. 数値目標による管理

本計画を推進するため、基本施策ごとに数値目標を設定し、計画の成果を定期的に確認しながら、必要な取り組みを進めます。

表6 目標指標等一覧

基本目標	No.	基本施策	指標(単位)	現状 (H28)	目標値 (H39)
市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進	①	子どものスポーツの推進	運動好きの割合(%) ※小学5年生、中学2年生の男女平均	60.6	70.0
	②	「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進	軽スポーツ及び競技スポーツ体験会の教室の参加者数(人/年)	76	200
	③	ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり	20～40代のスポーツ教室等参加率(%) 親子で参加するスポーツ教室の参加者(人/年)	25.7 434	40.0 600
	④	効果的なスポーツ情報サービス	広報誌、ホームページ、ツイッター等での情報発信回数(回/年)	47	60
	⑤	公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善	施設利用者アンケートによる満足度(%)	63.8	70.0
「する」スポーツを支える体制・しくみの充実	⑥	地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり	スポーツ指導者講習会等の開催数(回/年) スポーツ指導者連絡協議会(仮称)の設立(組織数)	1 0	3 1
	⑦	健康増進に関わる多様な主体の連携強化	健康づくりに関する庁内連絡会議(仮称)の開催(回/年)	0	3
	⑧	総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化	総合型地域スポーツクラブ参加者数(人)	480	1,000
安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出	⑨	障がい者スポーツを広める場と体制づくり	障がい者スポーツ教室・イベント開催数(回/年)	0	3
	⑩	豊かな環境を活かしたスポーツ交流	環境を活かしたスポーツイベントの開催数(回/年)	1	5
	⑪	「する」「見る」スポーツを通じた多様な交流の拡大	国内トップレベルの試合等の誘致(回/年)	0	2
	⑫	東京五輪・長野国体準備を通じた各種交流	関連行事・催事への参加者(延人数)	—	2,000
参考値			成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	32.6	50.0

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

3. 計画の進捗管理

進捗状況については、スポーツ関係団体や学校などの代表、学識経験者などで構成する「安曇野市スポーツ推進審議会」において、計画の評価及び見直しについての審議をいただき、必要な場合には計画の見直しを行っていきます。

資料編

- 資料1 策定組織
- 資料2 策定経過
- 資料3 市民のスポーツ・体力づくりに
関するアンケート調査結果

資料1 策定組織

第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 この要綱は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条の規定に基づき、第2次安曇野市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）を策定するため、第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画策定に関する事務を所掌する。

(組織)

第3条 委員会は、20人以内の委員をもって組織し、次に掲げる者の中から教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ団体の代表者
- (2) 公募により選考された市民
- (3) 学識経験者
- (4) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会長は、特に必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 計画の策定に関する研究、検討及び計画素案の作成を行うため、専門部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮って別に定める。

附 則

(施行期日等)

- 1 この告示は、平成28年12月1日から施行する。
- 2 この告示は、平成30年3月31日限り、その効力を失う。

第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員名簿

任期：平成29年1月31日～平成30年3月30日

	役職名	氏 名	所 属
1	会 長	古澤 栄一	学識経験者
2	副会長	加々美 浩一	安曇野市スポーツ少年団
3	委 員	古屋 真弓	安曇野市体育協会体育館使用団体代表
4	委 員	小池 法誉	安曇野市体育協会テニスコート使用団体代表
5	委 員	二木 むつみ	安曇野市体育協会武道場使用団体代表
6	委 員	鈴木 尚登	安曇野市体育協会武道場使用団体代表
7	委 員	湯本 度	安曇野市体育協会グラウンド使用団体代表
8	委 員	内田 信一	安曇野市体育協会グラウンド使用団体代表
9	委 員	古川 節雄	特定非営利活動法人安曇野市体育協会
10	委 員	太田 哲旦	安曇野市スポーツ少年団
11	委 員	丸山 義春	安曇野市スポーツ推進委員会
12	委 員	布山 まゆみ	安曇野市スポーツ推進委員会
13	委 員	宮澤 郁子	総合型スポーツクラブ スポネット常念
14	委 員	清水 和雄	公募
15	委 員	新井 喜代加	学識経験者
16	委 員	古幡 栄一	安曇野市小中学校校長会
17	委 員	一志 和恵	安曇野市老人クラブ連合会
18	委 員	矢野 勤	安曇野市身体障害者福祉協会

資料2 策定経過

1. 策定委員会

会議名	開催日時		開催場所	内容
第1回策定委員会	平成29年1月31日	19:00～20:50	本庁舎3階 共用会議室306	策定スケジュール・市民 アンケートの検討
第2回策定委員会	平成29年4月28日	19:00～20:45	本庁舎3階 共用会議室305	アンケート調査結果
第3回策定委員会	平成29年6月27日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の現状と課 題
第4回策定委員会	平成29年7月25日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の課題と方 策(ワークショップ)
第5回策定委員会	平成29年9月26日	19:00～21:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の基本方針
第6回策定委員会	平成29年11月7日	19:00～20:30	本庁舎3階 共用会議室306	計画書(素案)の検討
第7回策定委員会	平成30年1月26日	19:00～20:30	本庁舎3階 共用会議室306	計画の最終案の検討

2. 庁内会議

会議名	開催日時		開催場所	内容
第1回庁内プロジェクト チーム会議	平成29年1月26日	9:30～10:15	本庁舎3階 共用会議室305	策定スケジュール・市民 アンケートの検討
第2回庁内プロジェクト チーム会議	平成29年4月20日	9:35～10:30	本庁舎3階 共用会議室301	アンケート調査結果
第3回庁内プロジェクト チーム会議	平成29年6月21日	9:05～10:20	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の現状と課 題
第4回庁内プロジェクト チーム会議	平成29年9月20日	9:05～10:00	本庁舎3階 共用会議室306	スポーツ推進の基本方針
第5回庁内プロジェクト チーム会議	平成29年10月26日	9:00～9:40	本庁舎3階 共用会議室307	計画書(素々案)の検討
第6回庁内プロジェクト チーム会議	平成30年1月12日	9:00～9:40	本庁舎3階 共用会議室306	計画書(案)の検討

3. パブリックコメント募集

実施時期	方法	概要	対応
平成29年12月5日～ 平成30年1月6日	市役所、市ホーム ページ、公民館等で 計画案、検討過程 を公表し意見を募 集。	①コーディネーショントレーニングは 対象年齢を問わず推進していくべき では。 ②若年層だけでなく各年代に向けて の取り組み内容を表記すべきでは。 ③指導者育成をもっと強調しても良 いのでは。	①については、26ペー ジに中高年向けの対応 を記載。 ②、③については、ご 提案として参考とする。

資料3 市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果

(1) 調査の目的

本調査は、スポーツに対する市民の皆さんの関心や常日頃の取り組みの状況、今後の取り組みに対する意向等を把握するために実施しました。

(2) 調査方法および調査結果概要

調査実施期間：平成29年2月10日(金)～2月28日(火)

調査対象：安曇野市在住の中学生以上の市民2,000人（無作為抽出（層化抽出）による）

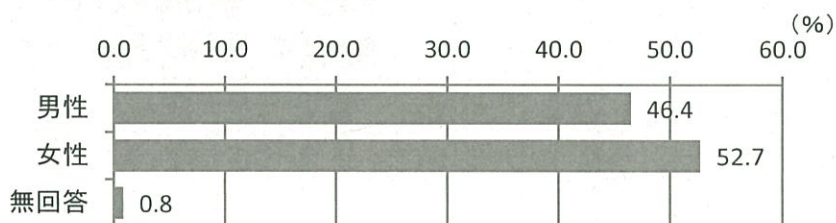
調査方法：郵送により配布・回収

回収数：842通（回収率42.1%）

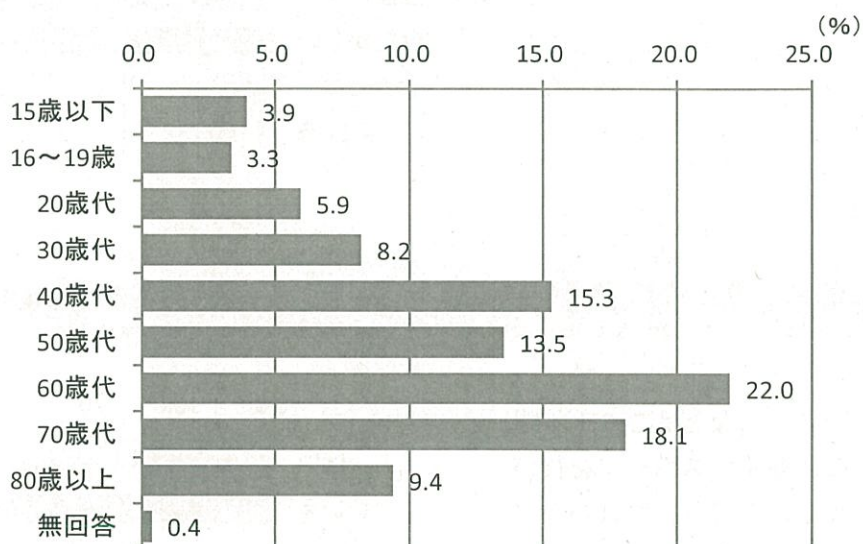
なお、本調査は、平成21年度の「安曇野市スポーツ振興計画」策定時に実施した「市民の体育・スポーツに関するアンケート調査」と同じ設問を基本とし、本調査として新たに設問を追加して実施しました。

A. あなたご自身のことについておうかがいします

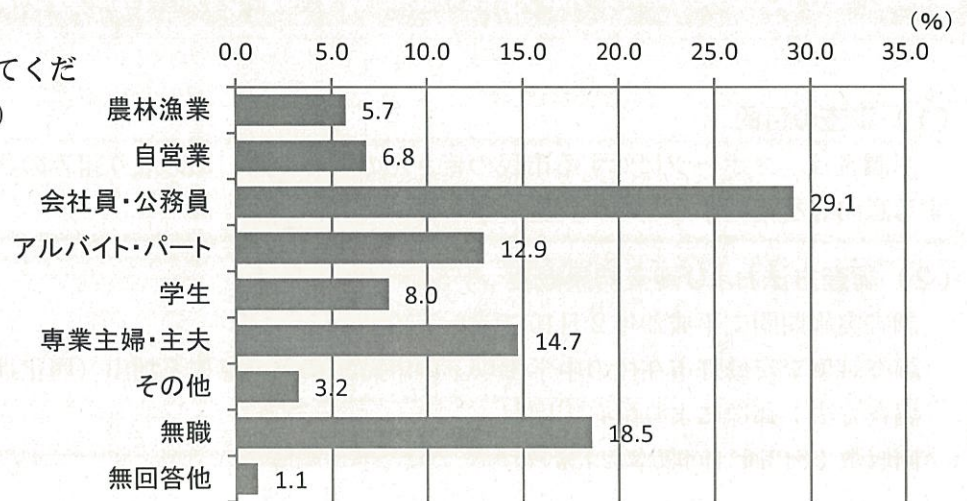
問1 あなたの性別を教えてください。（いずれか1つに○）



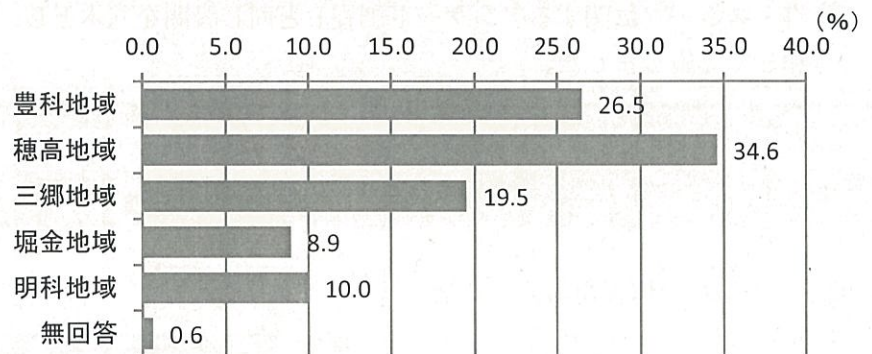
問2 あなたの年齢を教えてください。（いずれか1つに○）



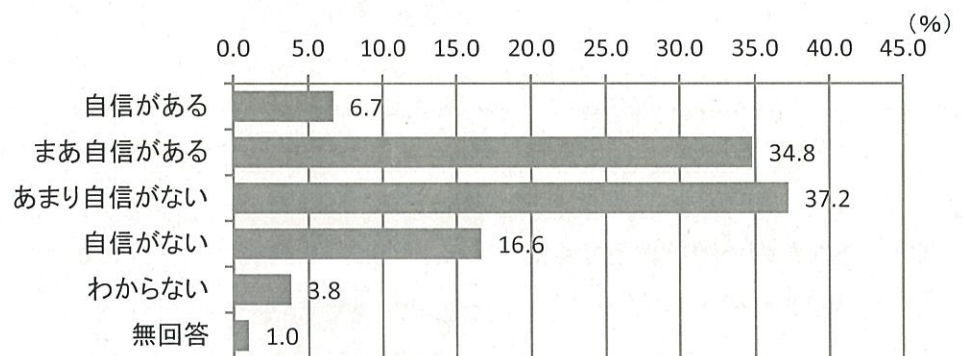
問3 あなたの職業を教えてください。
（いずれか1つに○）



問4 あなたのお住まい
の地域はどちらですか？
（いずれか1つに○）

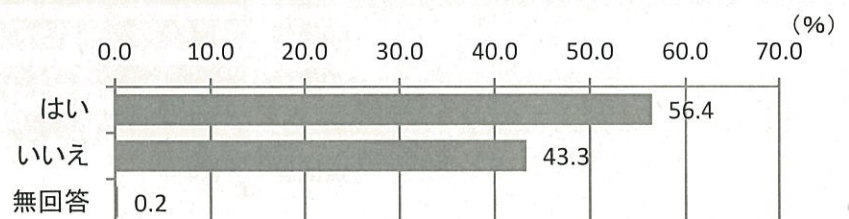


問5 あなた自身の体力に
ついてどう感じています
か？（いずれか1つに○）



B. 現在のスポーツ活動状況についておうかがいします

問6 あなたはこの1年
に、運動・スポーツを行
いましたか？（いずれか1
つに○）

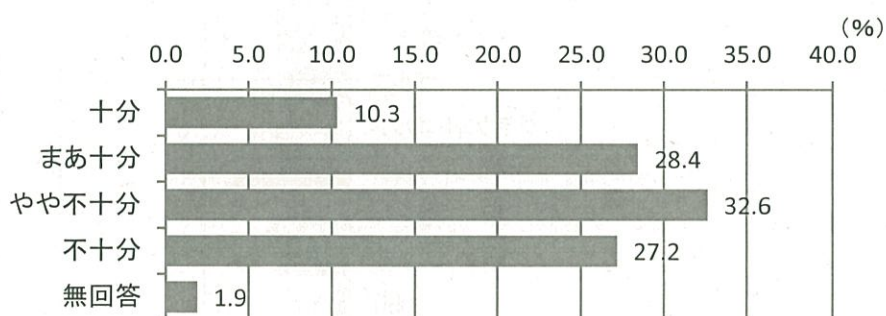


問6で「はい」とお答えの方のみにおうかがいします。以下の問6-①～⑥までの6問にご回答下さい。

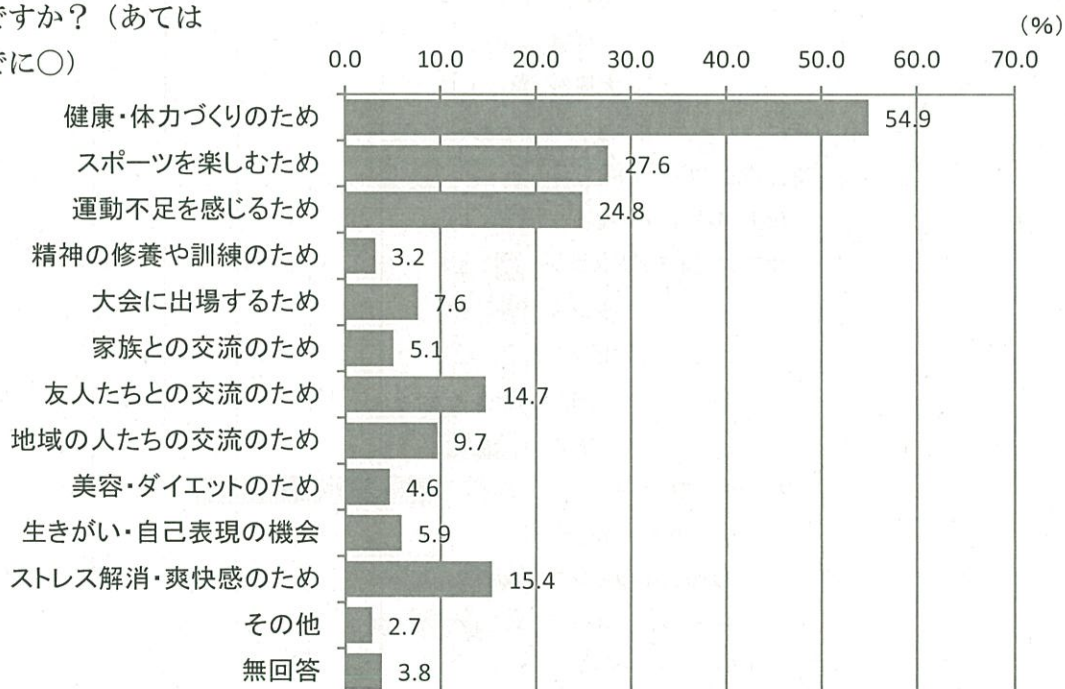
問6-① どの程度の頻度で運動・スポーツをしていますか？
(いずれか1つに○)



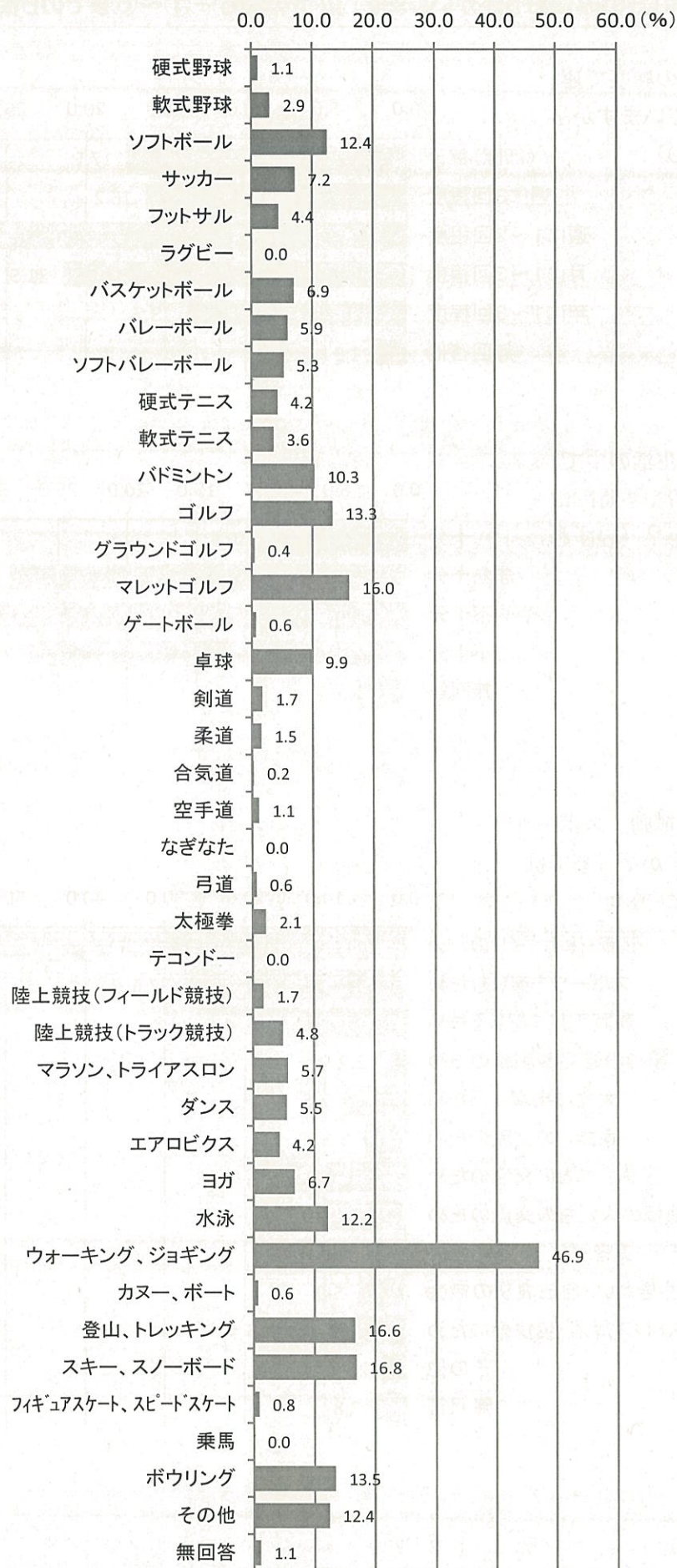
問6-② あなたの生活の中で、運動・スポーツに費やす時間は十分とお考えですか？(いずれか1つに○)



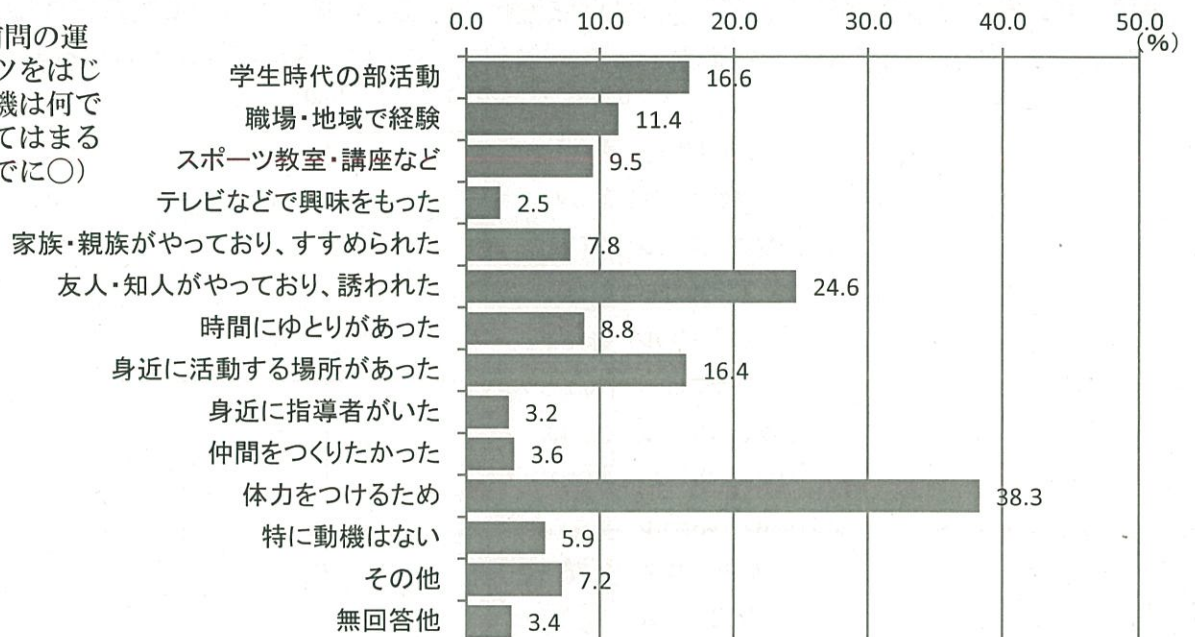
問6-③ あなたが運動・スポーツを行う目的は何ですか？(あてはまるもの2つまでに○)



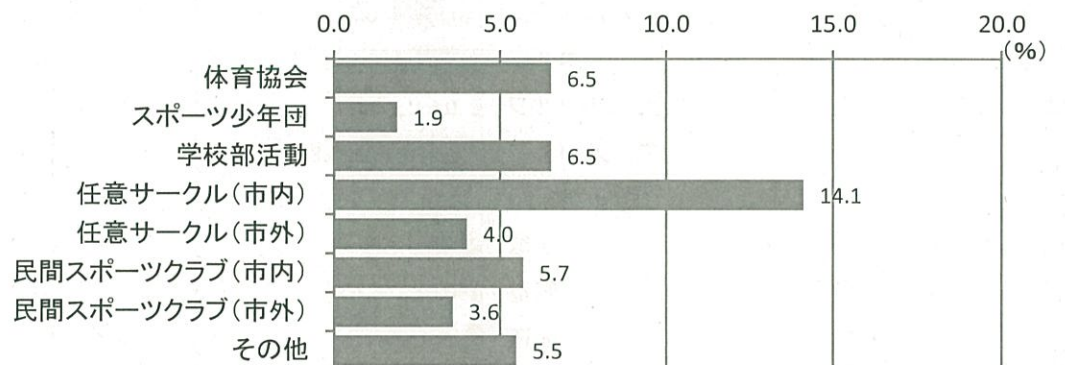
問6-④ この1年間にどんな運動・スポーツをしましたか？（あてはまるものすべてに○）



問6-⑤ 前問の運動・スポーツをはじめた主な動機は何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）

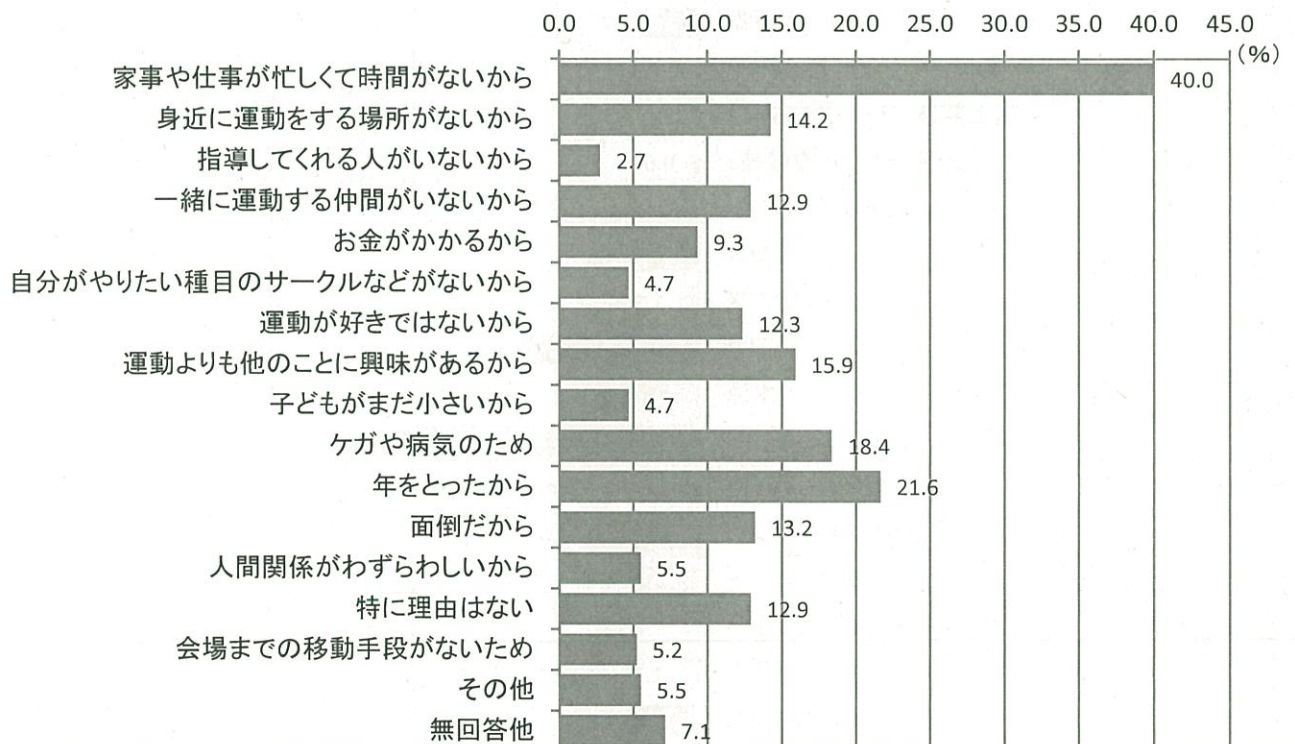


問6-⑥ クラブ・サークルなどのスポーツ団体に所属していますか？（あてはまるものすべてに○）



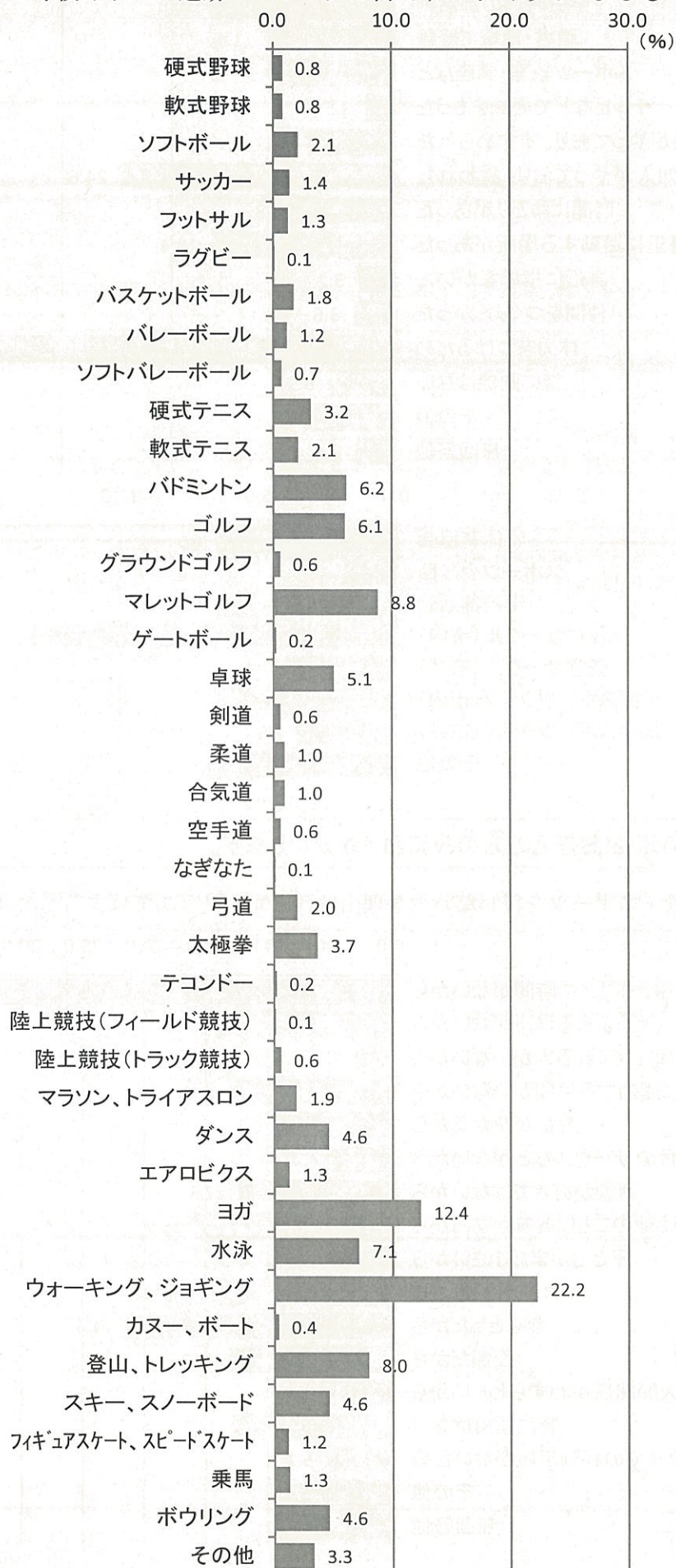
前ページ問6で「いいえ」とお答えの方のみにおうかがいします。

問6-⑦ あなたが運動・スポーツを行わない主な理由は何ですか？（あてはまるもの3つまでに○）



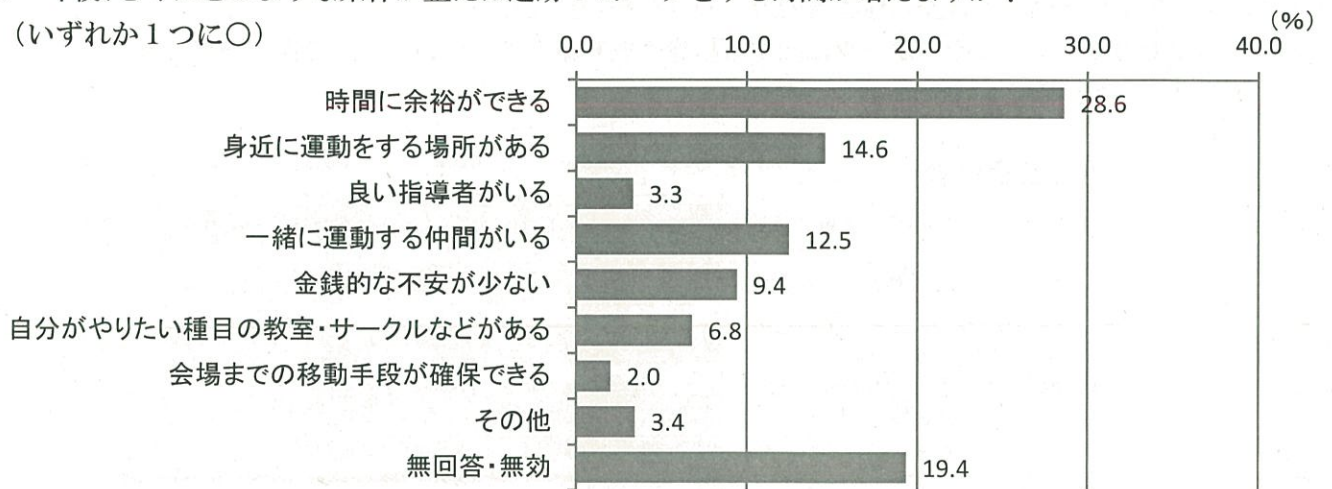
C. 今後の運動・スポーツ活動についておうかがいします

問7 あなたが、今後やりたい運動・スポーツは何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）



問8 今後、とくにどのような条件が整えば運動・スポーツをする時間が増えますか？

(いずれか1つに○)



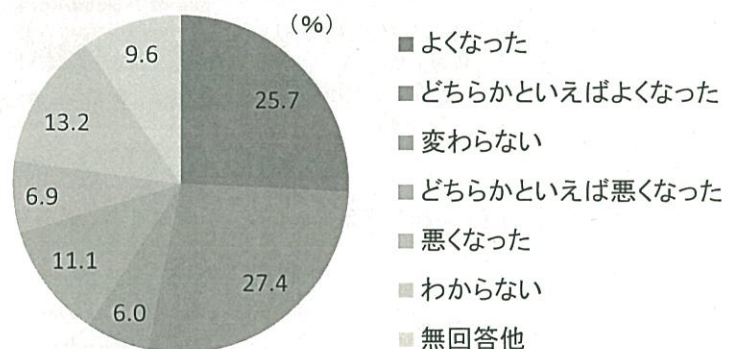
D. 子どもたちのスポーツや体力づくりについておうかがいします

問9 20歳以上の方におうかがいします

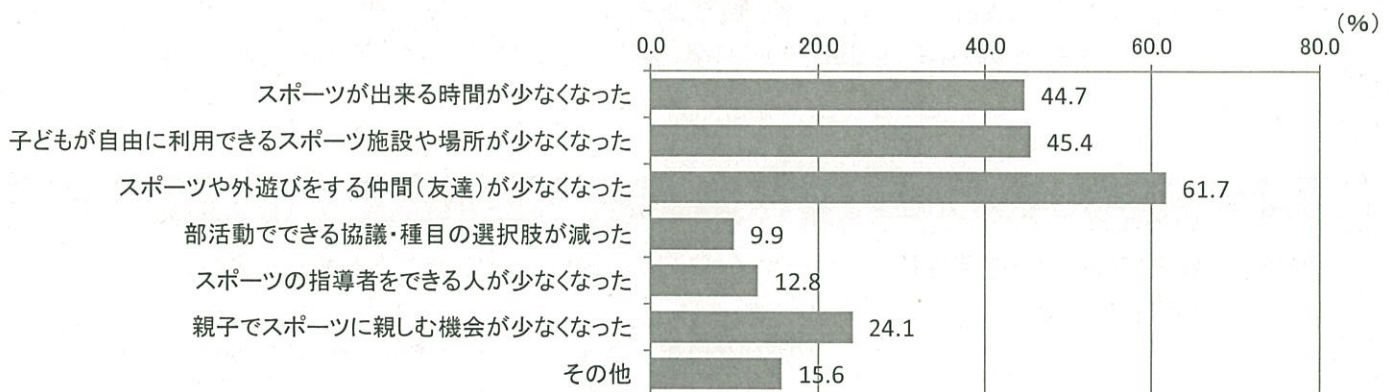
(問10も同様です)。

あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どものスポーツを取り巻く環境はどのようになったと感じますか？

(いずれか1つに○)

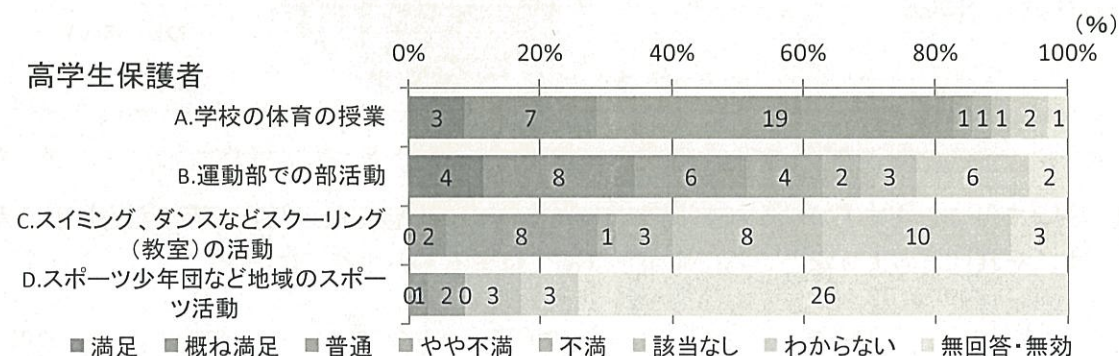
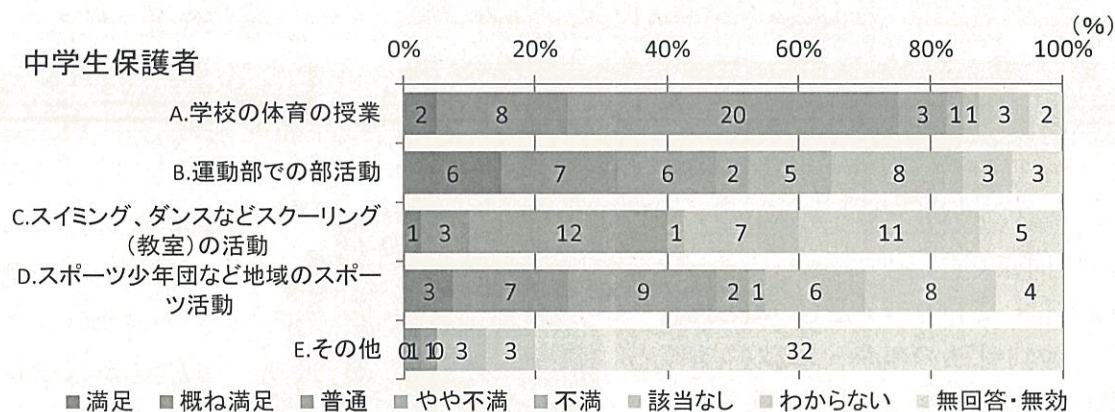
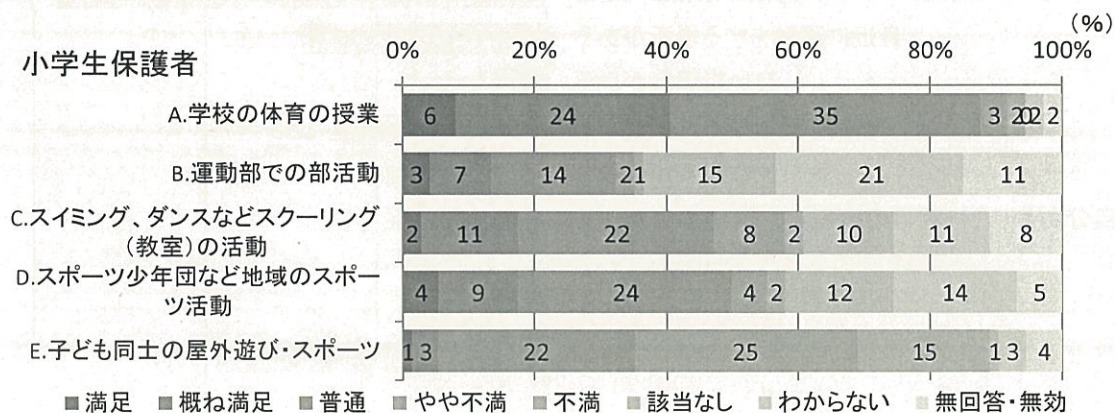


問10 問9で「4. どちらかといえば悪くなった」、「5. 悪くなった」と答えた方におうかがいします。それはどのようなところですか？(あてはまるものすべてに○)



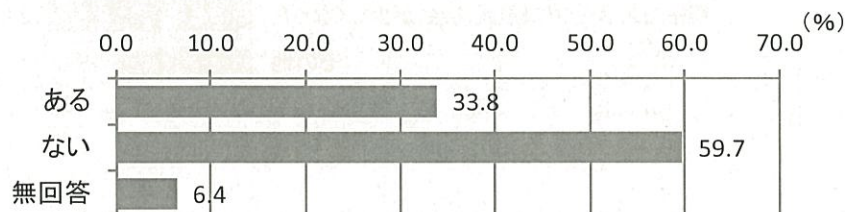
問11 小学校～高校生までの保護者の方におうかがいします。

学校での体力づくりやスポーツに関する指導や取り組み等について、どの程度満足されていますか？（項目別にいずれか1つに○）

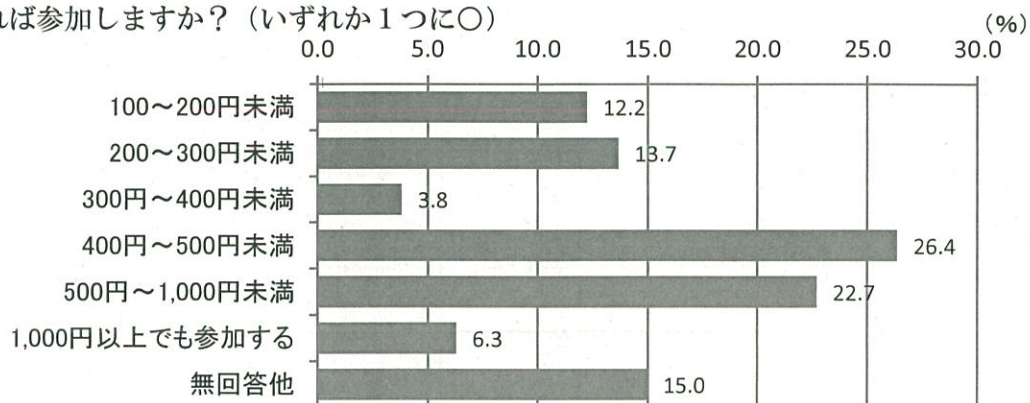


E. 市が行うスポーツイベント（運動会、球技大会など）・教室についておうかがいします

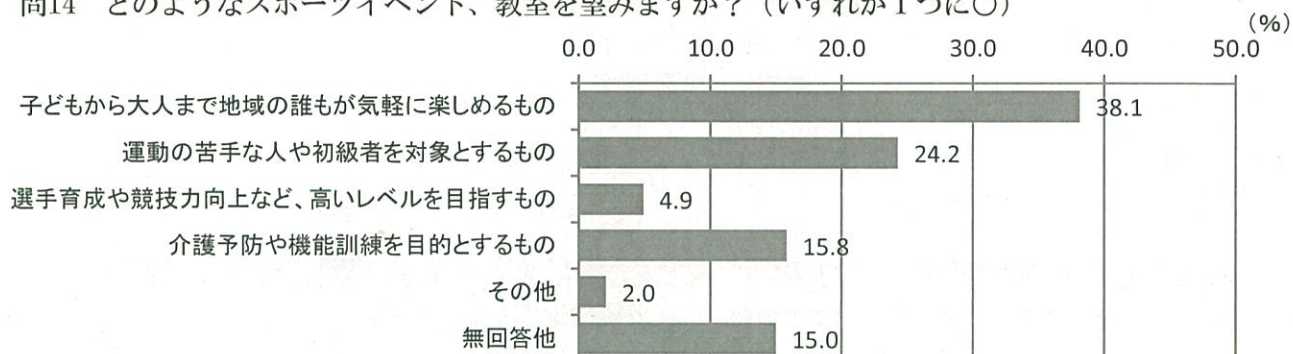
問12 これまでに市内で開催されたスポーツイベント・教室に参加したことがありますか？（いずれか1つに○）



問13 市が行うスポーツイベントや教室の参加のため、1回（1日）にあなたはどのくらい参加費（保険料含む）であれば参加しますか？（いずれか1つに○）

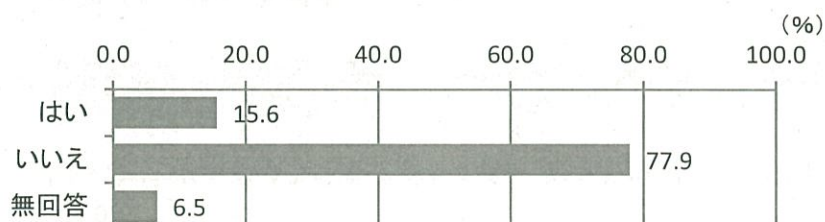


問14 どのようなスポーツイベント、教室を望みますか？（いずれか1つに○）



F. スポーツに関するボランティア活動についておうかがいします

問15 あなたはスポーツに関わるボランティア活動（大会運営協力、スポーツ指導等）を行いたいと思いますか？（いずれか1つに○）



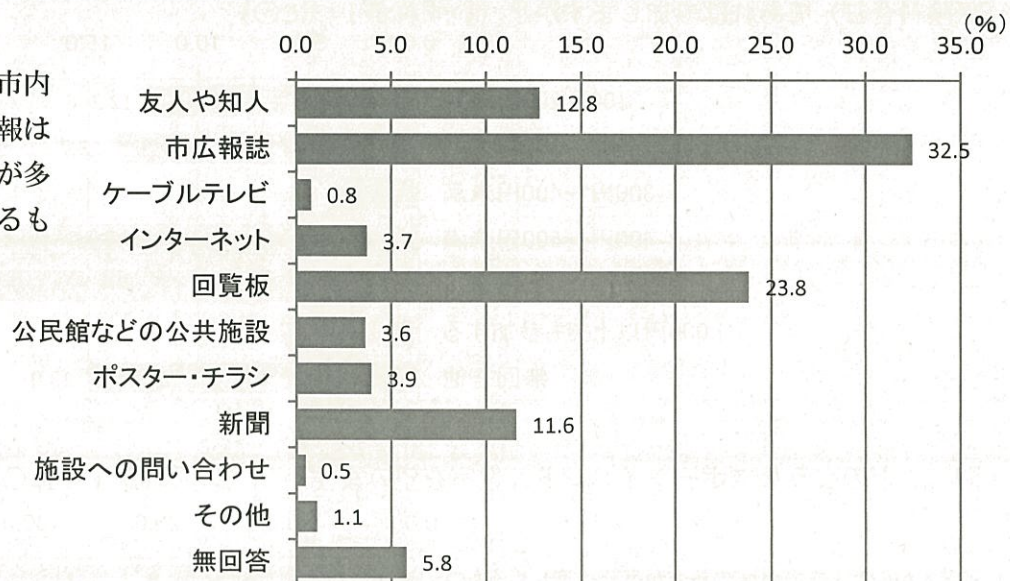
「はい」とお答えの方のみにおうかがいします。

問15-① それはどのような活動ですか？（あてはまるものすべてに○）

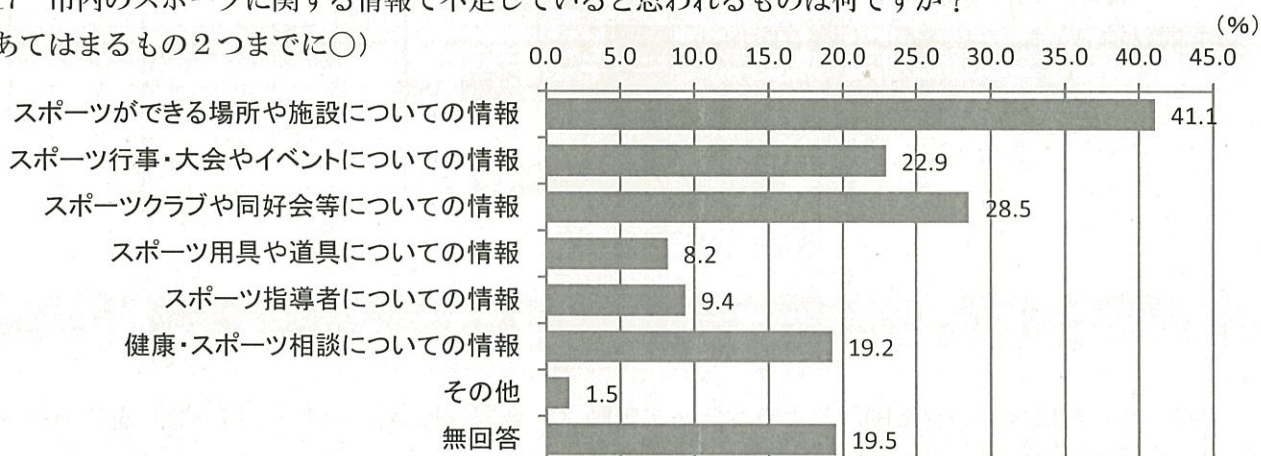


G. スポーツに関する情報についておうかがいします

問16 あなたは普段、市内のスポーツに関する情報は主にどこから得ることが多いですか？（あてはまるもの2つまでに○）

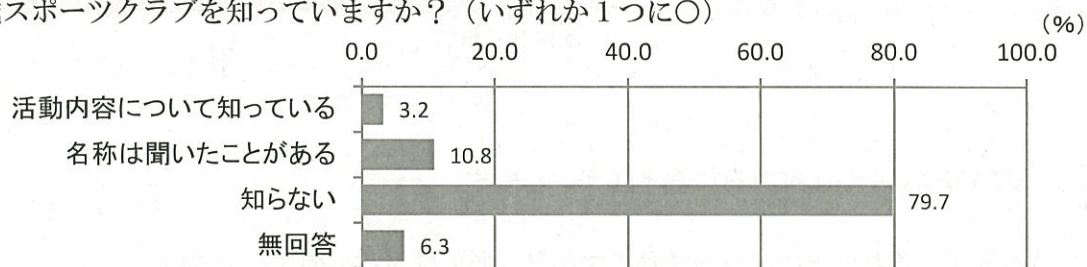


問17 市内のスポーツに関する情報で不足していると思われるものは何ですか？（あてはまるもの2つまでに○）

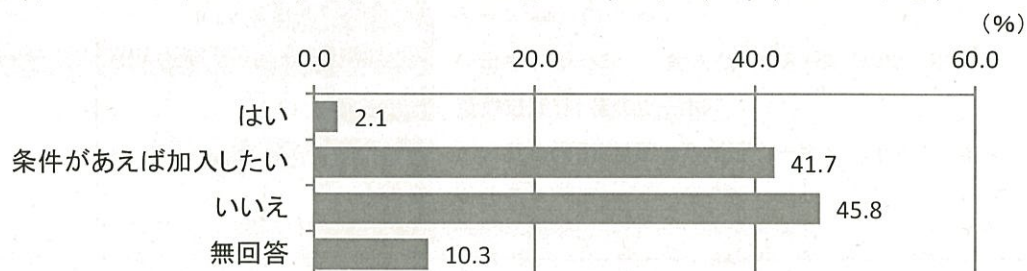


H. 総合型地域スポーツクラブについておうかがいします

問18 総合型地域スポーツクラブを知っていますか？（いずれか1つに○）

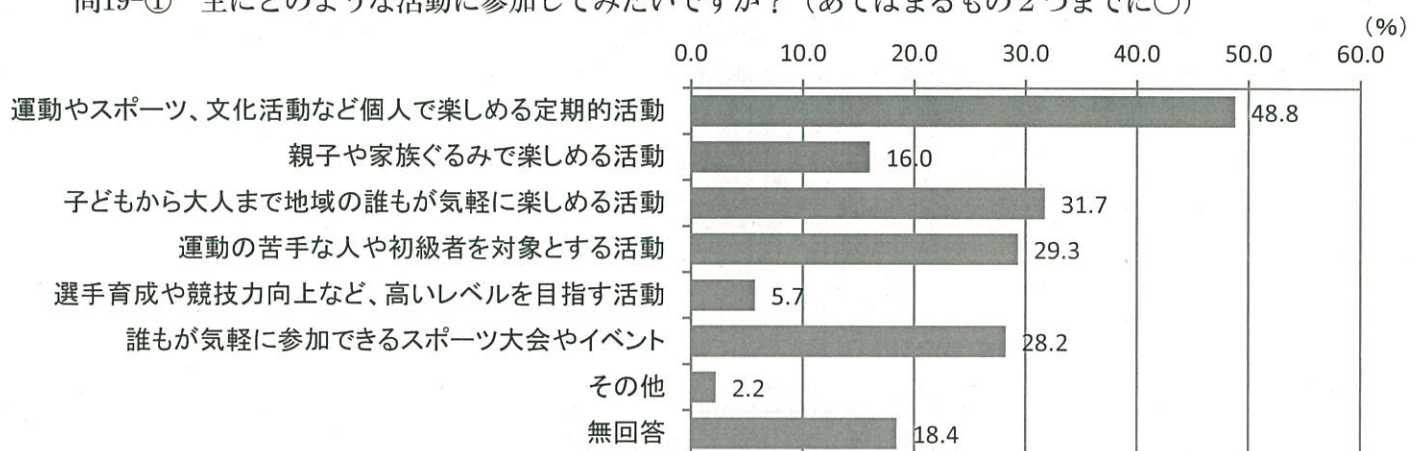


問19 身近に総合型地域スポーツクラブがあれば加入したいと思いますか。（いずれか1つに○）

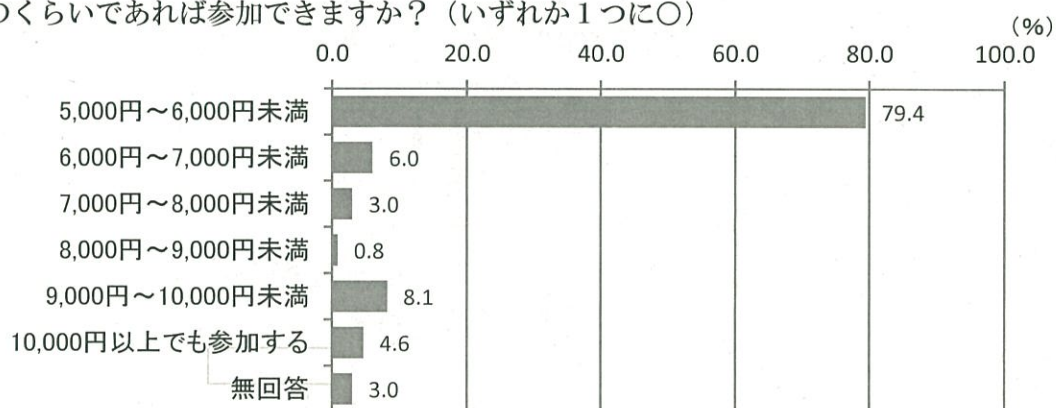


「はい」または「条件があれば」とお答えの方のみにおうかがいします。

問19-① 主にどのような活動に参加してみたいですか？（あてはまるもの2つまでに○）



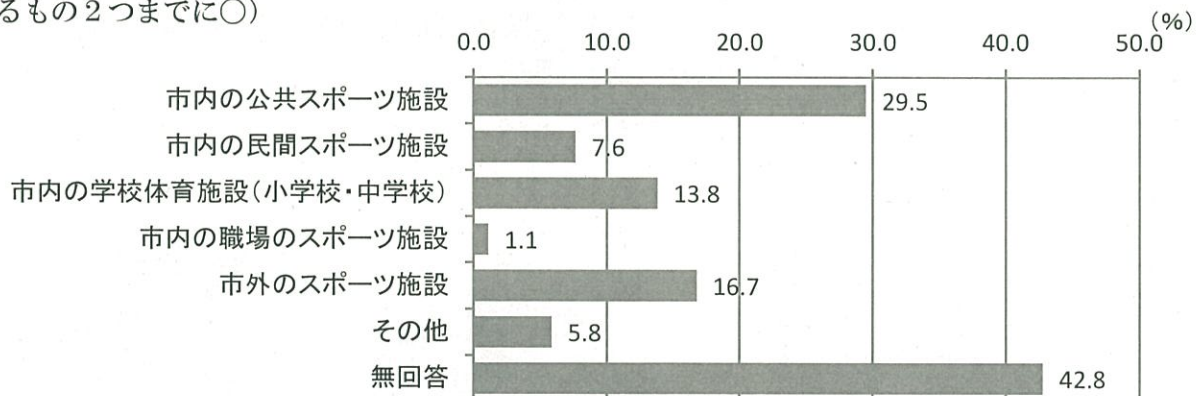
問19-② 年会費はどのくらいであれば参加できますか？（いずれか1つに○）



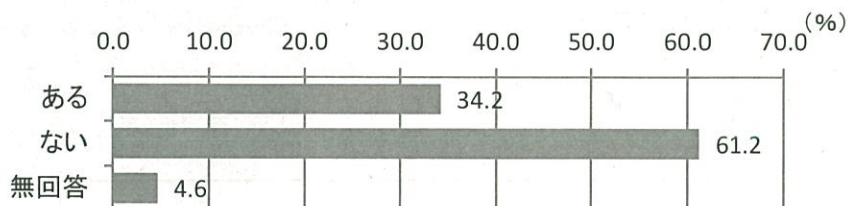
I. スポーツ施設についておうかがいします

問20 あなたがよく利用するスポーツ施設は、次のうちどれですか？

（あてはまるもの2つまでに○）

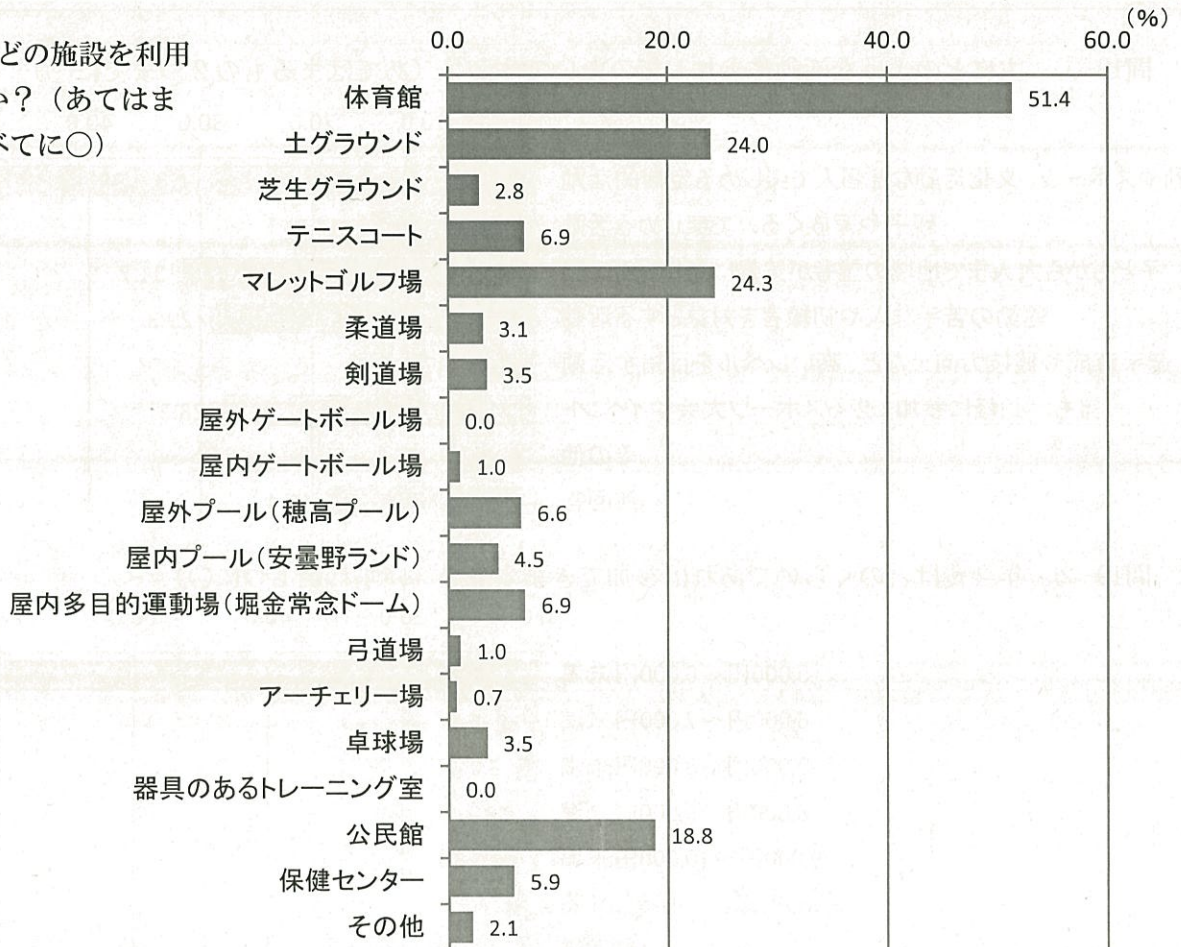


問21 あなたはこの1年間に安曇野市の公共スポーツ施設（学校の体育施設を含む）を利用したことがありますか？（いずれか1つに○）

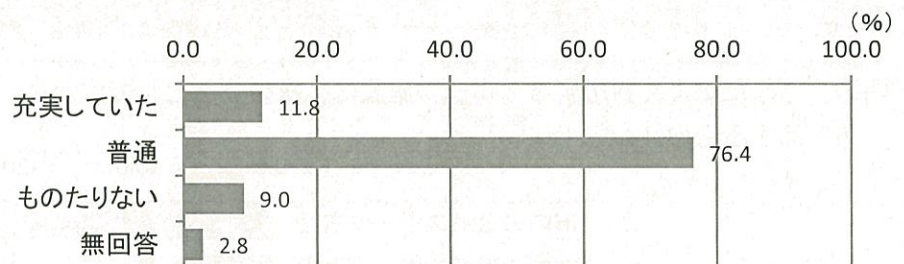


「ある」とお答えの方のみにおうかがいします。

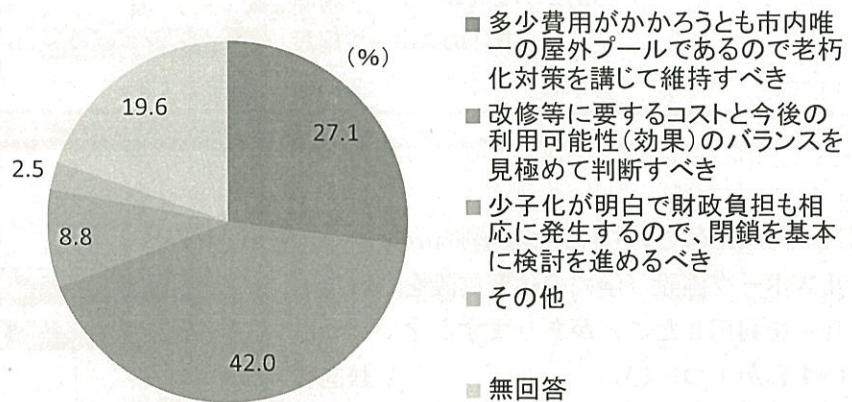
問21-① どの施設を利用
しましたか？（あてはま
るものすべてに○）



問21-② 利用した施設の設備についてどう思われますか？（いずれか1つに○）

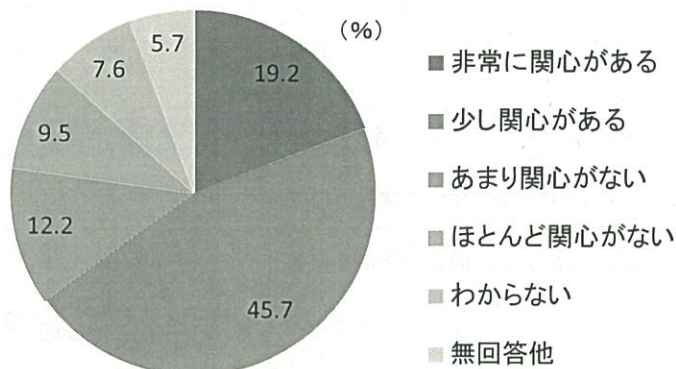


問22 穂高プールは、平成元年6月の開設以来、今年で29年目を迎えます。老朽化も進んでいる状況ですが、今後の施設の開場について、どう思われますか？（いずれか1つに○）

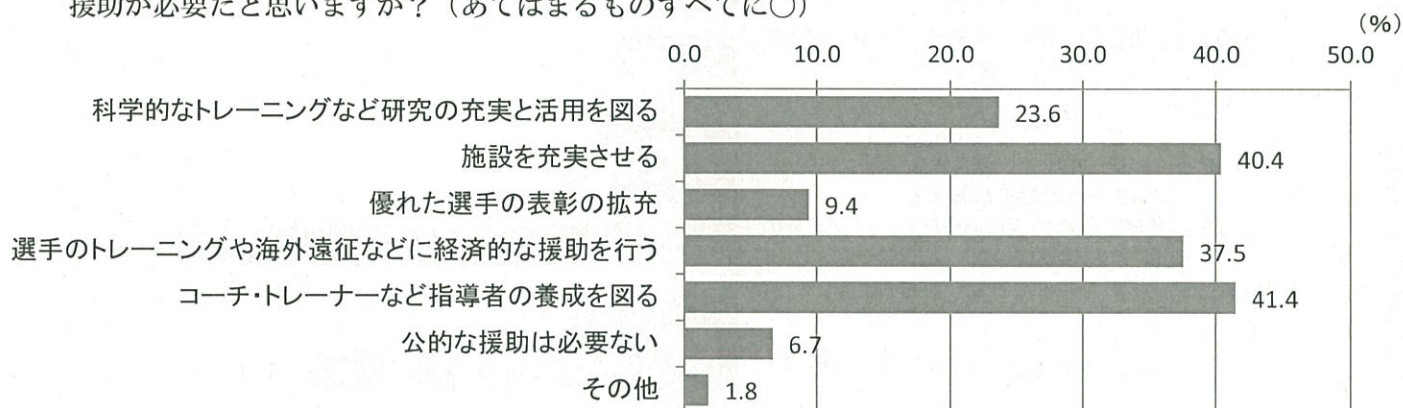


J. 競技力向上のとりくみについておうかがいします

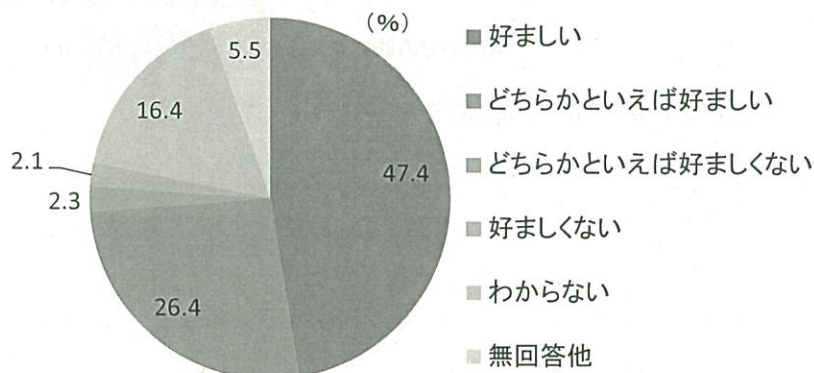
問23 あなたは安曇野市内在住の選手が地域や国内外での競技大会等で活躍することについてどのくらい関心を持っていますか？（いずれか1つに○）



問24 あなたは、安曇野市の選手が地域や国内外での競技大会等で活躍するためにはどのような公的援助が必要だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

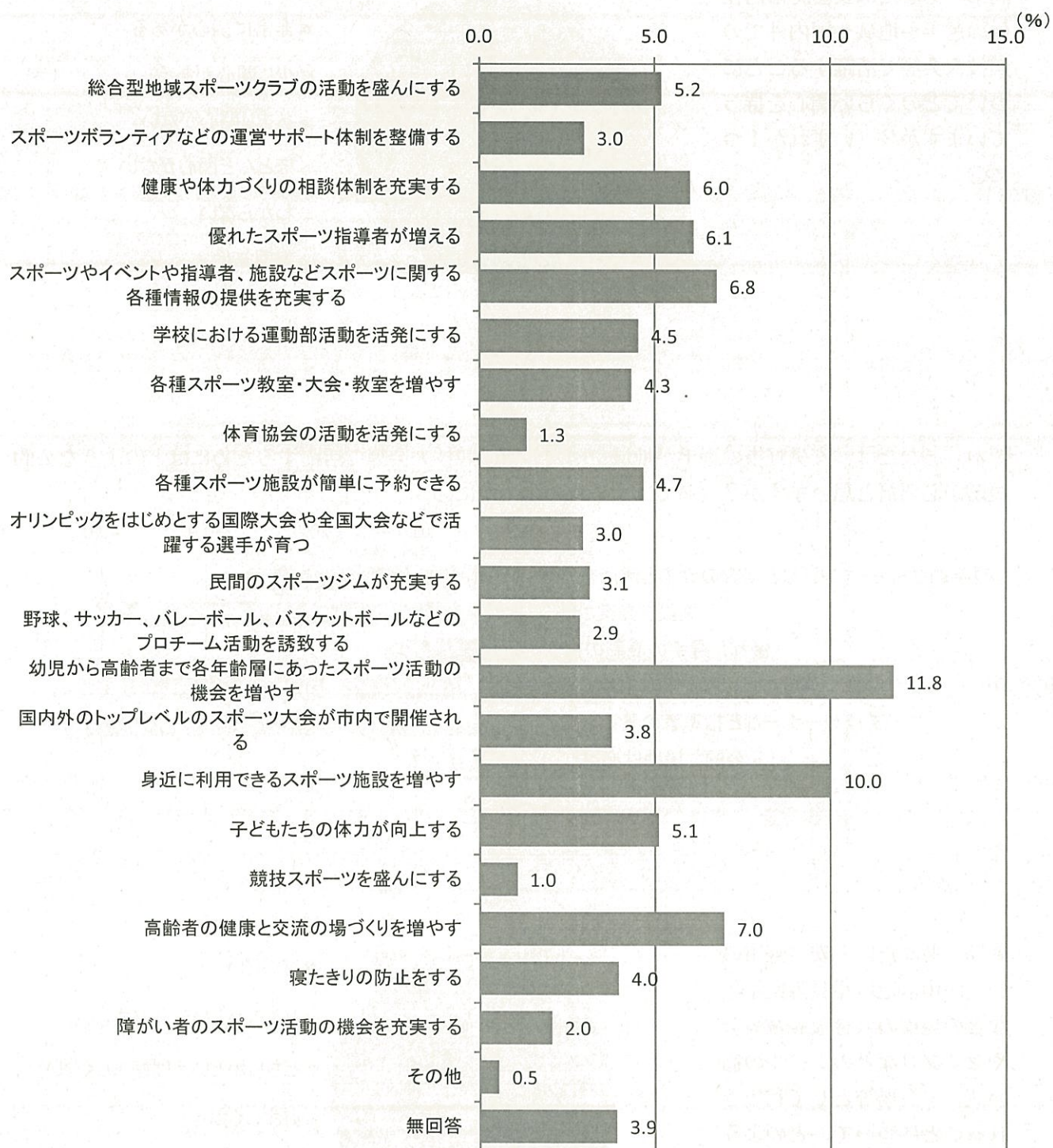


問25 あなたは、安曇野市の施設が中信地域や長野県単位などの規模の大きな競技大会やセミプロなどのレベルの高い試合の会場等として利用されることについて、どのように思いますか？（いずれか1つに○）



K. スポーツ推進全般についておうかがいします

問26 安曇野市のスポーツ推進を図るためにあなたはどのようなことが必要だと思いますか？
(あてはまるもの3つまでに○)



本調査で記述回答欄を設けた問について、回答数および主な回答を整理します。

(1) 子どものスポーツ環境、体力づくりに関してお気づきの点や苦労点【問11】

回答数は43件で、多く寄せられた主な回答は、以下のとおりです。

- ・送迎など保護者の関わり、負担が大きい点への指摘：11件
- ・指導者に対する不満指摘（人数の不足や適任者でないことなど）：6件
- ・施設に関する意見指摘（施設が少ない、施設の増設・リニューアルの要望など）：5件

その他、クラブやサークルなどに入らないとスポーツをする機会が少ないこと、昔のように自由にのびのびと遊ばせられないこと（学校校庭が使えない、不審者等への不安）、お金がかかりすぎることなどについても指摘されています。

(2) 安曇野市公共スポーツ施設の設備が「もの足りない」具体的内容【問21-③】

回答数は27件で、主な意見では、附帯施設として、冷暖房設備、更衣室やシャワー設備などの不足、備品のメンテナンスや不足などが指摘されています。その他、一流のプレーが観られる体育館や運動場等の大規模施設設置への要望も寄せられています。

(3) お気づきの点等自由意見【問27】

回答数は160件で、時間的にも距離的にも金銭的にも利用しやすいスポーツ施設や教室に対する要望や、スポーツに関する情報発信の充実・強化、一般市民向けに誰もが気兼ねなく参加できる身近なスポーツ活動の機会を求める意見など、個別の意見も含め様々な意見や指摘要望が寄せられました。これらの意見の一部を年齢別に掲載・紹介します。

○もっと身近にスポーツのできる施設をつくって欲しいです。部活でダンスをやっているのですが、学校に鏡がある練習施設がありません。鏡のあるヨガルームやダンスルームを建ててもらいたい。

[女性/16～19歳/三郷]

○仕事が遅くまであるので、そのあと（平日24時ごろまで）にいけるスポーツジムなどが近くあったらいいと感じます。結婚して1年、主人と一緒にいける、体を動かせる機会が欲しいです。

[女性/20歳代/豊科]

○安曇野市は移住者も多いので、情報がきちんといきわたるシステムを強化することが大切と思う。また、高齢者も多いので未病を努めることが大切。スポーツで未病の活動ができるといいですね。ウォーキングロードもたくさんあるので、コース案内など充実させてはいかがでしょう。

[女性/20歳代/三郷]

○子どもや大人のスポーツ団体、クラブ等の情報が全く入らない。地域にどのような活動をしているところがあるのかも、わかりません。新しい体育施設をつくるとかよりも、情報をしっかりと発信していただきたい。情報を発信しているつもりでは、何もしていないのと同じだと思います。

[女性/30歳代/明科]

○親子もしくは老人と孫で、気楽に運動に親しめる場が多くあると良いと思います。予約が簡単、安曇野市になくとも近隣の施設とタイアップして無料券を配るなど（スキー場、あづみの公園）。子どもたちの体力アップ、能力アップを学校に任せるのではなく、地域のスポーツクラブが充実し子どもを育てるようになると、子どもも地元で育ち、地元から強くなっていけると思う。大きな土地（ワシントン靴店工場やプール周辺など）に、総合的に施設をまとめてつくるなどして近隣の地域の人を呼び込めるようにすると、財政も安定するのではないかと思います。

[男性/30歳代/穂高]

○高齢化が進んでいくので誰でも気軽に参加できるイベントを多く開催し、それを通じてお年寄りたちが孤立しないように、横のつながりを持てるようなイベントをもっとつくって欲しい。団塊世代が参加しやすいイベントやボランティア関連のことも、スポーツに限らずもっと企画し、市全体が若い世代と繋がっていけるようにしたらいいと思う。

[女性/30歳代/三郷]

○気軽に簡単に参加できれば普及すると思います。

[男性/40歳代/豊科]

○小学生ぐらいまでの子どもたちに対し、運動能力の適正をみれる機会をつくり、早い段階で能力を引き出してあげることができたらよいと思います。高齢者の健康づくりのため、冬場でも使用可能なマレットゴルフ場が市内にあればよいと思います。バッティングセンターが市内にあれば、利用頻度は多いと思います。

[女性/40歳代/三郷]

○体力づくり、スポーツというと競技を連想しがちですが、自然豊かな安曇野ならではの、子どもも大人も高齢者も楽しみながら体力向上できるものがあればいいなと思います。

[女性/40歳代/明科]

○私くらいの年齢ですと会社と家事に時間を取られてしまい、長時間や長い年月を必要とする運動はまず無理。身近で手軽にできることで時間に縛られない、何かあればはじめやすいと思います。

[女性/40歳代/豊科]

○誰でも無料で使用できるジムがあったらいいと思う。

[男性/40歳代/堀金]

○地方では習えるスポーツの種類が少ないので、短期間で子どもたちが体験できる色々なスポーツ教室があったら良いと思います。そうすれば自分に合うスポーツに出会うことができる。例えばシンクロ10回コース、体操10回コース、スケート10回コース、新体操10回コースなど色々あったら全部習う子も出てくるかもしれません。そして良い指導者に来てもらうことが大事だと思う。

[女性/50歳代/三郷]

○今ある施設を利用し、低料金で多くの人が活用でき、健康寿命を延ばし、寝たきり防止につながることであればと思います。

[女性/50歳代/穂高]

○体育館だけの施設ではなく、観客席や休憩所など、冬でも暖かく過せるような機能が充実した施設がいいです。

[女性/50歳代/豊科]

○広い安曇野市ですので一つの場所に集中するのではなく、すみからすみまで使って広い地域の皆さんに、気軽に参加できるような企画を計画し、情報発信して欲しいと思います。

[女性/50歳代/三郷]

○スポーツ施設の建設を行う際は、市民が使用しやすい場所、公共交通機関の便の良いところに建設していただきたい。市民が気軽に行ける施設でなければ、建設する価値がないと思います。

[男性/60歳代/穂高]

○スポーツ活動の情報が各家庭にいきわたっているようには思えない。もっと仕組みを作り、参加できるようなキッカケ、動機付けが必要ではないかと思います。世代を超えた交流の場として、スポーツを市民にアピールできる仕組みがあればと思います。

[男性/60歳代/豊科]

○自身が運動が苦手なので考えられるのは体力づくりのための体操教室です。ヨガ、太極拳でもいいと思います。ハードな運動は年配者には無理。仕方のないことですが、スポーツ以外ですが既にやっていることがあり、体力づくりの教室のお知らせを見てよいものがあったても日程があわず、あきらめることが多いです。

[女性/60歳代/穂高]

○安曇野市といっても広範囲に及ぶので、市全体というのは色々な規制や無理が生じてくると思います。市民の中にはスポーツが得意だったり、参加意欲がある方も大勢いらっしゃると思いますが、全体的にみても子どもたちの外遊びの様子が見られないのは残念なことだと思います。行政ばかりの問題ではないでしょうが。学校なり父兄なりの問題意識の改革も必要だと思います。お金をかけなくてもできる遊びはいっぱいあるはずです。

[女性/60歳代/明科]

○市内の数多くの場所で、誰でも行かれ、気軽にできるスポーツ、運動の教室を希望します。先着何名とされると、私たちは遠慮してしまいます。

[女性/70歳代/三郷]

○市のスポーツ施設はそこそこある。それぞれの施設の情報もある。ぜひこのプログラムに参加したいという意欲が全く湧かないのはなぜでしょうか。民間の施設が少ないこともあるのでしょうか。私は3年前当地に移住してきたのですが、市が更に積極的に集中して情報を流して、活用されるよう促されたいかがでしょうか。期待しています。

[男性/70歳代/豊科]

○①体力づくりは他人まかせでなく、自ら率先すること。

②おこなわないと「おいていかれる」という危機感を持たせる施策を考えて欲しい。

[男性/70歳代/堀金]

○公民館や体育館を、老人が気軽に筋力トレーニングができる場所にして欲しい。足が不自由な方の訓練や手足を動かす等、病院やデイサービスに行かなくても気軽に集まれる場所が欲しい。高齢者の体力作り教室が公民館施設等を使うのに、使用料を取るのはおかしい。

[女性/70歳代/三郷]

○子どものころから体力づくりを推進して丈夫な体を作り、その人に合った運動をやっていくことは何よりも大切だと思います。私はいま83歳ですが、子どもの時小学校への行き帰りで6km歩いてきたため、いまでも足は丈夫ですし健康です。10年以上病気もしません。みんなが元気でいて、その上に若いときからスポーツをとしたいと思います。

[女性/80歳以上/豊科]

○予算的には難しいことはわかるが、将来的には学生から一般まで、レベルの高いスポーツ大会が行われていて、その大会が観戦できたり応援できたりする場、あるいは招致できるような施設も一つくらいは欲しい。

[男性/80歳以上/豊科]